

日露戦争記念トシヲ特ニ公有ノ造林ヲ獎勵シ明治四十年迄其計畫決定セシモノ左ノ如シ

郡市	目的	数量	造林面積	樹種	植栽本数	施業年度	備	要	
大川	造林済ノ部	二村以上組合基本財産	三	三、〇〇〇	松、杉	二、八〇〇	自明治三十七年度至同三十九年度	同	松ハ自然生ヲ保護シ成林セシムルニヨリ本數ヲ省ク
		村基本財産	二	二、〇〇〇	杉、松	三、五〇〇	同	同	同
大川	造林未済ノ部	計	五	五、〇〇〇	杉、松	六、三〇〇	同	同	同
		學校基本財産	三	三、〇〇〇	杉、松	三、五〇〇	同	同	同
大川	造林未済ノ部	未定	二	二、〇〇〇	杉、松	未定	明治四十年	同	同
		計	七	七、〇〇〇	杉、松	九、八〇〇	同	同	同
大川	造林未済ノ部	青年教育保護獎勵經費	一	一、〇〇〇	杉	一、〇〇〇	自明治三十八年度至同四十年	同	中等教育ヲ受クルモノ、獎勵費ニ充ツ
		村基本財産	二	二、〇〇〇	杉、松	二、〇〇〇	同	同	同
大川	造林未済ノ部	計	三	三、〇〇〇	杉、松	三、〇〇〇	同	同	同
		大字基本財産	一	一、〇〇〇	杉、松	一、〇〇〇	同	同	同

郡市	目的	数量	造林面積	樹種	植栽本数	施業年度	備	要	
木田	造林済ノ部	計	二	二、〇〇〇	杉、松	二、〇〇〇	自明治三十八年度至同三十九年度	同	同
		學校基本財産	一	一、〇〇〇	杉、松	一、〇〇〇	同	同	同
木田	造林未済ノ部	村基本財産	一	一、〇〇〇	未定	未定	明治四十年	同	内一ヶ所ハ面積未定
		大字基本財産	一	一、〇〇〇	未定	未定	同	同	同
小豆	造林済ノ部	計	三	三、〇〇〇	杉、松	三、〇〇〇	自明治三十七年度至同四十年	同	同
		町基本財産	一	一、〇〇〇	杉	一、〇〇〇	明治四十年	同	同
小豆	造林未済ノ部	町基本財産	一	一、〇〇〇	杉	一、〇〇〇	明治四十二年	同	同
		大字基本財産	一	一、〇〇〇	杉、松	一、〇〇〇	自明治四十三年至同四十四年	同	同
小豆	造林未済ノ部	計	二	二、〇〇〇	杉、松	二、〇〇〇	同	同	同
		學校基本財産	一	一、〇〇〇	杉、松	一、〇〇〇	明治四十一年	同	同



香川		郡市		目的		数		種		植栽本数		施業年度		備考	
計	造林未済ノ部	村基本財産	大字基本財産	宇基本財産	學校基本財産	神社保存	計	2,700,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,200	自明治三十七年度至同三十九年度	2,700,000	自明治三十七年度至同三十九年度		
村基本財産	大字基本財産	宇基本財産	學校基本財産	神社保存	計	2,700,000	2,700,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,200	自明治三十七年度至同三十九年度	2,700,000	自明治三十七年度至同三十九年度			
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度			
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度			
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度			
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度			

仲多度		綾歌		郡市		目的		数		種		植栽本数		施業年度		備考	
計	造林未済ノ部	村基本財産	大字基本財産	神社基本財産	計	7,000,000	7,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,200	自明治三十七年度至同三十九年度	7,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度					
															7,000,000	1,200	自明治三十七年度至同三十九年度
村基本財産	大字基本財産	神社基本財産	計	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,200	自明治三十七年度至同三十九年度	7,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度					
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度					
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度					
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度					
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	杉、松、榎、樟、白栂	1,000	自明治三十七年度至同三十九年度	1,000,000	自明治三十七年度至同三十九年度					



郡市	目的	数	造林面積	樹種	植栽本数	施業年度	備
三	造林済ノ部	村基本財産	三、三〇〇	榎、杉、松	九、〇〇〇	自明治三十七年度 至同三十九年度	
		大字基本財産	一	杉、松	三、〇〇〇	明治三十九年度	
		學校基本財産	一	榎、松、山楨	一、〇〇〇	自明治三十八年度 至同四十年年度	
		計	五	七、三〇〇	榎、杉、松、山楨	一三、〇〇〇	自明治三十七年度 至同四十年年度
火	造林未済ノ部	大字基本財産	一	松	未定	自明治四十年年度	目下苗木培養中
		市基本財産	一	榎、樟	五〇〇	明治四十年年度	
大川	造林済ノ部	縣基本財産	一	榎、杉、松、山楨	六、九三六	自明治三十八年度 至同三十九年度	
		縣基本財産	一	榎、樟、松	三、二二五	明治四十年年度	
横歌	造林済ノ部						

總計		市町村	大字基本財産	市基本財産	大字基本財産	市基本財産	大字基本財産	市基本財産	大字基本財産	市基本財産
二村以上組合	三、二〇〇	榎、杉	三、二〇〇	榎、杉	三、二〇〇	榎、杉	三、二〇〇	榎、杉	三、二〇〇	榎、杉
町村基本財産	一、七〇〇	榎、杉、松	一、七〇〇	榎、杉、松	一、七〇〇	榎、杉、松	一、七〇〇	榎、杉、松	一、七〇〇	榎、杉、松
學校基本財産	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨
青年教育保護	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉
獎助費	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉
大字基本財産	一〇	榎、杉、松、山楨	一〇	榎、杉、松、山楨	一〇	榎、杉、松、山楨	一〇	榎、杉、松、山楨	一〇	榎、杉、松、山楨
字基本財産	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉
神社保存	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉
神社基本財産	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉
縣基本財産	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨	一	榎、杉、松、山楨
計	三	榎、杉、松、山楨	三	榎、杉、松、山楨	三	榎、杉、松、山楨	三	榎、杉、松、山楨	三	榎、杉、松、山楨
市町村	八	榎、杉、松、山楨	八	榎、杉、松、山楨	八	榎、杉、松、山楨	八	榎、杉、松、山楨	八	榎、杉、松、山楨
大字基本財産	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉	一	榎、杉



市目	目的	數	造林面積	樹種	植栽本數	施業年度	備要
市目	育本財產會	一	五〇〇〇	樟、松	五〇	自明治四十三年度	本數未定ノモノ一ヶ所アリ
	學校基本財産	一	一、四〇〇	樟、松	五、〇〇〇	自明治四十四年度	
合	計	二	一、九〇〇	樟、松	五、〇五〇	自明治四十五年	植樹スヘキ本數不明ノモノハ之ヲ省ク
	計	五、一三三、三〇〇	五、一三三、三〇〇	樟、松、杉、檜、楠、榿、白栂、榎、梅	一、〇九、〇七	自明治三十七年度	

右ノ外社寺境内又ハ一個人ニ於テ該紀念樹トシテ樟苗等ヲ栽植セシモノ亦少ナカラス

部分林公有林社寺有林私有林  
學校林ノ殖樹部分林

三豊郡五郷村ニ属スル面積一千七百六十四町四段步余ノ山林ハ古來大野原外十六村ノ入會野山ナリシカ明治八年改租ノ際故アツテ國有ニ歸セシカ其當時濫伐暴採ノ餘已ニ荒廢ニ歸シ回復ノ途ナカリシヲ五郷大野原柞田中姫萩原豊濱六町村及和田村大字和田紀伊村大字丸井ノ有志協議ヲ爲シ明治二十二年ニ至リ始テ部分林規則ニ據リ殖林ヲ計畫シ各種ノ方法ヲ設ケ保護成林ノ策ヲ講セシ爲メ稍其面目ヲ一新シタリ爾後猶注意シ殊ニ杉苗ヲ栽植シタル等ノ結果目今ニ在テハ松樹ノミヲ數フルモ既已五百万株ノ多キニ達シタルハ他年主伐ノ時期ニ至レハ其收得ノ利益ハ前記各町村ノ經費ヲ支辨シ尙綽々トシテ餘裕アルヲ見ル可シ

公有林

該林ハ六千四百六十五箇所面積二万五千六百三十八町九反步ニシテ從前多クハ林芻取ノ區域ト爲シ偶餘藥ヲ存スルモ隨テ生スレハ隨テ刈リ唯草叢ノ蔓延ニ委セシカ社會ノ進步ニ伴ヒ造林ノ思想ヲ喚起シ自然生ノ撫育ヲ勉ムルモノアルニ至リシカ專ラ林相ノ改良ニ着手シタルハ明治三十五年以降トス其成績ヲ擧レハ左ノ如シ

年別	樹種	本數	面積
自明治二十一年	松及雜木自然生	八〇五、八〇〇	三二二、三〇〇
自明治二十二年	松及雜木自然生	二、三六〇、四〇〇	一、一、二四、〇〇〇
自明治三十七年	杉	二四〇、三一一	四〇、〇七〇
	屬 柏	一一一、五五〇	一六、七七〇
自明治三十七年	松	二〇、一〇〇	六、九〇〇
	松 自然生	一、〇〇一、六九八	四五九、六三一
計	計	一、三三三、六五九	五三三、三三三



年 別	樹 種	本 数	面 積
自明治三十八年 至同治四十年	計		
	杉	一四八、一五〇	二二、〇八一六
	松	一四一、三三五	二九、八六一四
	檜	七四、八四四	八三、二四二六
	計	八、九〇〇	一、八二〇〇
計	計	七六、三四〇	二〇、八九二一
	松	一、八八八、一一三	一、一六九、三五一七
	計	二、三三七、六八二	一、三三七、二七〇四
合 計		六、八七七、五四一	三、二八六、九四二七

此中ニ於テ特ニ掲載スヘキモノハ當初已ニ遠大ノ造林ヲ計畫シ爾後年一年美觀ヲ呈シ他ノ模範トナルヘキモノ

其第一ハ三豊郡二ノ宮村ニ於テ公有林三百八町歩餘アリシカ往時ヨリ村民自由ニ乱伐セシ慣習ナレハ其結果遂ニ荒廢シ林利殆ント皆無ニ歸セシノミナラス其害耕地ニ波及シ水利ノ便ヲ失フニ至レリ然ルニ森小八郎篠原期一郎等相謀リ勉テ村民ヲ説諭シ自由乱伐ノ慣習ヲ矯正シ明治九年始テ羽方村ニ風スル所ニ植樹ヲ企圖シ同十五年ニ至リ過半其目的ヲ達セシカ同二十二年町村制實施ノ際羽方佐股ノ二村

ヲ合セ二ノ宮村ヲ置キ篠原期一郎其村長ノ任ニ當ルヤ元羽方村公有林整理ノ成績ニ鑒ミ從來ノ方針ヲ變踏シ同三十三年始メテ本村公有林一般ニ人工栽植及天然造林ヲ完了セリ内學校林ニ充テタルモノ六十六町四反五畝十五歩アリ爾來樹木ノ生育ニ隨ヒ土砂ヲ并止シ水源ヲ涵養シ爲メニ荒蕪地ノ良田ニ復セシモノ少ナカラス其一年ノ收益殆ント壹千七百圓ヲ得ルニ至レリ

其第二ハ小豆郡ニ元大部外二十六村ノ共有タリシ嶮岨山ト稱スル裸山二千餘町歩アリシカ明治二十二年其中二百五十三町餘歩ヲ大部村ノ基本財産ニ取得シ天然下種ノ方法ニ依リ松樹ノ造林ヲ謀リ同三十年基本財産管理法ヲ設ク其結果今日ニ至リ頗ル鬱鬱タル美觀ヲ呈セリ爾來其收入金ヲ以テ學校ヲ建築シ又同林中二十餘町歩ヲ割テ學校基本林ト爲シ尙之レニ杉及扁柏ヲ栽植シ漸次林相ヲ更新センコトヲ勉メリ當時ノ本郡長森遷自撰ノ碑文ヲ建設シ以テ其造林ノ頗末ヲ表彰セリ

其第三ハ木田郡鹿治村ニ百六十八町歩ノ村有山林アリ土塊肥沃ナリシモ從來濫伐年ヲ累ヌルヲ以テ終ニ寸青ヲ見ル能ハサリシカ有志天弘益雄其荒廢ヲ惜ミ明治十一年造林ノ議ヲ唱フルモ村民ノ容ル、所トナラス同十八年更ニ此議ヲ村會ニ提出シ懇々其必要ヲ説キシカ獨其議ヲ容レサルノミナラス却テ該山林ヲ賣却スルノ議



ニ決セリ然シテ其將ニ議決ヲ實行セントスルニ當リ天弘益雄其一村天賦ノ富源ヲ失却スルヲ慨歎シ其非ヲ唱ヘテ止マサリシカ村會終ニ其熱誠ニ感シ明治二十年ニ至リ前議ヲ翻シ造林ニ着手セリ然レハ多年樵夫ノ伐採牧童ノ芟除ニ委シタルヲ以テ容易ニ舊慣ヲ改ムルコト能ハス爲メニ其監守ノ苦辛名狀スヘカラサルモ終ニ銳意以テ素志ヲ貫徹シ漸次林相ヲ一變セリ同三十五年始テ其間伐ヲ爲セシカ金貳百圓ヲ得タレハ村民始テ其必要ヲ覺リ相共ニ監守ノ任ニアタルニ至ル是ニ於テ天弘益雄ノ功勞ヲ表彰シ若干金ヲ贈レリ天弘益雄村長ニ撰ハルニ及シテ一層意ヲ茲ニ注キ該山林中百餘町歩及新ニ拂下ヲ受ケタル國有林二十八町歩ヲ日露戰爭紀念林ト爲シ之レニ樟樹ノ栽植ヲ企圖シ苗木養成ノ爲メ苗圃ヲ設クルニ至ル他年成林ノ期ニ際スレハ本村自治ノ基礎益鞏固ナルニ至ルヘシ

其第四ハ三豊郡麻村ニ四百八十七町歩餘ノ村有林アリ是亦從來村民ノ濫伐ニ委シ終ニ不毛ノ地ト化シタレハ或ハ之ヲ個人ニ分割セントシ或ハ之ヲ公賣セント議論紛々タリシカ村長藤村寅治大ニ見ル所アリ百出ノ苦情ヲ排シ斷然造林ノ説ヲ立テ明治二十四年其内九十七町歩餘ヲ村民ニ貸付シ造林ヲ計畫セシメ殘三百八十町歩餘ハ漸次松ノ天然下種又ハ杉樺ノ栽植等ヲ以テ造林セシモ猶往々舊慣ヲ口實トシ

之ヲ採伐セントスルモノ多ケレハ管理頗ル困難ナルモ村長苦心之ヲ處置セシヲ以テ未タ十有餘年ノ歲月ヲ經過スルニ過キサルモ既ニ樹色ノ鬱蒼タルヲ呈シタレハ之ヲ時價ニ徵スルモ自カラ十數萬圓ノ價值ヲ有セリ若シ之ヲシテ伐期ニ達セシメハ其年々ノ收入果シテ何如ソヤ

### 社寺有林

現在ハ二千二百八十五個所面積一千七百六十六反歩ニシテ内荒廢ノ防止經濟ノ保續ヲ圖ランカ爲メ明治三十五年以降造林ニ着手シタルモノ左表ノ如シ其他ハ舊ニ依テ天然ニ委セシモノ滔々皆是ナリ

年 別	樹 種	本 數	面 積
自明治三十七五年 至同 三十五年	計 杉 計 杉 柏 柏	一一、六一五 一、三三〇 一三、九六五	一、七五二五 二〇二五 一、九六〇〇
自明治三十八年 至同 四十八年	計 杉 柏	四、一三〇 三、九七九 三六、一〇九	八、一七 四、六二〇四 五、四三三二
合 計		五〇、〇七四	七、三九二二



私有林

現在十五万三千九百六十一箇所面積五万九千九百九十九町八反歩ニシテ殆ント縣下森林總面積ノ六歩ヲ占メリ其樹種ハ主トシテ松又ハ雜木ノ天然生林トス偶或ハ更新ヲ企圖スルモノアルモ率ネ規模偏小ニシテ見ルヘキモノナシ然レモ明治三十五年ニ於テ補助金下附ノ制ヲ設ケ植樹ヲ獎勵セシヨリ人工造林ノ氣運頓ニ其度ヲ高メ爾來年一年其効果ヲ奏スルヲ得タリ即之ヲ左ニ表示ス

年別	樹種	本	面積
自明治二十四一年 至同 三十四二年	杉	一五二、五〇〇	一八、二〇〇
	扁	二七、二五〇	三、四四〇
	櫟	三、〇九〇	一、〇三〇
	計	一八一、八四〇	二二、六七〇
自明治三十四二年 至同 三十四二年	杉	一、八五九、一八〇	二二、五三〇
	扁	三三三、八〇〇	五二、三〇〇
	櫟	二五、二六〇	七、七五一〇
	計	二、一九八、二四〇	二七、一五八一〇
計	一、二八七、二二六	一六九、九四〇〇	

年別	樹種	本	面積
自明治三十七五年 至同 三十八年	扁	一九二、二一四	七五、三四一四
	櫟	一五、四三二	六六、〇八二五
	松	一四八、六六〇	三、八八二〇
	計	九八、六四六	四四、二二二五
自明治三十八年 至同 三十八年	扁	七、四〇〇	二、一三〇〇
	山	一、六四九、三七七	三六、七三二四
	杉	三六五、五八九	五三、四九〇〇
	扁	一一八、九六四	三六、九五〇一
自明治三十八年 至同 三十八年	櫟	一一九、二一八	二二、四九二二
	松	一一一、三六一	三八、三一〇七
	松	五八、八二五	一九、五〇二二
	計	一、一五七	二五、二二二
計	八九五、一一四	一七、〇一一一	
計	四、九二四、五七一	八二六、九九一五	

學校林

學校基本財産造成ノ一トシテ寄附地又ハ公有林ヲ以テ之ニ充テ明治四十年マテニ造林計畫ヲ爲シ既ニ着手シ又ハ成功シタルモノヲ擧レハ左表ノ如シ



造林者	樹種	本數	面積	積	施行年度
三疊郡二ノ宮村	松自然生	一九八、〇〇〇*	六六、四五二五		自明治三十二年 至同三十三年度
小豆郡大郎村	杉、扁柏	六〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇		自明治三十六年度
木田郡下高岡村外四箇村組合	樟、杉	三八、六一七	七四、二四二六		自明治三十七年度
綾歌郡府中村	樟、扁柏	一五、〇〇〇	三〇、〇〇〇		自明治三十七年度
同郡金山村大字福江	樟	二、〇〇〇	四、〇〇〇		自明治三十七年度
香川縣	杉、扁柏、樟	二九四、一一〇	一、〇〇〇、〇〇〇		自明治三十七年度

保安林

明治三十一年ヨリ實施セラレタル森林法ニ基キ同三十二年本縣令第九號ヲ以テ保安林編入解除申請手續ヲ頒布セシモ申請者少ナキヲ以テ明治三十六年度ニ於テ保安林調査員ヲ置キ專ラ調査ニ着手セリ乃チ同四十年マテニ決定セシモノ左表ノ如シ

表中三十一年編入ノ分ハ森林法施行以前ノ禁伐林風致林又ハ伐木停止林等ニシテ同法施行ト共ニ保安林ノ効力ヲ奏セシモノトス

年別	種類	現在	編入	解除
----	----	----	----	----

年別	種類	現在	編入	解除
明治三十一年	土砂并止	一一〇、三八二二		
	防風	一一、九三二七	一一〇、三八二二	
	魚附	四六三、〇一〇六	一一、九三二七	
	目致	八五〇三	四六三、〇一〇六	
	計	四七一、七五〇九	一一〇、三八二二	
	土砂并止	一〇五八、九三一七	四七一、七五〇九	
	防風	一五二、二二三四	一〇五八、九三一七	
	潮害防備	一一、九三二七	一五二、二二三四	
	魚附	四六三、〇一〇六	一一、九三二七	
	目致	八五〇三	四六三、〇一〇六	
明治三十二年	土砂并止	一一〇、三八二二		
	防風	一一、九三二七	一一〇、三八二二	
	魚附	四六三、〇一〇六	一一、九三二七	
	目致	八五〇三	四六三、〇一〇六	
	計	四七一、七五〇九	一一〇、三八二二	
	土砂并止	一〇五八、九三一七	四七一、七五〇九	
	防風	一五二、二二三四	一〇五八、九三一七	
	潮害防備	一一、九三二七	一五二、二二三四	
	魚附	四六三、〇一〇六	一一、九三二七	
	目致	八五〇三	四六三、〇一〇六	
明治三十四年	土砂并止	一一〇、三八二二		
	防風	一一、九三二七	一一〇、三八二二	
	魚附	四六三、〇一〇六	一一、九三二七	
	目致	八五〇三	四六三、〇一〇六	
	計	四七一、七五〇九	一一〇、三八二二	
	土砂并止	一〇五八、九三一七	四七一、七五〇九	
	防風	一五二、二二三四	一〇五八、九三一七	
	潮害防備	一一、九三二七	一五二、二二三四	
	魚附	四六三、〇一〇六	一一、九三二七	
	目致	八五〇三	四六三、〇一〇六	



年別	種類	現在	編入	解除
明治三十五年	魚目附	四六六、二〇五		
	風目	八五〇三		
	計	四六七、七〇八		八四、一六一七
	土砂并止	一、一〇〇、七八〇三		八四、一六一七
	防風	三二六、八二二六		
	潮害防備	一一、九三一七		
	魚目附	四七〇六		
	目	四六六、二〇五		
	風目	八五〇三		
	計	三八三、五三二一		三、五〇二七
	土砂并止	一、一九〇、八三一八		三、五〇二七
	防風	七九四、〇八二二		
明治三十七年	魚目附	六〇三、四二二七		
	風目	八五〇三		
	計	三八一、〇二二二		二二、五八二四
	土砂并止	一、七九二、七七二七		二二、六四〇九
	防風	八一三、〇〇〇九		一、五九一〇
	潮害防備	一五、一六二三		
	魚目附	四七〇六		
	目	六〇三、四二二七		
	風目	八五〇三		
	計	六六、四三〇六		二五、一五
	土砂并止	一、八五七、九八一五		
	防風	一、三九五、一九二六		
明治三十八年	魚目附	六六九、五九一八		
	風目	一、三二〇一		
	計	三五八、四二二八		七五、八九一五
	土砂并止	一、八五七、九八一五		七五、八九一五
	防風	一、三九五、一九二六		七、四八二五
	潮害防備	一五、一六二三		一八、九六一六
	魚目附	四七〇六		
	目	六七八、六五一四		
	風目	一、三二〇一		
	計	二九六、六八二三		
	土砂并止	一、四三九、九五一一		一八、七六一六
	防風	一五、一六二三		三、四五二〇
明治四十年	魚目附	六七八、六五一四		
	風目	一、三二〇一		
	計	二九六、六八二三		〇〇〇六
	土砂并止	一、四三九、九五一一		五七、六六〇三
	防風	一五、一六二三		
	潮害防備	四七〇六		
	魚目附	六七八、六五一四		
	目	二、四三二、二五一〇		六三、〇一一
	風目	一、三二〇一		六三、〇一一
	計	二、四三二、二五一〇		六三、〇一一
	土砂并止	一、四三九、九五一一		六三、〇一一
	防風	一五、一六二三		八、五二〇一

年別	種類	現在	編入	解除
明治三十九年	魚目附	六六九、五九一八		
	風目	一、三二〇一		
	計	三五八、四二二八		九、〇五二六
	土砂并止	一、八五七、九八一五		一四、一五一〇
	防風	一、三九五、一九二六		六〇七、〇〇〇三
	潮害防備	一五、一六二三		六三、七二〇五
	魚目附	四七〇六		
	目	六七八、六五一四		
	風目	一、三二〇一		
	計	二九六、六八二三		六三、七二〇五
	土砂并止	一、四三九、九五一一		六三、七二〇五
	防風	一五、一六二三		六三、七二〇五
明治四十年	魚目附	六七八、六五一四		
	風目	一、三二〇一		
	計	二九六、六八二三		六三、七二〇五
	土砂并止	一、四三九、九五一一		六三、七二〇五
	防風	一五、一六二三		六三、七二〇五
	潮害防備	四七〇六		六三、七二〇五
	魚目附	六七八、六五一四		六三、七二〇五
	目	二、四三二、二五一〇		六三、七二〇五
	風目	一、三二〇一		六三、七二〇五
	計	二、四三二、二五一〇		六三、七二〇五
	土砂并止	一、四三九、九五一一		六三、七二〇五
	防風	一五、一六二三		六三、七二〇五

以上ノ現在ハ二千三百七十九町二畝十一歩トス  
 又保安林ヲシテ其効果顯著大ナラシメンカ爲メ明治四十年保安林施業補助規程ヲ  
 頒布シ同年ニ於テ面積二町二反六畝二十歩ニ重芝積苗工千二百二十三坪重芝谷留



工十八坪及筋芝工九百八間ヲ施シ之ニ松苗二万八千二百七十六本樺苗一百本ヲ植付タルモノニ對シ金四百參拾八圓參拾八錢八厘ヲ補助ス

摸範林

殖樹獎勵ノ結果著シク林業勃興セシヲ以テ尙其發達ヲ謀リ造林及斫伐ノ方法ヲ示スカ爲明治三十八年ヨリ同四十年マテ三個年ノ繼續事業ニテ左ノ摸範林ヲ設置ス

位 置	面 積	栽 植 樹 種	本 數
大川郡 松尾村 富田村	一一八、六七二五 <sup>カ</sup>	杉 松 樺 山 松 樺 松 樺 松	四〇四、七五〇 <sup>本</sup> 八八、三八〇 六三、七三〇 四九、二〇〇 一一、七六六 一、七〇〇 五七、二六三 一〇九、八六〇 八五、六五〇 七六、三五〇 二、〇〇〇
綾歌郡 坂本村 中村	七四、七〇〇 <sup>一</sup>	樺 松 樺 松 樺 松 樺 松	二、〇〇〇

以上合計面積ハ一百九十三町三反七畝二十七步植樹本數ハ九十五万六百四十九

本トス

石 材

石材ハ由來本縣ノ特産物ニシテ瀬戸内海ニ點在スル各嶋嶼又ハ本土北部ノ海岸ヨリ花崗石ヲ産出スル實ニ豊富ニシテ輸出ノ歲額拾万圓ヲ下ラス特ニ小豆郡福田村ノ産額ハ八万圓内外トス其材質ニ至テハ木田郡庵治村ヨリ産出スルモノヲ上品トシ小豆郡周圍海岸ヨリ産出スルモノ之レニ次キ其他各嶋及本土海岸ヨリ産出スルモノ又之レニ次ク以上ノ石材ハ第一建築用及墓標碑石等ニ供スルノ需用アリ別ニ小豆郡風嶋豊嶋村ヨリ産スル凝灰石ハ耐火ノ効アレハ土人窰等ニ製シ之ヲ近國ニ輸出スルモノ頗ル多シ抑本縣ノ石材ニ於ケルヤ往昔豊大關ノ大阪城ヲ築クニ當リ多ク小豆郡ヨリ之ヲ徵セリ今猶往々不用ニ風セシモノヲ海岸ニ遺棄セシモノアリ是時ニ當テ加藤清正片桐且元石材採掘ノ監督トシテ小豆島ニ出張シ清正ハ土庄ノ里正笠井某ノ家ニ滞在シ且元ハ草壁村里正管某ノ家ニ滞在セシト云フ

近年ニ於テハ宮城御造營又神戸大阪ノ築港等皆其石材ヲ本縣ヨリ供給スルノ多キハ世人ノ目撃スル所ナリ

明治三十二年以降石類ノ産額ハ左表ノ如シ



石類産額

郡市名	三十八年		三十七年		三十六年		三十五年	
	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格
大田郡	1,800,000	110,000	1,700,000	110,000	1,800,000	110,000	1,800,000	110,000
木田郡	1,200,000	110,000	1,200,000	110,000	1,200,000	110,000	1,200,000	110,000
小豆川郡	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000
香取郡	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000
綾歌郡	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000
仲多度郡	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000
三島郡	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000
高松市	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000
丸亀市	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000	1,000,000	110,000
合計	10,000,000	1,100,000	10,000,000	1,100,000	10,000,000	1,100,000	10,000,000	1,100,000

水産

總説

本縣漁業ノ由來ハ記録ノ微スヘキモノナキモ高松丸龜多度津三藩ノ際ニ在テハ法規條目ヲ定メ保護取締ノ道ヲ立テ漁業者及漁具ノ制限ヲ爲シ或ハ漁場ノ區域ヲ定メテ運上金冥加銀或ハ水夫役ヲ賦課シ著名ナル漁場或ハ魚市場ニ藩吏ヲ出役セシメ或ハ幕府貢物ノ捕獲等慣行ニ依テ之ヲ獎勵シ其嚴酷ナル制裁ハ能ク濫漁ヲ防キ能ク秩序ヲ維持シタリシカ維新ノ後封建制度ノ廢滅ト共ニ漁業ノ制度モ亦自カ



ヲ變更シ僅ニ舊慣ニ依ルノ外別ニ據ルヘキ制度カダ單ニ雜稅ノ名ニ依リ各種ノ漁業ニ對シ課稅ヲ爲シタルニ過キサルヲ奇貨トシ漁人等ハ自己ノ收利ノミ多カラシトヲ欲シ濫獲ノ弊害ヨリ終ニ漁場ノ紛擾漁業ノ葛藤到ル所ニ其弊ヲ聞クニ到レリ是ニ於テ名東縣合併中明治七年四月漁業ニ從事スル者ハ悉ク其區分ヲ明瞭ニ認メ免許ヲ受ケシメ鑑札ヲ下付セリ是時ニ當テ政府亦漁業ニ關スル法令ヲ發布セリ即チ明治八年太政官第二十三號同第九十五號同第二百十五號是ナリ以テ海面ノ官有タルヲ明カニシ從來ノ如ク捕魚採藻ノ權利ヲ占有セントスルモノハ必ス海面ノ區域ヲ一定シ圖面ヲ以テ届出テ且相當ノ税金ヲ納ムヘキ旨ヲ公布セラレ更ニ明治九年十二月太政官第七十四號ヲ以テ營業取締ハ可成習慣ニ從ヒ處分可致云々ノ規定ヲ公達セラル是漁業上最モ有力切要ナル法令ナリキ愛媛縣ハ本令ニ因リ明治十年三月丁第三十六號ヲ以テ沿海各區大小區長ニ命シ從來ノ慣行ヲ精覈調査セシメ官吏ヲ派遣シテ實地ヲ調査シ之ヲ政府ニ稟議シテ同年十二月甲第百五十四號ヲ以テ漁場及營業取締收稅仮規則ヲ布達シタリシニ其出願ニ當リ漁場ノ境界及入漁ニ關スル種々ノ紛擾ヲ生シ遂ニ官吏ヲ派遣シ實地ヲ調査シ之カ調停ヲ爲シ漁場ノ借區及諸種ノ漁業ヲ許可シタリ而シテ明治十五年甲第六十二號ヲ以テ借區ノ制ヲ

廢シ漁業者各自ニ營業免許鑑札ヲ下付シ漁業組合準則ニ依リ一行政區ノ下ニ一ノ組合ヲ組織セシメタリ爾來屢規則ヲ改廢シ漁業者共同ノ利益ヲ増進セシメ漁業ノ秩序ヲ保持スル等ニ努メタルモ未ダ全ク紛爭ノ根ヲ絶スルニ至ラザリキ依之明治三十四年四月法律第三十四號ヲ以テ漁業法ヲ發布セラレ同法第十三條ニ依リ明治三十五年八月本縣令第四十七號ヲ以テ漁業取締規則ヲ發布シ水産動植物ノ蕃殖ヲ保護シ漁業ノ取締ヲ嚴行シ各漁村ニ漁業組合ヲ設ケシメ之ヲ擴メ縣下ニ一ノ水産組合ヲ設置シ斯業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其他水産業ニ關スル共同ノ利益ヲ増進スルヲ努ム特ニ明治二十六年度ヨリ水産教師ヲ雇聘シ之ヲ巡回セシメテ講習講話ヲ開設シ當業者ヲ指導セシカ明治三十四年之ヲ廢止シ同時ニ水産試驗場ヲ設置シ以テ斯業ノ發展ヲ鼓舞セリ

### 組合

#### 水産組合

本縣ノ如キハ人口漸々増殖シ隨ツテ漁民亦増加シ終ニ漁場ノ狹隘ヲ告クルニ至リシカ是ヨリ先キ漁民等ハ廢藩後舊來ノ檢束ヲ脱スルヲ奇貨トシ専ラ私利ヲ營ミ目前ノ小利ノミ是レ謀リ永遠ノ思慮ニ及ハス酷捕濫獲至ラサルナク爲ニ水族漸次減



少シ從テ漁業衰頽セントスルノ兆アリ是ニ於テ明治十九年農商務省令第六十號漁業組合準則ニ依リ各郡ニ漁業組合ヲ組織セシメ漁業者ヲシテ其規約ヲ遵守シ相親睦シテ共同ノ福利ヲ増進シ弊害ヲ矯正セシメントヲ務メリ明治二十五年各組合ノ聯合會ヲ組織セシメ更ニ明治二十七年十二月縣令第六十號ヲ以テ漁業組合規則ヲ公布シ聯合組合ニ縣費ヲ補助シ各組合ノ基礎ヲ鞏固ナラシメタリ其組合ニ於ケル事業ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 水産動物ノ蕃殖保護ニ關スル件
- 一 漁船漁具漁法ノ改良ニ關スル件
- 一 水産物ノ製造及販路ニ關スル件
- 一 遠洋漁業ニ關スル件
- 一 違約者處置ニ關スル件
- 一 漁村維持方法ニ關スル件
- 一 水産統計ニ關スル件
- 一 官廳ノ諮問ニ答申ノ件
- 一 遭難漁船及遺族給助方法ニ關スル件

- 一 漁業ノ紛議和解ニ關スル件
- 一 漁業上殊ニ功勞アル者ノ表彰ニ關スル件
- 一 其他組合ノ利益ニ關スル件

明治三十四年四月法律第三十四號ヲ以テ漁業法ヲ公布セラレ同法ニ依リ從來ノ漁業組合ヲ解散シ又其第二十二條ニ依リ明治三十六年二月漁業者水産動物製造業者及販賣業者ヲ以テ水産組合ヲ組織シ縣費ヲ補助シテ事業ノ進捗ヲ促セリ其業務ノ概目ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 漁撈及製造ノ調査指導ニ關スル事項
- 二 製品ノ検査ニ關スル事項 但貿易商況上及製産上當分實施ノ價值ナキモノト認メハ  
議員會ノ決議ヲ經テ實施ヲ延期ス
- 三 水産動物ノ蕃殖保護取締ニ關スル事項
- 四 販路ノ調査ニ關スル事項
- 五 組合員ノ紛議仲裁及調停ニ關スル事項
- 六 共進會及品評會開設ニ關スル事項
- 七 博覽會共進會及品評會出品ニ關スル事項
- 八 其他組合員ノ共同利益ヲ増進スルニ必要ナル施設ヲナス事



三十六年度ニ於テハ事業施設ノ資料トシテ組合員ノ業別即チ漁業製造販賣等ノ業態ヲ調査シ從來ノ弊害ヲ矯正スル爲メ組合定款施行規則ヲ議定シ三十七年度ヨリ之ヲ實施シ魚類賣買ノ取締及販路ノ調査遠洋漁業ノ獎勵及韓國漁業根據地移住等斯業ノ發展ニ努メ組合員ノ遭難者ニ資金ヲ救恤シ淡水魚類ノ蕃殖ヲ圖ラム爲メ三十八年度ニ於テ青鯪兒ヲ各郡河川ノ上流ニ放チシカ其結果未タ精確ノ調査ヲ遂ケサルモ漁業者ノ捕獲高ニ於テ優ニ二割ノ増獲ヲ見ルニ至レリ然シテ其種類亦上等ニ位スルヲ以テ此鮫魚カ大阪市場ノ好評ヲ博シ殊ニ價格ニ於テ二三割ノ昇騰ヲ見ルニ到レリ其組合員ノ總數明治四十一年十二月末日現在左ノ如シ

香川縣水産組合員數表

(明治四十一年十二月末日調)

郡市別	漁業者數	販賣業者數	製造業者數	合計
大川郡	八五九	九一	三〇	九八〇
香川郡	四七七	二四	一	五〇一
綾歌郡	一九二	八六	三	二八一
木田郡	二四二	一七	一	二五九
小豆郡	八八五	三八	四八	九七一
仲多度郡	九二三	一二六	一	一〇四九
三豊郡	九一一	三四〇	六九	一三三〇
合計	五、〇六一	八七〇	一七五	六、一〇六

郡市別	漁業者數	販賣業者數	製造業者數	合計
高松市	三八八	六七	一〇	四三五
丸龜市	一八四	八一	一五	二八〇
合計	五、〇六一	八七〇	一七五	六、一〇六

漁業組合

明治三十四年四月漁業法ノ公布セラル、ヤ各漁業者共同シテ漁業權ヲ享有及行使シ共同ノ利益ヲ圖リ漁村ノ基礎ヲ鞏固ナラシメン爲メ漁業組合ヲ組織セシモ日尙淺キヲ以テ未タ見ルヘキモノナシ然レトモ其享有スル漁業權ノ行使及漁業ノ方法組合員ノ遭難救恤並基金積立等ノ如キハ目下専ラ之カ經營ニ努メツ、アリ其組合ノ名稱ヲ表示セハ左ノ如シ

大川郡

- 一 相生漁業組合
- 一 松原村漁業組合
- 一 三本松漁業組合
- 一 馬篠浦漁業組合
- 一 鶴羽村漁業組合
- 一 引田浦漁業組合
- 一 湊浦漁業組合
- 一 畷田浦漁業組合
- 一 小磯浦漁業組合
- 一 津田町漁業組合



- 一 小田村漁業組合
- 一 志度浦漁業組合

木田郡

- 一 原大町浦漁業組合
- 一 浦生檀ノ浦漁業組合
- 一 庵治浦漁業組合

小豆郡

- 一 土庄漁業組合
- 一 池田村漁業組合
- 一 吉野神浦漁業組合
- 一 西村漁業組合
- 一 苗羽漁業組合
- 一 堀越漁業組合
- 一 坂手村漁業組合
- 一 岩ヶ谷漁業組合
- 一 福田漁業組合
- 一 淵崎漁業組合
- 一 二生漁業組合
- 一 蒲野漁業組合
- 一 草壁漁業組合
- 一 古江漁業組合
- 一 田浦漁業組合
- 一 橋浦漁業組合
- 一 當濱漁業組合
- 一 吉田漁業組合

香川郡

- 一 大部漁業組合
- 一 長濱漁業組合
- 一 伊喜末漁業組合
- 一 家浦漁業組合
- 一 直島漁業組合
- 一 女木島漁業組合
- 一 下笠居村漁業組合
- 一 北浦漁業組合
- 一 小江漁業組合
- 一 唐櫃漁業組合
- 一 甲生漁業組合
- 一 男木島漁業組合
- 一 香西浦漁業組合

綾歌郡

- 一 木澤浦漁業組合
- 一 松山浦漁業組合
- 一 江尻浦漁業組合
- 一 宇多津浦漁業組合
- 一 乃生浦漁業組合
- 一 林田浦漁業組合
- 一 坂出浦漁業組合

仲多度郡

- 一 多度津町漁業組合
- 一 白方漁業組合



- 一 與島村漁業組合
- 一 廣島村漁業組合
- 一 佐柳島村漁業組合
- 一 本島村漁業組合
- 一 高見島村漁業組合

三 豊 郡

- 一 笑浦漁業組合
- 一 花稻漁業組合
- 一 觀音寺漁業組合
- 一 室本漁業組合
- 一 仁尾漁業組合
- 一 生里浦漁業組合
- 一 積浦漁業組合
- 一 志々島漁業組合
- 一 詫間漁業組合
- 一 豊濱漁業組合
- 一 山田濱漁業組合
- 一 伊吹島漁業組合
- 一 一家之浦漁業組合
- 一 大濱漁業組合
- 一 箱浦漁業組合
- 一 粟島漁業組合
- 一 香田漁業組合

高 松 市

- 一 高松市漁業組合

丸 龜 市

- 一 丸龜市漁業組合

明治四十一年度ヨリ淡水養魚獎勵ノ爲メ鯉兒ヲ孵化シ組合員ノ養魚希望者ニ無代額布シツ、アルモ尙四十一年九月綾歌郡端岡村關ノ池水面反別二十二町餘歩及四十二年二月香川郡太田村道池水面反別四町餘歩ノ二ヶ所ニ模範養魚場ヲ設置シ鯉兒和苗ヲ放養セリ而シテ適當ノ餌料ヲ以テ養殖シ一ヶ年後ニ之ヲ捕獲シテ魚ノ生育捕獲歩合收支純益等ノ成績ヲ具體的ニ發表シ以テ縣下溜池ノ利用ヲ獎勵セントス

漁 業 者

漁 業 戸 口

本縣ノ北方ハ瀬戸内海ニ面シ東方ハ阿波國界ヨリ西方伊豫ノ國界ニ至ル海岸ノ延長五十七里餘ニシテ岬角港灣多ク大小ノ嶋嶼其間ニ碁布スルヲ以テ随テ水族頗ル豊富ナリ之ヲ以テ古來水族ヲ採捕スルノ途開ケ漁業ニ從事スル者多シ最近ニ於ケル漁業者ノ戸數及其人口ヲ表示セハ左ノ如シ

漁業者戸數人口表

(明治四十年)



高松市				三豊郡				仲多度郡				綾歌郡						
専業	計業	工商業	農漁業	専業	計業	工商業	農漁業	専業	計業	工商業	農漁業	専業	計業	工商業	農漁業			
																専業	計業	工商業
二二三	五〇三	一一一	四八五	二〇七〇	八一	一一三	一四五九	四一七	一一三	一七	六七	七二六	三三三	二六四	二七	一一二	七四	一五一
八二九	二、二八五	二五七	一、九七九	一〇、六七二	三二八	五四八	七、一五一	二、六五五	六、五六八	七二	三六二	四、〇七五	二、〇五九	一、四八七	一四三	六七	三五五	九三二

香川郡				小豆郡				木田郡				大川郡							
専業	計業	工商業	農漁業	専業	計業	工商業	農漁業	専業	計業	工商業	農漁業	専業	計業	工商業	農漁業				
																専業	計業	工商業	農漁業
六二六	一一二	一六	四八三	九六	一、五三三	五七	七三	一〇、五九	三三四	三七一	五	三〇	一五五	一八一	二、〇八八	六六	一五六	六八九	一、二七七
三、三三三	一一二	八五	二、五三九	六三七	八、二八七	三四〇	四五二	五、七三六	一、七七〇	二、三〇八	一七	一四八	九八四	一、二五九	二、七五〇	二八四	八五六	三、八二七	六、七八三



郡市別	種別		業別	戸	数	人	口
	丸龜市	合計					
	計	計	農兼業	農兼業	一五	一〇〇	五八
	商兼業	商兼業	商兼業	二五	三	一一	一一
	工兼業	工兼業	工兼業	二五	三	一一	一一
	専業	専業	専業	二五六		九九九	
	農兼業	農兼業	農兼業	三三三		一八、七九三	
	商兼業	商兼業	商兼業	四、六五五		二四、七五二	
	工兼業	工兼業	工兼業	五〇三		二、八七四	
	計	計	計	二七九		一、三二〇	
	計	計	計	八、八一三		四七、七二九	

明治二十二年高松市及丸龜市ニ漁業ナキハ市ノ獨立セサル以前ナルヲ以テ高松市ハ香川郡ニ丸龜市ハ仲多度郡ノ各條ニ併記ス

免許漁業者

明治三十四年四月法律第三十四號ヲ以テ漁業法發布セララル、ヤ各漁村ハ漁業組合ヲ組織シ各村慣行ニ因リ専用シタル漁場ノ専用免許ヲ出願シタリ而シテ法律第三十三條ニ依ル漁業ニ就テハ組合又ハ個人ヨリ免許期間ノ指定ヲ申請シ明治四十一年十二月末日迄ニ其指定ヲ爲シタルモノ及新ニ免許シタルモノ左ノ如シ

漁業ノ種類	漁業ノ名稱	免許件数
特別漁業第三種	陸地曳網漁業	二九
同	陸地曳網漁業	三〇七
同	陸地曳網漁業	二七
同	陸地曳網漁業	二〇
同	陸地曳網漁業	一〇
同	陸地曳網漁業	八三
同	陸地曳網漁業	九〇
同	陸地曳網漁業	三
同	陸地曳網漁業	四
同	陸地曳網漁業	三
同	陸地曳網漁業	四
同	陸地曳網漁業	九
同	陸地曳網漁業	二
同	陸地曳網漁業	九
同	陸地曳網漁業	三
同	陸地曳網漁業	四
同	陸地曳網漁業	三
同	陸地曳網漁業	六
同	陸地曳網漁業	二
同	陸地曳網漁業	九
同	陸地曳網漁業	三
同	陸地曳網漁業	六
同	陸地曳網漁業	八
同	陸地曳網漁業	四
同	陸地曳網漁業	六
同	陸地曳網漁業	五
特別漁業第四種	アイゴ船曳網漁業	一四
特別漁業第八種	アイゴ船曳網漁業	一一
特別漁業第九種	アイゴ船曳網漁業	三







ハ	岩	杓	菴	小	頭	マ	網	跡	小	流	欄	投	島	島	餅	餅	流	飯	中	手	マ
チ		子	手	魚	カ		高	流		瀬			賦	流			流		高	級	立
網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網

八三 | 八九三 | 四三 | 八三 | 二二 | 三三 | 二八 | 七〇 | 三七 | 二六 | 二五 | 六六 | 一五 | 一〇 | 二九 | 一三 | 三二 |

一〇三 | 一一三 | 一六 | 七六 | 二六 | 四二 | 一〇九 | 三七 | 一六一 | 二二 | 三五 | 七七 | 三三 | 六七 | 一四 | 一七 | 七〇 | 三二 |

ハ	雜	四	海	沖	小	×	雜	餅	線	大	鱈	玉	小	鱈	條	毒	菴	サ	印	柁	五
チ		ッ	手	貼	魚		打	流	筋		魚		魚		魚		魚		智		
網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網

四三 | 一七 | 二七 | 二五 | 七九 | 一一 | 三三 | 二二 | 三三 | 一一 | 四〇 | 一一 | 三八 | 一一 |

四〇 | 六六 | 一三 | 二八 | 三六 | 七五 | 〇二 | 二四 | 一一 | 一四 | 一一 | 三三 | 六三 | 三〇 |

三三

歸	ハ	下	懸	川	立	小	夜	島	川	鯉	雜	雜	沖	棋	道	跡	跡	海	ツ	
立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立
網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網

五一 | 六一 | 四二 | 二五 | 一四 | 二四 | 二八 | 九六 | 一六 | 六三 | 二九 | 四二 | 七二 | 二一 |

五一 | 二〇 | 一九 | 二九 | 一四 | 一四 | 一八 | 五二 | 二八 | 九六 | 九一 | 九〇 | 一〇 | 四八 |

飛	鯉	雜	雜	玉	鱈	立	外	底	鱈	立	小	筋	海	春	サ	目	鳥	×	蠟	
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立	立
網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網	網

三一 | 四八 | 一一 | 一一 | 二二 | 二二 | 二七 | 九四 | 五九 | 五五 | 五三 | 九〇 | 四二 |

三一 | 五二 | 二八 | 一四 | 一一 | 二二 | 二六 | 二七 | 四三 | 五三 | 四九 | 七三 | 一四 | 七〇 |

三三〇

漁具ノ名稱  
明治二十七年  
明治三十五年  
漁具ノ名稱  
明治二十七年  
明治三十五年























同郡直島南沿海  
仲多度郡捕鮫島沿海ニ好漁場多ク其中最著名ナルナ牛島ノ  
南面鎌瀬トス

鯛鱈網漁場

三豊郡觀音寺町字伊吹島近海、ツレ  
仲多度郡廣島村字豊島沿海  
同郡佐柳島村字二面島

鯛船曳葛網漁場

小豆郡池田村沖合  
富士ノ瀬

鯛鱈網漁場

同郡豊島村字家ノ浦沖合  
團子瀬

同郡土庄町字荒ノ瀬

木田郡庵治村沿海

香川郡下笠居村沖合

王曾ノ瀬、横瀬、和歌瀬

鱈瀬曳網漁場

仲多度郡本島村字牛島四ノ方  
鎌瀬

鱈鱈網漁場

三豊郡莊内村字箱沖合  
狭ノ海

鱈 縣下到ル所ノ沿海ニ於テ漁獲シ之ヲ乾鱈ニ製造シテ販賣ス其産額毎年九万

三千石ヲ下ラス其漁場ノ收獲最モ多キヲ三豊郡伊吹島沿岸一帯トシ之ニ亞クヲ  
大川郡小豆郡三豊郡木田郡ノ沿岸トス其砂濱ニシテ地曳網ノ網業ニ便ナル漁場  
ニ於テハ總テ之ヲ使用セリ

鱈鱈寄魚漁業 鱈鱈ノ冬期集合スルヲ保護シテ散逸セシメス適當ノ時期ニ於テ  
中高網又ハ繰網ヲ以テ捕獲ス其額毎年十七万尾ヲ下ラス其漁場二三ヲ舉クレハ

鱈鱈寄魚漁場

大川郡引田村安戸池  
木田郡庵治村字篠太鼓ノ原  
小豆郡土庄町海岸  
三豊郡仁尾村字小高島海岸  
同郡和田村字堀切海岸磯ノ上

漁獲物 其一

明治四十年分

鱈鱈寄魚	大川郡		木田郡		小豆郡		香川郡		綾歌郡	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		
鱈鱈	101,234	1,234	101,234	1,234			101,234	1,234		











年次	合 計	類 種		物 動 産		仲 多 度 郡	三 豊 郡	高 松 市	丸 亀 市	合 計
		其 他	昆 布	其 他	海 産					
明治三十五年	15,000			10,000	5,000					15,000
明治三十六年	16,000			10,000	6,000					16,000
明治三十七年	17,000			10,000	7,000					17,000
明治三十八年	18,000			10,000	8,000					18,000
明治三十九年	19,000			10,000	9,000					19,000
合 計	85,000			50,000	35,000					85,000

著名ノ漁具及漁撈方法

漁業上ノ變遷ニ至リテハ記録ノ存スルナキヲ以テ何人ノ發明ニシテ何地ヨリ傳播セシモノナリヤ窺ヒ知ル能ハサルヲ以テ只漁業者ノ口碑ニ因リ左ニ其概要ヲ記ス

縛 網

西讃地方ヨリ漸々東讃ニ傳播セシモノ、如シ三豊郡伊吹島ニテハ周防國道ノ津ヨリ伊豫國川ノ江町ニ傳ハリ川ノ江ヨリ今ヲ去ル約七八十年前ニ於テ傳ハリタルモノナリト云ヘリ其當初ハ荒手網ヲ交叉シテ前線網ノ如ク使用セシカ明治初年ノ頃ヨリ現今ノ縛網ニ改造セリト而シテ該網ハ鯛鮓ヲ捕獲スル目的ニシテ越網脇網及荒手網ノ三部ヨリ構成シ越網脇網ヲ相合シテ箕形トナス網ノ全長約千尋ニシテ之ヲ使用スルニハ普通網船二艘錨船二艘桂船二艘大手船一艘其他補助船ノ方向ヲ測リ鯛ヲ漁獲スルニハ桂船ヲ指揮シ潮流ニ隨フテ葛繩ヲ漕キ錨船ハ之レカ先漕ヲナシテ葛繩ヲ適當ナル位置ニ漕細ス網船ハ其外方ヨリ之ヲ圍繞シ荒手網ヲ交叉シテ錨ヲ投シ錨網ヲ側間ノ舷側ニ取リ網ノ張下全ク終レハ葛繩ヲ繰返シ船ニ收ム而シテ網船ハ荒手網ヲ繰上ケ身網ノ部ニ至レハ其交叉ヲ解キ脇網ノ裙方ヲ舉ケ網ヲ繰リ魚類ヲ越網ニ集メ捕獲シテ活船ニ蓄養ス其繰業時間ハ約一時三十分間ニシテ漁期ハ毎年四月中旬ヨリ凡ソ七十日間トス

鯛 大 網

今ヲ去ル五百三十餘年前細川頼之ノ時代既ニ阿野郡乃生村沖瀬居島漁場ニ於テ使



用セシモノナリト云フ網ノ形状ハ捕魚部ヨリ手網ノ尖端ニ至ルニ從ヒ漸次遞減狹小ナリシカ明治六七年頃ヨリ其網巾ヲ廣クシ陶製ノ沈子ヲ鉄製ニ替へ網ノ沈下スルヲ速カナラシメ逃走ヲ防ク裝置トセリ此ノ網ハ捕魚部及両手網ヨリ成リ肩行凡三百尋トス網船二艘小取船二艘葛船二艘「ミト」船一艘脇「ミト」船二艘中「ミト」船一艘漁夫五十五人ヲ使用ス其方法ハ葛船ハ網船ト相前後シテ葛船ヲ漕キ鯛魚ヲ圍繞シ中「ミト」船脇「ミト」船ハ葛船ノ海底ニカ、ラサル様注意シ網ノ掛リタルトキハ紐ヲ曳キ之ヲ脱セシメ其圍圍相盛スルノ前網船ハ之ト分離シテ左右相舫ニ網ヲ連接シテ外方ヨリ張下シ之ヲ圍ミ裾ノ方ヨリ之ヲ揚ケ次ニ浮子ノ方ヨリ網ヲ繰リ上クルモノトス凡漁業ノ時期ハ毎年四月十八日頃ヨリ五十日間トス網ノ使用時間ハ約一時三十分間ヲ要スト云フ

鱒瀬曳網

今ヲ去ル五百年前ノ創始ナリト稱スルモ確然タル記録ノ存スルモノナシ網ノ構造ハ捕魚部袖網及荒手網ノ三部ヨリ成リ浮子方凡ソ三百尋乃至三百五六十尋ニシテ網船大小二艘手船二艘漁夫二十五人ヲ使用ス大網船ヲ下手船ト稱シ之ニ網ヲ積ミ小網船ヲ上手船ト稱シ一方ノ手網ヲ取リテ潮ヲ斜ニ漕キ下手船ハ網ヲ張下シツ、潮ヲ横切り捕魚部ヲ少シク潮下ニ投シ群魚ヲ圍繞スレハ荒手網ヨリ繰リ揚ケ魚類ヲ手船ニ移シ終レハ更ニ上手船ニ繰リ揚ケシ網ヲ下手船ニ移シ適當ナル潮時ノ來ルヲ待テ使用ス其繰業時間ハ約四十分間ニシテ一晝夜六七回使用ス漁業ノ時期ハ概ネ五月上旬ヨリ六月下旬迄トス

鱒地曳網

該網ハ網具中最モ古ク使用セシモノ、如シ大内郡引田村ノ如キハ三百餘年前ヨリ傳ハリ元祿八年頃既ニ盛ニ使用セシ舊記今尙ホ存在セリ此網ハ初片手廻ハシナリシカ漸々變遷シテ両手廻シ即チ二艘ノ網船ヲ使用スルニ至レルモノ、如シ構造ハ囊部手網荒手網ノ三部ヨリ成リ之ニ曳網ヲ附シ普通網船二艘手船二艘若クハ一艘ヲ用ヒ漁夫二十人乃至三十人ヲ使用ス魚見ト稱シテ手船若クハ山腹等ニ於テ群魚ノ回游スル情態ヲ觀察シテ網船ヲ指揮シ網ヲ張下シテ船ヲ岸ニ漕キ寄せ手網ヨリ曳キ寄せ網ヲ陸地ニ曳キ魚ヲ袋部ニ集メテ採捕ス漁業時期ハ六月ヨリ十一月迄トス其繰業時間ハ漁場ト漁具ノ規模大小ニ依テ一定セザレモ概ネ二時間乃至三時間トス

鱒船曳網



船曳網ハ船中ニ曳揚ル曳網ニシテ概シテ海岸ノ岩石ナルカ其他ノ障礙ニ因リテ網ヲ陸上ニ曳揚ケ能ハサル場合又ハ海底ノ傾斜底質水深ノ如キ漁場ノ形勢又ハ捕獲物ノ性質上必要ナル場合ニ行フ方法ニシテ地曳網ヲ改良シタルモノナラン其創始ニ至リテハ詳カナラス素ト囊部ニ網ヲ附シ手網ハ有セザリシ時アリシカ如シ小豆郡ニ於テハ百五十年前がま繩ト稱シ囊ヲ有セス縮結ニ依リテ捕魚部ヲ形成シタリシカ其後伊吹繩ト稱シ現今ノ如ク箕形網トナシ更ニ明治十三年ノ頃囊ニ小袋ヲ附スルニ至レリ又袖網ハ素ト荒麻ヲ用ヒシモ今ヨリ十二三年前藁實子繩ニ變更セテ構造ハ囊部身網荒手網ノ外ニ卷網ヲ附ス囊ハ地曳網ト異ニシテ箕形ノ後部ニ囊ヲ附シ更ニ小袋ヲ附シタルモノアリ之ヲ使用スルニハ網船二艘手船二艘ニシテ網ヲ投下シ魚群ヲ圍ヒ終レハ岸ニ大綱ヲ結ヒ卷網ハ船中ニテ籠籠ヲ以テ曳寄セ網部ニ至レハ之ヲ胴間ニ繰入罎ヲ囊部ニ集メ撻ヲ以テ捕獲シ之ヲ手船ニ移ス漁業ノ時期及繰業時間ハ罎地曳網ニ同シ

### 中高網

縣下冬季ニ使用スル漁業中規模ノ大ナル唯一ノ漁具ニシテ野船寄魚ヲ捕獲スルニ使用ス此網ハ今ヲ去ル二百二十年前元祿年間既ニ大内郡引田村安戸池ニ於テ使用

セシ記録アリ要スルニ東嶺ヨリ漸次西嶺地方ニ傳ハリシモノ、如シ網ノ構造ハ肩行凡ソ二百尋内外ノ長方形ニシテ網船二艘手船三艘親方船一艘魚船二艘ニシテ漁夫四十名内外ヲ使用ス大川那安戸池ニ於テハ沖合ト稱シ山嶺ニ於テ群魚ノ回避スル情態ヲ觀察シテ網船ヲ指揮シ網ヲ投下スレハ其他ノ各船ハ浮子ヲ支持シテ魚ノ逃走ヲ防キ網船ハ沈子網ヲ繰リ魚ヲ袋部ニ集メ漸次身網ヲ繰リ揚ケテ採捕ス使用時間ハ約一時間ニシテ九月中旬ヨリ翌年三月下旬迄トス

### 遠洋漁業

明治十四年九月寒川郡津田村萱落ノ漁業者萱野與四郎同熊吉同茂八ノ三名鱈網ヲ製シ朝鮮海ニ渡航シ同年十二月長崎縣唐津港ニ歸着シタルモ僅ニ得ル所金七拾圓ヲ過キザリシト是本縣ヨリ韓海へ出漁シタルノ嚆矢トス翌十五年三月同村猪塚多四郎同季治ト計リ漁船三艘ヲ以テ組合ヲ組織シ朝鮮海馬山浦ニ出漁シ大ニ鯛ヲ收獲シ始メテ漁網ヲ製造セリ同年秋季同郡小田村石原與市山本忠次郎角岩吉ノ三人始メテ鯛配繩ヲ以テ慶尙道馬山浦へ出漁シ其收利多カリシヲ以テ附近ノ漁業者續續出漁スルニ至レリ本縣モ亦大ニ之ヲ獎勵シ或ハ技術者ヲ韓國ニ派遣シ漁場ノ探檢及調査ヲ爲サシメ或ハ縣費ヲ補助シテ之ヲ獎勵シ當業者亦相謀リ一致シテ共同



ノ利益ヲ増進セン爲メ明治二十七年朝鮮海通漁組合ヲ組織シタリ明治三十五年四月外國領海水産組合法ニ依リ韓國ニ朝鮮海水産組合ヲ組織シタルニ付本縣ノ通魚組合ヲ解散シタリシカ香川縣水産組合ニ於テハ組合員ノ出漁ヲ獎勵シ其經費ヲ補助シテ發達ヲ助ケシメタルノ結果左表ニ示ス如キ進捗ヲ見ルニ到レリ然レトモ出漁者ノ多クハ大川郡津田町及同郡小田村ノ漁業者ニシテ縣下全部ニ涉ラサルハ頗ル遺憾トスル所ナルヲ以テ其普及ニ努メツ、アリ

年 度	漁業ノ種類	場 所	出 漁 人 員	漁獲物價額
明治十五年	網 罟	朝鮮沿海	二七	八四三
明治二十年	網罟、流網、籠網、總網	同上	五七三	三六、三七六
明治二十五年	網罟、流網、籠網、總網	同上	六三七	五二、四九六
明治三十年	網罟、流網、手網、鮫網	同上	一、二二九	四六、三九五

同上四十年調

郡 市	漁獲種類	漁獲場所	船 數	乗 組 員	漁獲物價額
大川郡	網罟、籠網、手網	朝鮮沿海	三三三	一、四四四	一六八、二五〇
木田郡	網罟、籠網、其他	同	三六	一〇八	五、〇〇三

鹽 業

著名塩濱沿革

縣下ニ於ケル塩田ハ其反別九百四十一町八反歩ニシテ二市七郡ニ涉リ濱數五十六個所總數五百六十二個ニ達シ斯業ノ盛衰變遷等容易ニ調査スル能ハス且確實ナル記録ノ存スルモノナキヲ以テ只左ニ坂出濱元濱ニ於ケル一二ノ概要ヲ記ス

坂 出 濱

岡濱ト稱スルハ三百年以前ノ創設ナリト云フモ記録ノ微スヘキモノナシ大濱ハ文

小豆郡	香川郡	綾歌郡	仲多度郡	三豊郡	高松市	丸龜市	計
1	1	1	1	1	1	1	1
朝鮮沿海							
4	9	4	1	1	1	1	406
14	41	136	4	1	1	1	1747
1740	3145	47600	100	1	1	1	337038







鹽田段別及産額 其二

明治三十年調

二五八

郡市名	鹽田反別	産額	同上價額	庵數
大内郡	一六、四〇	一三、四二五	一八、六四八	一〇七
新川郡	一四、二〇	四、七八七	二一、五四二	二
塩屋郡	二、八〇	一、四八八	五、四六四	二
古瀬郡	四、五〇	四、三二九	九、七四〇	三
新庄郡	五、六〇	五、二八四	一一、三八四	三
久野郡	一四、〇〇	一三、四七三	三〇、三二二	八
土庄郡	一六、九〇	六、五〇〇	一一、七〇〇	一〇
大高郡	一一、五〇	九、五三三	九、〇五五	八
四條宮下郡	五、八〇	四、〇〇〇	六、〇〇〇	四
内井郡	五、六〇	五、〇四〇	七、八四〇	四
石井郡	一、七〇	一、五六〇	二、一五〇	一
庵治郡	一、三〇	九、五〇〇	一、三〇六	一
明神郡	五、二〇	三、〇〇〇	四、五〇〇	一
角屋郡	三、一〇	一、八七五	二、八二二	三
齋田郡	四、三〇	一、四〇〇	二、一〇〇	三
文島郡	三、三〇	四、一〇八二	五、三、七三五	一
新子郡	二六、〇〇	三〇、六八〇	四〇、一二九	一
山田郡	一六、三〇	二二、〇六七	二八、六八八	九

郡市名	鹽田反別	産額	同上價額	庵數
古瀬郡	三、九〇	四、五七二	四、五七二	二
野天郡	七、五〇	七、五〇三	七、五〇三	一
野前郡	二、九〇	八、五〇	八、八七	一
新古郡	一五、四〇	一一、二五〇	一八、七五〇	一
古瀬郡	八、一〇	一〇、八〇〇	一八、九〇〇	一
新東郡	二一、四〇	一三、二〇〇	二三、一〇〇	一
生島郡	一七、二〇	一五、一五四	三〇、三〇八	一
生島郡	三六、九〇	五二、八一三	七五、三〇一	二
直嶋郡	三〇、〇〇	二二、七二二	三、八六七	二
古瀬郡	二六、八〇	二二、〇〇〇	二九、四〇〇	一
明治郡	二〇、七〇	二八、〇八〇	三三、四〇四	一
新治郡	八、〇〇	一六、一一八	二一、一九五	一
新治郡	一〇、八、二	一六、八、四四	二二、三、六八	七
御供所	七、六〇	一四、七九六	一九、五七五	五
林田郡	六、二〇	七、八〇〇	九、〇〇一	五
松ヶ田郡	二九、六〇	六四、二七二	八七、七〇〇	二〇
釜ヶ浦郡	一五、〇〇	二二、五七〇	三〇、六一一	〇
大越郡	一八、八〇	一九、〇七一	二〇、四六四	八
綱ヶ浦郡	一九、一〇	二〇、九八五	三〇、七五〇	一
宇夫階郡	一三、四、一	一六、〇〇〇	四二、三、七三	一
宇夫階郡	一三、四、一	一六、四、二三八	一六、七、六八	六
宇夫階郡	一三、四、一	一六、四、二三八	二二、九、三四四	七

二五九



郡市名	濱浦名	塩田反別	産額	同上價額	噸數
那珂郡	宮濱	一四、三	三五、〇〇〇	六三、〇〇〇	一一
	東方濱	九、〇	七、二〇〇	二〇、一六〇	一
	新堀濱	一〇、八	一三、三〇〇	二四、六〇〇	一
	内浦濱	一六、三	一四、六〇九	一八、九〇二	一
	外濱	四、六	四、七〇〇	一四、一〇〇	一
	新濱	一〇、六	一一、〇〇〇	三三、〇〇〇	一
	松崎濱	三、九	四、四〇〇	一三、二〇〇	一
	古江濱	六、五、三	五三、五五〇	六四、二六〇	一
	山濱	一、九	六〇〇	六〇〇	一
	豊田濱	六、六	四、三二四	七、四七一	一
	高松濱	三、七	八四六	二、九六一	一
	計	一七、八	一九、九〇〇	二三、八八〇	一
		一、七	九八〇	一、一七六	一
		八九三、一	一、〇四八、一八五	一、五三〇、五五六	五四〇
明治市		八四四、八	八七一、〇六〇	一、〇一三、二〇四	五二七
明治市		八三四、九	一、〇八七、四八三	六〇七、九一九	五一一
明治市		八〇七、九	一、〇九五、一五九	五一八、〇五六	四九九
明治市		七六〇、四	九九四、二八四	五二六、七八七	四八九
明治市		七五六、二	八三八、四五九	四九一、七四七	四八四

二六〇

塩田反別及産額 其三

四十年調

郡市名	産地	反別	産額	一石三付價額	噸數
大川郡	引田	二、七	一、六八六	一、六九〇	二
	松原	一五、七	九、四六二	一、五九〇	一
	計	一三、七	四、四五六	一、八一〇	一
木田郡	木太	九四、一	一五、六〇五	一、九四〇	一
	古高	三、九	一〇二、八七九	一、七六〇	一
	古高	一、二、五	三、一八五	一、七六〇	一
	古高	二、六、二	六、四八〇	一、七六〇	一
	計	一一、二	二四、〇八七	一、七六〇	一
	土庄	一三七、九	七二五	一、七六〇	一
	計	一六、〇	一三七、三五六	一、八二〇	一
	湖崎	一〇、四	一三、三二一	一、八一〇	一
	四壁	一、六	八、七二一	一、六一〇	一
	計	五、〇	三、七〇九	一、七八〇	一
	安田	三八、八	三、八一六	一、八〇〇	一
	計	一六、九	三〇、一七七	一、八六〇	一
	宮打	一七、四	一四、三二六	一、八二〇	一
	計	一、四	一〇、一九四	一、六五〇	一
	中笠	八、四	七、三三三	一、六五〇	一

二六一



郡市	産地	反	別	産額	一石二付價額	産數
香川郡	下笠居村		三七〇	三九八六四	一、六〇〇	一八
	東濱村		二〇、九	三七、八五〇	一、八六〇	一九
	直島村		二五、四	二〇、一三三	一、八九〇	一五
	坂出町		一二六、〇	一二九、六三〇		六八
	金山村		一三七、七	二二三、七一四	一、五九〇	一〇二
	林田村		三〇、三	三三、一一三	一、五九〇	二〇
	松山村		七五、八	一〇三、八七五	一、六五〇	四八
	王越村		四四、七	五〇、一二〇	一、六五〇	二九
	宇多津町		二二、七	二三、四〇七	一、六五〇	二八
	土器村		一三一、二	一八一、五八二	一、六五〇	九二
	木島村		四五、一	五二、〇七三	一、六三〇	二七
	水島村		四八六、五	六五七、八八四		四四七
	八、九		一一、七五二		一、八二〇	四
	一〇、八		一五、二七八		一、七二〇	六
	一八、九		一七、七八六		一、六五〇	四
	三八、六		四四、八一六			二四
	一〇〇、二		九二、三五〇		一、八五〇	六二
	六、三		五、〇六九		一、九七〇	二四
	三、五		七、一一		一、九四〇	二
	一一〇、〇		九八、一三〇			六八

郡市	産地	反	別	産額	一石二付價額	産數
高松市	高松市		一五、三	一二、三六九	一、七二〇	七
丸亀市	丸亀市		一五、三	一四、八九五	一、六五〇	九
合計	合計		九九八、五	一、二四〇、八六二	一、七四〇	七三八
明治三十五年			九四一、八			五六二
明治三十四年			一、〇七二、六			六〇七
明治三十三年			九九六、〇			六一二
明治三十二年			一、〇〇二、六	七三七、六三七		六一四
明治三十一年			一、〇八二、〇	一、〇六二、七五六		六二四

淡水養魚

本縣ノ地勢南ニ高ク北ニ低ク阿讃國境ヨリ瀬戸内海ニ到ル迄遠キモ十里ニ充タス故ニ河川多シト雖トモ灌溉ノ用ニ供スルモノ極メテ少ナシ斯ヲ以テ古來灌溉用水ハ溜池ヲ築キ貯水シテ以テ之ニ充ツ故ニ縣下到ル所ニ溜池多ク其官有ニ属スルモノ、ミヲ計上スルモ八千四百三十七箇所面積三千三百三十四町歩ニ達ス而シテ其水面ハ灌溉ニ供スルノ外利用甚少キニ依リ官有ニ属スルモノニシテ養魚ノ用ニ供



セムト欲スルモノハ概ネ其使用料ヲ免除シ或ハ香川縣水産試驗場ニ於テ養殖ノ試驗及調査ヲ爲サシメ其成績ニ依リ養魚ニ關スル小冊子ヲ配付シ或ハ各都市ニ技術者ヲ派遣シテ講習講話ヲ爲サシメ或ハ鯉兒及鼈兒ヲ配與シテ魚鼈ノ養殖ヲ獎勵シタリシニ結果斯業ヲ企圖スル者漸々多キヲ加ヘタリ今水面使用ノ許可又ハ區劃漁業ノ免許ヲ受ケタルモノ及其成績ヲ表示セハ左ノ如シ

魚族放養

明治四十年末

郡市名	使用許可 溜池反別	放養			計
		鯉	鼈	其他	
大川郡	二四四、八	九九、五五五	三七、六四〇	四四、三七一	一八一、五六六
木田郡	五九九、五	五五〇、四三二	三三三、六四七	一〇一、四七八	九七四、五五七
小豆郡	七、五	四一、一八〇		四、二〇〇	四五、三八〇
香川郡	二六七、一	一三四、〇六〇	五四、二七五	二二、五五〇	二一〇、八八五
綾歌郡	四〇〇、九	一七五、〇〇〇	二二、九〇〇	一三六、四九一	三三五、三九一
仲多度郡	一六〇、〇	四七、五四五	六、五〇〇	三、三五〇	五七、三九五
三豊郡	二八一、一	一一九、〇一五	六、二七七	二一、六〇〇	一四六、八九二
高松市	五、三				
丸亀市	一、九六六、二	一、一六六、七八七	四五二、二三九	三三四、〇四〇	一、九五二、〇六六

漁獲物製造

本縣ハ大阪及神戸等ノ魚市場ニ近シテ海路運搬ノ便アリ且地方ノ需用亦尠ナカラサルニ依リ鮮魚ヲ以テ販賣スルニ利アリ故ニ製造スルモノ極メテ少ナキモ其二  
 三ノ製造方法及製産額ヲ擧クレハ左ノ如シ  
 鰻製造法 生魚ヲ橢圓形ノ小籠ニ入レ之ニ食塩少許ヲ加ヘ平釜ニテ淡水ヲ煮沸シ其中へ投入シ約三四分間ヲ經過シ煮熟セル鰻ノ浮上ルヲ度トシ之ヲ小籠ニ盛り水分ヲ滴下シ温氣ヲ冷却シテ後藁蓆ニ擴ケテ之ヲ乾燥ス  
 鰻製造法 原料ハ方言赤小鰻ト稱スルモノニシテ初メ生鰻捕獲ノ際之ニ混入セル雜魚ヲ除キ淡水ニテ洗滌シ置キ生鰻一石ニ食塩三升位ノ割合ニ沸騰セル釜中ニ入レ生鰻三升位宛笹ニ入レ釜中ニ投入シテ凡二十分間煮沸シ肉ノ縮小スルヲ度トシテ取出シ蓆ニ撒布シ日乾トシ肉ト殺ト分離シ易キ度ヲ計リ棒ヲ以テ之ヲ叩キ脱皮セシメテ後唐箕ヲ以テ皮ト肉トヲ撰別シ篩ヲ以テ精撰シ之ヲ仕揚トス其需用地ハ重ニ清國上海及香港ニシテ神戸居留ノ清國商人及大阪市ノ清國輸出商ニ販賣ス  
 海鼠製造法 製造地ノ異ナルニ依リ其方法異ナリト雖トモ概シテ捕獲シタルモノヲ二三日間生ケ船ニテ土砂ヲ吐出セシメ後腹部ノ小部分ヲ切截シテ脱腸セシメ平











### 漁獲物賣買

魚市場及魚問屋ハ往時高松藩ニ於テハ所謂株ト稱シテ總テ船奉行ノ許可ヲ得ルニアラサレハ營業スルヲ許サス而シテ漁業者ノ採捕スル魚類ハ魚市場又ハ魚問屋ニ非サレハ之ヲ賣却スルコトヲ禁シ市場ニ於テ魚類ヲ競賣シ問屋ハ合意買力ノ代金ヲ定メテ賣買セシメ其買銀百匁ニ付壹匁五分ノ口錢ヲ引去リ其内五分ヲ運上金トシ船奉行役所ニ納付シ壹匁ヲ市場及問屋ノ手数料トセリ丸龜藩ニ於テハ海面元締海面取方等ノ藩吏ヲ毎日魚市場ニ出張セシメ手傳小使ヲ使役シテ其事務ヲ處理ス魚類ノ取扱ハ漁業者ノ捕獲シタル魚類ヲ小宿ト稱ス問屋毎日市場ニ出テ受取リ仲買人ノ競賣ニ付ス其口錢ハ毎日賣買金高ノ一割二分乃至一割四分ヲ海面元締役ニ於テ控除シ内二分五厘乃至三分ヲ小宿ト稱ス問屋へ下渡シ三分乃至五分ヲ仲買人へ下渡シ殘金ハ藩ノ所得ト爲シタリ

小豆郡ニ於テハ舊津山藩ノ時ハ一個村一個ノ魚問屋ノ外設置スルヲ許サス口錢其他ノ規定ハ詳カナラス以上ノ如ク舊時ハ各藩其規定ヲ設ケ魚市場問屋ノ外ニ密賣スルコトヲ許サス能ク實行サレタリシカ廢藩ト共ニ其制廢セラレタルヲ以テ魚市場間ニ於ケル商業上ノ競争ヨリ沖買ヲナシ或ハ魚市場ノ設置ヲ爲ス者多キニ至レル

ヲ以テ其取締ニ關スル規定ヲ發布セリ

明治二十四年四月本縣令第三十二號ヲ以テ魚市場開設許可願及様式ヲ規定シ開設セムトスル者ハ所轄郡市長ノ許可ヲ受クヘシト定メタリ

同三十七年十二月本縣令第七十八號ヲ以テ魚市場取締規則ヲ發布シ縣令第三十二號ヲ廢シ新ニ營業者ノ取締ヲ規定シタリ

### 魚市場

明治二十二年調

郡市名	市場名稱	開市地名	賣買金高
大内郡	魚市場	引田村宇畑方	未詳
高松市	魚市場	三本松村	同
香川郡	魚市場	志度村	同
山田郡	魚市場	津田村	同
同	魚市場	小田村	同
同	魚市場	北濱村	同
同	魚市場	下濱村	同
同	魚市場	中濱村	同
同	魚市場	林田村	同
同	魚市場	同	同







普及セサレハ其生活ノ状態ハ卑陋醜穢ナルモノ往々之レアリ然レトモ同業者間ニ於ケル慣習ハ能ク之ヲ確守ス而シテ近來水産組合及漁業組合ヲ組織シ行政官廳公署等ノ指導勝掖ニ依リ教育稍普及シ風俗亦善良ニ進歩シツ、在リ中ニ就テ三豊郡伊吹島ハ全郡觀音寺町ヲ距ル六海里ニシテ周圍約一里戸數二百八十餘戸住民ハ主トシテ漁業ヲ營ミシカ奇異ナル風習今尙存續セリ其二三ヲ舉クレハ

一稱呼 貧富ノ別ナク同年輩以上ノ者ヲ呼フニハ男ハ其名ノ下ニ兄ヲ附ケ女ハ其名ノ下ニ姐ヲ附ク例ヘハ太郎ニハ太郎ノ兄大吉ニハ大吉ノ兄阿梅ニハ阿梅姐ト云フカ如シ同年輩以下ノ者ニ對シテハ貧富ヲ問ハス敬稱ヲ附セス太郎大吉阿梅ト呼拾ニス

二烏帽子親 男子凡十歳ニ達スレハ他家ニテ烏帽子親ヲ求メ音物トシテ身分ニ應ジ白米酒各五升以上看三種ヲ持參スレハ烏帽子親ハ巳ノ親戚ヲ招キテ烏帽兒ノ披露ヲナシ其席ニ於テ巳ノ名ノ一字ヲ採リテ通稱トナサシム故ニ男子ハ本名ト通稱ノ二様アリテ平素ノ稱呼ハ通稱ヲ以テス

三筆親 女子十三歳ニ達スレハ他家ニ於テ筆親ヲ求ム音物ハ是亦身分ニ應シテ多寡アレトモ大抵ハ白米二三升ト酒肴トス筆親ハ自分ノ親戚ヲ招キ筆娘ノ披露ヲ

ナシ其席ニテ湯卷一枚ト紅白粉毛拔各一個ニ巳ノ眉毛三本ヲ拔キ添ヘテ之ヲ與フ

四結婚 本島ノ結婚ハ所謂自由結婚ニシテ始メ男女當事者間ニ於テ契約ノ成立スルヤ男子ハ直ニ巳ノ烏帽子親ニ意ヲ通シ烏帽子親ハ此旨ヲ娘ノ筆親ニ通シテ正式ノ結婚日ヲ定ム而シテ男女共其父母ハ相關セサルモノ、如シ借テ舉式ノ當夜ハ先ツ筆親ヨリ嫁ヲ烏帽子親ノ許ニ伴ヒ此處ニ同組ノ若衆ハ打揃ヒ烏帽子親ノ庭前ニ待テ居リ烏帽子親同道ニテ伊勢音頭ト稱スル俗歌ヲ唱ヘ勇マシク男子ノ宅ニ送り往キ嫁ハ若衆ニ一禮ヲ述フルノミニテ家人ニハ挨拶モセス手拭ヲ冠シテ厨房ニ至リ茶ヲ沸カシ酒ヲ煖メ客間ニハ筆親烏帽子親及若衆等俗歌ヲ放吟シツ、牛飲馬食スルノミ

五産婦 産婦ハ不淨ナリトシ出產スルヤ直ニ島民共有ノ出産家ト稱スル所ニ至リ入舍スルコト三十日ニシテ寒中ト雖トモ海水ニ浴シ身ヲ清メテ歸宅ス

水産試驗場

水産試驗場ノ沿革

香川縣水産試驗場ハ明治三十三年六月ノ創設ニシテ香川郡中笠居村ニ置キ漁撈養



殖製造ノ三科ニ分テ職員五人ヲ以テ各主管ノ分科ニ專任シ縣下ノ情態ニ依リ緩急ヲ計リ調査試験ヲ施行シ明治三十七年八月ヨリ捕業ニ關スル試験及調査ヲ爲サン爲メ職員六人ヲ増置シ製塩ニ關スル試験ヲ綾歌郡坂出町ニ於テ苦汁利用ニ關スル試験ヲ木田郡瀧元村ニ分設シテ其事務ヲ分掌セリ

### 水産試験場ノ事業

事業ハ漁撈ニ在リテハ鰯揚繰網、鯉流網、染料試験、潮流海洋観測、鯛兒調査等ニシテ其成績ハ鰯揚繰網ハ明治三十四年網丈ケ百二十二尋、網巾魚取二十八尋、兩翼三十一尋ノモノヲ構成シ、東ハ播磨灘、西ハ備前灘等ニ於テ數回ノ試験ヲ試ミ其成績佳良ナリシヲ以テ漸々普及シ其業ヲ做フ者今ヤ六統ニ及ヘリ、鯉流網ハ明治三十五年ノ考案ニシテ爾來繼續試験ノ結果成績ノ見ルヘキモノ在リシヲ以テ各浦ニ於テ斯業ニ從事スル者年々追テ増加シ現ニ二十餘統ヲ使用スルニ至レルヲ以テ以上二網ハ良好ノ成績ヲ得試験ヲ繼續スル必要ナキヲ以テ明治三十八年度ニ於テ之ヲ終結シ明治三十九年度ヨリ鰯、鯉巾着網ヲ試験スヘキ考案ナリ

養殖業ニ在リテハ明治三十三年十二月模範養殖池ヲ設ケ鯉、鰯、鯉等ノ種類、餌料、放養數等ノ試験、牡蠣、海苔、真珠、蛤等ノ養殖試験ヲ爲シ明治三十八年鯉兒五萬九千尾、鰯

兒二百八十頭ノ配付ヲ爲シ大ニ之カ獎勵ヲ爲シタリシニ淡水養魚ニ付テハ漸次發達シテ模範池ヲ設ケ或ハ孵卵池ヲ設ケル等ノ共同事務ヲ經營スル者多キニ到レリ

製造業ニ在リテハ乾燥器、炭乾、鰯改良、曬乾、海苔、魚類ノ鹽詰及瓶詰、乾鰯、乾竹、煙、海參等ノ試験ヲ爲シ其成績ニ依リ改良ノ普及ヲ圖レリ、鹽詰事業ニ付テハ日魯交戦中ハ維さつばノ鹽詰ヲ製造シ軍隊ノ副食物トシテ陸軍糧秣廠ニ供給セリ又海外輸出ノ途ヲ講究シツ、アリ

### 製塩ノ部

#### 長沼井試験

從來鹹水ノ採收ハ鹽田ノ中央ニ粘土製高サ一尺四寸ナル方形ノモノヲ設ケ之ヲ沼井(臺)ト稱呼ス之レニ依テ鹹水ヲ採收セリ長沼井トハ文字ノ如ク其形細長ナル沼井ヲ鹽田ノ中央ニ埋置シ其沼井ノ上部ハ鹽田面ヨリ高キコト僅ニ二寸其深サハ一尺餘ナリトス而シテ其構造ハ粘土ヲ以テ地下ニ長方形ニ埋置シ恰モ溝渠ノ狀ヲナセリ蓋長沼井ハ鹽田ノ面積ヲ廣潤ナラシメ且操業上ノ勞働ヲ省キ濃厚ナル鹹水ヲ多量ニ採收スルヲ以テ主眼トセリ然シテ現今施行シツ、アル沼井ト長沼井トハ果シテ如何ノ點ニ於テ其優劣アルヤ是ヲ比較シテ明瞭ナラシムルカ爲メ本試験ヲ爲ス



所以ナリ

### 撒砂量試験

該試験ハ細砂撒布ノ厚薄ニ依リ鹹水ノ多寡及比重濃淡ノ如何ヲ調査スルモノトス  
 現來ノ撒砂ハ四季ノ時候ニヨリ増減スルコトハ無論ナルモ操業上特ニ増減スルヲ  
 聞カス唯夏季ニ至リ多少ノ増減ヲ施ス耳ナリトス然レハ撒田ノ面積一坪ニ對シ撒  
 布スヘキ砂量ハ幾何ヲ以テ附着スル攪分ヲ多カラシメ且濃厚ナル鹹水ヲ多量ニ採  
 收シ得ルヤ將タ操業上ノ難易等ヲ調査スルヲ主眼トセリ而シテ本試験ハ十三種ニ  
 區別シ撒布スヘキ砂量ハ面積一坪ニ對シ最少量六升ヨリ漸次一升ツ、ヲ増加シテ  
 最多量一斗八升ニ及フ割合ナリトス然ルニ使用スル撒田一區劃ハ五十八坪六合七  
 勻ヲ各區ニ使用セリ又注入スヘキ海水量ハ各區共ニ其量同一ナルヘキモ撒砂ノ多  
 寡ニ由リテ自カラ差異アリトス而テ本試験ハ甚困難ナリ現ニ雨後ノ如キハ撒砂撒  
 田面ニ固着シテ其量ヲ減シ異同ヲ生スレハナリ

### 撒砂曝露時間試験

本試験ハ細砂ヲ乾燥曝露スル時間ノ長短ニヨリテ採鹹水量ノ多寡及比重ノ濃淡等  
 ヲ調査スルモノニシテ果シテ幾日間曝露スレハ濃厚ニシテ多量ナル鹹水ヲ採收シ

得ルヤヲ確カムルハ尤緊要ナル事トス蓋本試験ハ晴天連續ノ日多カラサレハ十分  
 ノ試験ヲ爲ス能ハサルヲ以テ今茲ニ使用セントスル撒田ノ面積ヲ甲乙二區ニ別テ  
 各一區ヲ四分シテ一日干二日干三日干四日干ノ四種トナセリ如此分割スル所以ハ  
 假令撒田ノ土壤同一ナルモ其附近ニ於ケル溝渠ノ配置及海水溜等ノ狀況ニ依テ細  
 砂ノ乾燥及附着攪分等ニ關係ヲ及ホスコト至大ナレハ之ヲ甲乙ノ二種ニ分割スル  
 所以ナリ

### 地層試験

本試験ハ撒田土壤ノ狀態ニ依リ採鹹水ノ多寡及其品質比重ノ濃淡等ヲ調査シ以テ  
 土壤改良上ノ參考ニ供スルノ一助トナスニアリ今其構造ヲ區別スレハ左ノ如シ  
 甲撒田 天然ノ地層ニシテ粗大砂粒ノ下層ナク粘質性ヲ有シ厚サ四五尺ノ層ヲ爲  
 セリ以下ハ多少貝殻ヲ混合セルモノトス

乙撒田 天然土壤ヲ地盤面ヨリ六寸掘鑿シ川砂二寸ヲ敷キ其上部ニ粘着性ナキ細  
 砂ヲ二寸敷キ以テ床土ト爲セリ川砂ハ海水ノ浸通ヲ迅速ナラシムルモノニシテ  
 此裝置ヲ素水道ト稱ス

丙撒田 天然土壤ヲ六寸掘鑿シ海水ノ浸通ヲ迅速ナラシムル爲メ石炭殻三寸ヲ敷



キ其上部ニ前掘田ノ如ク粗砂二寸細砂一寸ヲ敷キ以テ地盤ト爲セリ  
丁掘田 天然土壌ヲ七寸掘鑿シ海水ヲ浸通セシムル爲メ砂礫二寸川砂二寸粗粒砂  
二寸細砂一寸ヲ以テ構成ス

戊掘田 天然土壌ヲ一尺掘鑿シ粘土三寸ヲ張リ地下ヨリ湧出スル淡水ヲ防止シ其  
上部ニ砂礫二寸川砂二寸粗粒砂二寸粘着性ナキ細砂一寸ヲ敷キ以テ地盤ト爲セ  
リ

### 撒砂質試験

元來撒砂ハ海水ヲ吸昇シテ日熱ヲ吸收シ其乾燥ヲ全カラシメ捕分ヲ多量ニ附着結  
晶セシムルカ爲ナリ而テ其撒砂性質ノ如何ニ依テ採掘ノ經濟上至大ノ關係ヲ有ス  
ルモノトス故ニ是等撒砂ノ性質ニ依リ其採掘水ノ濃淡並ニ其成分ノ如何ヲ講究セ  
ント欲ス其使用スヘキ細砂ハ其別四種アリ便宜之ヲ撒布スルモノトス其四種ヲ區  
別ス即チ左ノ如シ

- 一 細粒ニシテ少シク粘着性ヲ有スルモノ即坂出沖合ニ採收シ一般ニ使用セシモノ
- 二 粗粒砂ニシテ粘着性ヲ有セサルモノ
- 三 細粒ニシテ粘着性ヲ有セサルモノ

四 細粒ニシテ粘着性ヲ有シ多量泥土ヲ混合スルモノ

### 石釜鑄鐵釜比較

本試験ノ目的ハ從來掘民ハ使用ニ慣レタル石釜ニ戀々シテ鑄鐵釜ヲ使用スルニ常  
ニ疑心ヲ抱クヲ以テ其比較試験ヲ爲シ明ラカニ其優劣ヲ知ラシムルハ自今經濟上  
最急務ナルヲ以テ明治三十七年以降其試験ヲ施行セシカ之レニ基因シ爾後鑄鐵釜  
ノ數ヲ増加シ現今ニアツテハ本縣掘田中ノ約三分ノ一以上鑄鐵釜ヲ用ユルニ至レ  
リ

### 改良竈試験

石炭ノ消費ハ一ニ其品質ニ依レルモ亦竈ノ構造如何ニ依テ其消費ノ多寡ニ關係ヲ  
有スル大ナリトス抑從來ノ製掘釜ニ在テハ焚口下方ノ通風口ヨリ竈内ニ燃燒セル  
石炭ニ冷氣ヲ送り温度ヲ低減セシメ燃燒力ヲ妨クルヲ以テ自然多量ノ石炭ヲ消費  
セリ故ニ竈ヲ改造シ外部ヨリ輸送スル空氣ハ之ヲ溫熱セシメ以テ石炭ノ燃燒力ヲ  
補佐シ消耗ノ量ヲ減少セシムルヲ以テ主眼ト爲セリ

### 石炭配合試験

掘業經濟上生産ノ價格ニ於テ關係ヲ有スルモノハ燃料石炭ニシテ其炭質ノ配合ニ



依テ消費スヘキノ量ニ多寡アルハ最モ明カナル事實トス然レモ捕業者ハ未タ是等ノ狀況ヲ覺知セサルモノ多シ是以明治三十九年ニ於テ各種石炭配合ヲ以テ水分蒸發試驗ヲ執行シ其成績ヲ發表セリ

### 異重鹹水ニヨリ製塩ニ對スル鹹水ノ石數及消費スル石炭斤量ノ割合

鹹水ノ濃淡ハ製塩上至大ノ關係ヲ有スルハ勿論ニシテ生産費中ノ燃料價格ニ及ホスコト最モ大ナリトス一般捕業者ハ既已ニ鹹水ノ濃淡ニ依リ石炭ノ斤量ニ於テ關係ノ大ナルコトヲ了知スレハ勉テ濃厚ナル鹹水ヲ採收セサルヘカラス然ルニ鹹水ハ唯其量ノ多寡ヲ主トシテ濃淡ノ如何ヲ顧ミス畢竟鹹水多量ナレハ隨ツテ製塩ノ多量ヲ收獲スヘキモノトナセリ故ニ鹹水ノ濃淡ニ依リ消費スヘキ石炭ノ斤數並ニ製塩ノ斤數ヲ知ルハ必要ノ事ナレハ今茲ニ各濃度ニ對スル各種ノ試驗ヲ執行セリ其他食塩鹹水海水石炭副産物ノ分拆食塩歩減試驗時日ノ經過ニ依リ食塩品質ノ變更試驗鹹水濃淡試驗等トス

### 苦汁ノ部

#### 硫酸苦土製造試驗

硫酸苦土ハ原料ヲ苦汁ヨリ採收ス即方言ツボガリヲ以テ之ヲ精製ス但嚴寒ノ候ニアラサレハ之ヲ製スルコト能ハス是醫藥トシテ人畜ノ瀉下劑ニ供ス

#### 炭酸苦土製造試驗

炭酸苦土ハ苦汁並ニ炭酸曹達灰ヲ以テ製シタルモノトス其方法クル先ツ之ニ熱ヲ施シテ化合セシメ然シテ之ヲ洗ヒ壓搾シテ豆腐形ト爲シ之ヲ乾燥シ然ル後粉末ト爲シタルモノニシテ色澤純白ニシテ無臭無味ナリ主トシテ齒磨粉ノ原料及化粧品並ニ蠟燭ノ配劑又ハ醫藥トシテ撒布藥等ニ使用ス  
捕業並ニ苦汁利用試驗ハ豫定ノ期間三ヶ年ヲ經過シタルヲ以テ四十年度ニ至リ廢止セシモ其試驗ノ成績ハ之ヲ發表シ或ハ各郡ニ於テ講話ヲ爲シ若クハ當業者參會ノ際ハ細大漏サス注意セシヲ以テ大ニ斯業者ノ留意スル所トナレリ思フニ漸次其質良好ナルモノヲ產出スルニ至ルヘシ

### 警 察

#### 總 說

高松丸龜多度津三藩治ノ際ニ在テハ武門政治ノ慣習ニヨリ官尊ク民鄙シ隨テ人民



保護ノ政ハ僅ニ凶年飢饉ニ當リ餓民ヲ賑恤スルニ過ス平生ニアツテ生命財産ヲ保護セシ如キハ靦顔ニシテ願慮セサルカ如シ大政維新百度改定ニ當ツテ明治七年三月始テ行政警察規則ヲ定メラレシヨリ以降夜トナク晝トナク家ニ在ルモ路ニ行クモ保護ノ恩澤ヲ蒙ラサルナシ此文明ノ聖世ニ遭遇シ自箇ノ權利ヲ保全セラル、ハ果シテ誰ノ恩ナルヤ蓋武門政治ノ世ニ生ル、人民ニ比スレハ其苦樂獨リ雲泥ノ懸隔ノミナラサルナリ今此ニ名東縣併治以後ニ於ケル警察區畫ノ沿革水上取締巡査募集採用巡査教習訓練請願巡査安寧風俗營業交通警察等ノ諸項ヲ左ニ叙列シ以テ其大要ヲ知ラシム

### 警察區畫ノ沿革

#### 高松警察署

當初警察ノ事務ハ總テ名東縣高松支廳内ニ於テ取扱ヒシカ後屯所ヲ香川郡高松内町ニ置キ大内寒川三木山田香川阿野鶴尾ノ七郡ヲ管轄シ引田丹生津田長尾平木坂本淵崎草加部百相坂出瀧宮下法勤寺等ノ十二分屯所ヲ設ケ以テ其事務ヲ處理ス明治八年九月香川縣ヲ再置セラレ同年十一月從前ノ屯所出張所ヲ廢シ更ニ警察出張所及出張分局及屯所ヲ置ク同年同月屯所ノ名稱ヲ廢シ警察所ヲ高松ニ警察出張

分局ヲ丸龜觀音寺瀧宮町田ニ置キ警察所出張分局ニ各屯所ヲ置ク

同九年五月警察所出張分局及屯所ヲ廢シ警察出張所ヲ高松丸龜觀音寺翠平瀧宮長尾町田ニ置キ之レニ風スル屯所ヲ小豆島多度津下高瀬安原ニ置ク

同年十月香川郡高松内町十六番地高松警察出張所ヲ始テ高松警察署ト改稱ス

同十一年十二月悉ク從前ノ屯所ヲ警察分署ト改稱シ更ニ三本松志度富田牟禮鹿庭庵治元山西植田豊島池田東濱山崎安原笠居山佐高屋園分粉所宇多津岡田東造田等ニ各巡査交番所ヲ置ク

同十七年一月高松下横町通町築地町田町天神前南新町丸龜町西新通町ニ巡査派出所ヲ設置シ栗林宮脇東濱ノ三接續村ヲ管轄ス

同二十二年六月警察ノ區畫ヲ改正シ高松警察署ノ管轄ハ山田香川二郡トシ其下ニ百相坂ノ上ノ二分署ヲ置ケリ

同年七月縣下各地ノ交番所ヲ廢シ同時ニ樞要ノ地ニ巡査ヲ駐在セシム之ヲ巡査駐在所ノ稱矢トス即高松警察署直轄内百相分署所轄内ニ各十四個所坂ノ上分署所轄内ニ六個所ノ駐在所ヲ設置ス

同二十四年五月高松市街中西濱天神前南新町下横町ノ四派出所ヲ廢シ接續三村ノ



内宮脇中ノ村上ノ村片町松島ノ五駐在所ヲ増設ス是ニ於テ高松警察署内駐在所ノ總數實ニ十九所トス

同二十六年十一月再ヒ警察ノ區畫ヲ改正シ百相ヲ獨立警察署トシ坂ノ上分署之ニ附屬ス高松警察署ハ高松市及木田郡ノ内庵治古高松瀧元川添木太林ノ六ヶ村香川郡ノ内宮脇栗林東濱太田鷺田笠打上笠居中笠居下笠居雌雄島直島ノ十一村即一市十七村ヲ管轄シ以テ現今ニ至ル

同三十年四月鷺田村大字勅使ニ駐在所ヲ置ク同三十一年三月古高松村大字春日及庵治村ニ各駐在所ヲ置ク

同三十二年六月雌雄島村大字女木及太田村大字松繩ニ各駐在所ヲ置ク是ニ於テ駐在所ノ總數ヲ合計二十四トス

同四十年十二月二十六日九龜町巡查派出所ヲ廢ス

同四十一年九月一日香川郡栗林村大字上ノ村同村大字中ノ村同郡宮脇村同郡東濱村字片町同村字松島巡查駐在所ヲ廢シ新ニ香川郡栗林村大字上ノ村ニ巡查派出所ヲ設置シ公園巡查派出所ト稱シ同郡東濱村字松島ニ巡查派出所ヲ設置シ松島巡查派出所ト稱ス

### 平井警察署

元平木分署ト稱シ愛媛縣ノ時ヨリ長尾警察署ニ附屬シ平木池戸田中氷上下高岡井戸鹿庭ノ七村ヲ管轄ス明治十二年九月警部ヲ置キ分署長トス

明治二十三年二月十五日市町村制實施ニヨリ從來ノ各町村分合ノ結果村名ノ改稱ト共ニ平井分署ト改稱ス

同三十二年三月二十九日平井分署ヲ廢シ平井警察署ヲ置キ同時ニ坂ノ上分署ヲ附屬ス此時警察區畫ヲ改正シ本署直轄トシテ木田郡ノ内奉禮奥鹿田中氷上下高岡井戸平井ノ七個村ヲ管轄シ坂ノ上分署ノ所轄トシテ木田郡ノ内前田三谷坂ノ上十河東植田西植田ノ六個村ヲ管轄ス

同三十四年十一月四日本署直轄ノ内木田郡奉禮村ヲ割テ志度分署ノ管轄ニ屬ス

同三十五年四月三日坂ノ上分署ヲ廢シ巡查部長派出所ヲ置キ依然本署ノ管轄トス

同四十年十二月二十六日巡查部長派出所ヲ廢ス

### 長尾警察署

明治二十一年分縣前ハ現在ノ位置ニシテ長尾警察分署ト稱シ高松警察署ニ屬シ元寒川郡神前乙井野間田宮西是弘長尾東長尾名石田東石田西前山奥山ノ十一村ヲ管



轄ス志度ニ巡查交番所ヲ設置スルニ及ヒ志度鴨部下庄末三木郡ノ内牟禮原大町ノ六個村ヲ管轄ス

同二十二年六月三十日志度村交番所ヲ廢シ同年七月一日志度村ニ巡查派出所ヲ置キ元交番所ニ風スル各村ヲ管轄ス

同年七月一日長尾警察署ト改稱シ高松警察署ノ附屬ヲ脱シ尙平木津田ノ二分署ヲ管轄ス而テ本署ノ直轄區域ハ元分署タリシ時ニ同シ平木分署ニハ鹿庭上高岡下高岡井戸鹿伏平木池戸氷上田中朝倉小笠奥山ノ十二村津田分署ニハ田面富田中富田

西富田東五名山鶴羽津田小田鴨部東山鴨部中筋ノ十一村ヲ管轄ス

同二十七年四月警察區畫ヲ改正シ本署ハ直轄トシテ松尾富田五名山神前石田造田長尾奥山ノ八村ヲ津田分署ハ鴨部小田津田鶴羽ノ四村ヲ志度分署ハ志度町鴨部下庄牟禮ノ一町二村ヲ平木分署ハ奥鹿田中氷上下高岡井戸平井ノ六村ヲ管轄ス

同三十二年四月一日警察區ノ改正ニ依リ三本松警察署ヲ廢シ三本松分署ヲ置キ本署ニ屬ス同時ニ元三本松警察署ノ分署タリシ引田分署ヲ併セ本署ニ屬シ本署ノ分署タリシ平井分署分レテ獨立シ平井警察署ト稱シ元平井分署ノ所轄及志度分署所轄ノ内木田郡牟禮ヲ割テ之ニ屬シ而テ三本松分署ハ三本松町松原白鳥譽水福榮丹

生ノ一町五村ヲ引田分署ハ相生小海引田ノ三村ヲ管轄ス

同三十四年十一月平井警察署所轄ノ内木田郡牟禮村ヲ割テ志度分署ノ所轄ニ屬ス

同三十五年四月三日引田分署ヲ廢シ引田巡查部長派出所ヲ設ケ元引田分署所轄各村ヲ管轄セシメ三本松分署ニ屬ス

同四十年十二月二十六日三本松分署津田分署引田巡查部長派出所ヲ廢シ引田分署ヲ設置シ元三本松分署ノ所轄ヲ引田分署ニ所屬シ元津田分署ノ所轄ヲ志度分署ノ所轄ニ併合ス即其本署直轄並各分署管轄左ノ如シ

本署直轄 長尾石田富田松尾五名山神前奥山造田村

志度分署所轄 志度町牟禮鴨部下庄鶴羽鴨部小田村津田町

引田分署所轄 引田相生小海松原白鳥三本松町福榮譽水丹生村

### 三本松警察分署

明治二十一年分縣前ヨリ三本松警察署ト稱シ大川郡ノ内三本松町丹生譽水白鳥福榮相生小海引田松原ノ一町八村ヲ管轄ス

同二十四年三月十一日警察區畫改正ニ依リ引田村ニ引田分署ヲ置キ本署所轄内相生小海引田ノ三村ヲ割テ之ヲ管轄ス



同三十二年三月三十一日本署ヲ廢シ三本松分署ヲ置キ長尾警察署ニ屬ス  
 同三十五年四月三日長尾警察署ノ附屬引田分署ヲ廢シ引田ニ巡查部長派出所ヲ置  
 キ本署ノ管轄ニ屬ス  
 同四十年十二月二十六日本署ヲ廢ス

引田警察分署

明治二十四年四月一日引田分署ヲ設置シ三本松警察署所轄ノ内小海相生引田ノ三  
 村ヲ割テ管轄トシ三本松警察署ニ屬ス  
 同三十二年三月二十九日三本松警察署ノ管轄ヲ離レ長尾警察署ニ屬ス  
 同三十五年本署ヲ廢シ巡查部長派出所ヲ置キ三本松分署ニ屬ス  
 同四十年十二月二十六日引田巡查部長派出所ヲ廢シ引田分署ヲ設ケ大川郡ノ内引  
 田相生小海松原白鳥三本松福榮譽水丹生ノ一町八村ヲ管轄セシメ長尾警察署ニ屬  
 ス

津田警察分署

明治十二年九月以前ハ高松警察署ノ屯所ト稱セシカ同年九月高松警察署津田分署  
 ト改稱シ元寒川郡津田鶴羽鴨部東山鴨部中筋小田富田中富田東富田西五名山田面

ノ十村ヲ管轄ス

同十九年十一月本署ヲ廢シ同時ニ長尾警察署津田交番所ヲ置キ元寒川郡津田鶴羽  
 鴨部東山鴨部中筋小田ノ五村ヲ管轄ス

同二十一年津田交番所ヲ廢シ長尾警察署津田分署ト爲リ高松警察署津田分署時代  
 ノ管轄區域ニ復ス

同二十二年七月警察區改正ニヨリ元寒川郡津田鶴羽鴨部中筋鴨部東山小田田面富  
 田中富田東富田西南川五名山ノ十一村ヲ管轄ス

同二十四年一月警察區改正ニ依リ元寒川郡津田鶴羽鴨部中筋鴨部東山小田富田中  
 富田東富田西松尾五名山ノ十村ヲ管轄ス

同三十二年四月町村廢合ニ依リ管轄區域ヲ改正シ津田鶴羽鴨部小田ノ一町三村ヲ  
 管轄シ現今ニ至ル

同四十年十二月二十六日本署ヲ廢ス

志度警察分署

明治二十一年分縣前ヨリ志度村ニ巡查交番所ヲ置キ鴨部下庄末志度牟禮大町原ノ  
 六村ヲ管轄シ長尾警察分署ノ所屬タリ



同二十三年六月三十日志度巡查派出所ト改稱ス  
 同二十四年四月一日志度巡查派出所ヲ廢シ志度警察分署ヲ置キ志度町部下庄奉禮ノ三村ヲ管轄シ長尾警察署ニ屬ス  
 同三十三年四月一日警察區改正志度分署所轄ノ内奉禮ヲ割テ平井警察署ニ屬ス依テ志度分署ノ所轄ハ志度町部下庄村ノ一町一村ト爲ル  
 同三十四年十一月四日平井警察署所轄内ノ木田郡奉禮村ヲ本署ノ所轄ニ復ス  
 同四十年十二月二十六日元津田分署所轄津田町鶴羽町部下田村ヲ本署ノ所轄ニ併合ス

佛生山警察署

明治二十二年六月百相村ニ百相警察分署ヲ置キ高松警察署ニ屬シ百相多肥一宮禮紙圓座川岡池西由佐大野淺野川東安原安原上西安原上東ノ十四村ヲ管轄ス  
 同二十六年十二月一日百相警察署ヲ置キ坂ノ上分署之レニ屬ス坂ノ上分署ハ三谷坂ノ上十河東植田西植田ノ五村ヲ管轄ス  
 同三十一年二月十五日百相警察署ヲ佛生山警察署ト改稱ス  
 同三十二年四月一日坂ノ上分署ヲ平井警察署ニ轉屬ス

坂出警察署

明治五年七月阿野郡坂出村字八軒家ニ屯所ヲ創設シ坂出字多津福江江尻青海高屋神谷乃生木澤川原真時東坂本西坂本川津西庄林田府中加茂ノ十八村ヲ管轄シ選卒六名在勤シ一等選卒之カ所長タリ  
 同八年四月選卒ヲ廢シ巡查ト改稱スルト同時ニ屯所ヲ廢シ坂出分署ヲ置キ坂出字多津土器西二村西小川東坂本川原真時西坂本東分東二村川津福江江尻西庄林田青海高屋神谷乃生木澤加茂府中新居園分ノ二十六村ヲ管轄シ九龜警察署ニ屬ス當時巡查定員十三名ニシテ警部補之カ分署長タリ  
 同十九年四月一日坂出分署ヲ廢シ坂出警察署ヲ置キ瀧宮栗熊ノ二分署ヲ管轄ス但直轄區域ハ八年四月定ムル所ニ同シ  
 同三十五年栗熊分署ヲ廢シ巡查部長派出所ト爲シ瀧宮分署ニ附屬ス  
 同四十年十二月二十六日巡查部長派出所ヲ廢ス

瀧宮警察分署

明治五年阿野郡瀧宮村字川ノ坂ニ警察屯所ヲ設置シ瀧宮萱原北陶畑田千正福家山田上山田下西分東分粉所東粉所西牛川羽床上羽床下小野ノ十七村ヲ管轄ス



同十一年十二月瀧宮警察分署ヲ置キ高松警察署ニ屬ス  
 同十九年警察區域ヲ改正シ高松警察署ノ附屬ヲ脱シ坂出警察署ニ屬ス然シテ管轄區域ハ前ニ同シ  
 同二十二年七月一日ヨリ瀧宮分署ノ下ニ陶畑田羽床上山田上西分粉所東ノ六村ニ  
 巡查駐在所ヲ置ク  
 同二十六年十一月勅令ニヨリ郡市ノ區域ニ依ラスシテ警察管轄ヲ定メ瀧宮分署ハ  
 坂出警察署ノ附屬ヲ脱シ獨立シテ瀧宮警察署トス是ニ於テ瀧宮警察署ハ瀧宮陶畑  
 床上羽床下畑田山田西分千正粉所山内村ノ内大字福家ノ十村ヲ直轄シ栗熊分署ハ  
 法勤寺富熊栗熊岡田長炭造田美合ノ七村ヲ管轄ス山内村ハ大字福家瀧宮警察署ノ  
 管轄ニ屬シ大字新名柏原ハ坂出警察署ノ管轄ニ屬シ一村中ニ警察署ノ管轄ニ跨リ  
 事務取扱上不便ナルヲ以テ明治二十九年某月主務省ニ稟議セシカ同年四月管轄區  
 域ヲ改正シ山内村全部ヲ瀧宮警察署ニ屬セラレ同村大字新名ニ巡查駐在所ヲ設置  
 ス  
 同三十年栗熊分署ハ其位置所轄内ノ東部ニ偏シ不便ナルヲ以テ同年十二月十五日  
 栗熊分署ヲ鞆足郡岡田村大字岡田東ニ移シ岡田分署ト改稱ス

同三十二年三月警察區域改正ニヨリ瀧宮警察署ハ再ヒ坂出警察署ノ分署ト爲ル  
 同三十五年四月十五日坂出警察署岡田分署ヲ廢シ同村ニ巡查部長派出所ヲ置キ瀧  
 宮分署ニ屬ス隨テ元岡田分署ノ所轄區域ハ瀧宮分署ノ管轄ニ屬セリ

岡田巡查部長派出所

明治十四年前ハ法勤寺村ニ分署ヲ置キ高松警察署ノ所轄タリシカ同十四年三月九  
 日警察署ノ所轄ニ轉屬ス

同十九年十一月法勤寺分署ハ栗熊ニ移轉シ栗熊分署ト改稱ス時ニ坂出警察署ノ所  
 轄ニ轉屬ス

同二十六年十一月警察區域改正ニ依リ瀧宮警察署ノ所轄ニ轉屬シ瀧宮警察署栗熊  
 分署ト稱シ法勤寺富熊栗熊岡田長炭造田美合ノ七村ヲ管轄ス

同三十年十二月栗熊分署ヲ岡田村大字岡田東ニ移轉シ岡田分署ト改稱ス

同三十二年三月警察區域改正ニヨリ岡田分署ハ坂出警察署ニ屬ス  
 同三十五年四月岡田分署ヲ廢シ巡查部長派出所ヲ置キ瀧宮警察分署ノ管轄ニ屬ス  
 同四十年十二月二十六日巡查部長派出所ヲ廢ス

丸龜警察署



明治九年五月九龜南條町ニ第二警察出張所ヲ設置シ多度津村ニ巡查第一屯所坂出村ニ巡查第二屯所植他島ニ巡查第三屯所ヲ置キ之ヲ管轄ス

同十年一月九龜第二警察出張所ヲ九龜警察署ト改稱シ多度津琴平高瀬寺家和田濱ノ五分署ヲ置キ之ヲ管轄シ坂出村巡查第二屯所ハ高松警察署ノ分署ト爲リ植他島巡查第三屯所ハ之ヲ廢シ九龜ノ直轄トス

同年四月九龜警察署ヲ九龜警察分署トシ多度津分署ヲ多度津警察署トス然シテ九龜分署ヲ之ニ屬ス

同十二年某月九龜分署ヲ九龜警察署ト爲シ多度津警察署ヲ多度津分署トシ九龜警察署ニ屬ス是ニ於テ九龜警察署管轄區域從前ニ復シ多度津琴平高瀬寺家和田濱ノ五分署ヲ管轄ス

同十四年三月元高松警察署ニ屬セシ鶴足那一圓並阿野郡十三村ハ九龜警察署ニ轉屬シ法助寺坂出二分署ヲ置ク

同十九年十一月多度津寺家坂出ノ三分署ハ獨立シテ各警察署トナリ法助寺分署ハ栗熊分署ト改メ坂出警察署ニ屬シ和田濱分署ヲ廢シ觀音寺警察署ノ直轄トシ高瀬分署ハ觀音寺警察署ニ屬セリ是ニ於テ本署ハ琴平分署ヲ管スルノミ

同二十六年十二月琴平分署獨立シテ警察署ト爲ル

### 善通寺警察署

明治二十九年以前ハ多度津警察署善通寺村駐在所ト稱シ善通寺村一圓ヲ管轄ス  
同年十二月多度津警察署善通寺村派出所ト改稱ス

同三十年六月善通寺村ニ第十一師團ノ設置アリシヨリ多度津警察署善通寺分署ヲ設置シ其管轄區域ハ善通寺吉原筆岡麻野吉田ノ五村ヲ管轄ス依テ同月十八日善通寺派出所ヲ廢ス

同三十二年四月警察區改正ニヨリ善通寺警察署ト爲リ多度津琴平ノ二警察署ヲ廢シテ分署ト爲シ共ニ善通寺警察署ニ屬ス直轄區域ハ吉原筆岡麻野吉田象郷與北垂水ノ八村トス

同年七月直轄象郷村ヲ琴平分署ノ管轄トス  
同三十四年十一月直轄吉田麻野善通寺ノ三村ヲ合シ善通寺町トス現今直轄區域ハ善通寺町吉原筆岡與北垂水ノ一町四村ト爲ル

### 多度津警察分署

明治十九年多度津警察署ヲ置キ多度津西白方東白方與白方中村弘田上吉田下吉田



沼木善通寺南嶋北嶋城江道福寺萬原ノ十五村ヲ管轄ス  
 同三十年六月善通寺村ニ分署ヲ置キ直轄ノ内善通寺吉田吉原笹岡ノ四村及琴平警  
 察署内麻野村ヲ割テ善通寺分署ノ管轄トシ多度津警察署ニ屬ス  
 同三十二年四月善通寺村ニ師團設置ニ際シ善通寺分署ハ善通寺警察署ト爲リ多度  
 津警察署ハ善通寺警察署ノ分署トナリ其管轄區域モ多度津町四個豊原白方高見島  
 佐柳島ノ一町五村ヲ管轄スルニ至レリ

琴平警察署

明治十年一月琴平村字高敷ニ琴平警察分署ヲ置キ九龜警察署ニ屬シ造田長尾炭所  
 西川東中通勝浦神田財田上楠梨下楠梨苗田東高篠西高篠公文大麻坂井琴平四條五  
 條岸上眞野東七個十郷佐文七個楢入吉野ノ二十八村ヲ管轄ス  
 同年九龜警察署ハ多度津警察署ノ分署トナリ隨テ琴平分署モ多度津警察署ノ分署  
 タリ  
 同十二年多度津警察署ハ九龜警察署ノ分署トナリ隨テ琴平分署亦九龜警察署ニ復  
 ス  
 同十九年十一月琴平分署ノ管轄内財田上神田ノ二村ヲ割テ觀音寺警察署ノ所轄ニ

屬シ下麻上麻ヲ割テ高瀬分署ノ所轄ニ屬シ大麻ヲ割テ多度津警察署ノ所轄ニ屬ス  
 同二十六年十二月琴平分署ハ九龜警察署ノ附屬ヲ脱シ獨立シテ琴平警察署ト爲ル  
 後琴平警察署所轄ノ内造田長炭美合ノ三村ヲ割テ岡田分署ニ轉屬ス  
 同三十二年四月琴平警察署ハ善通寺警察署ノ分署ト爲リ其所轄ノ内象鄉村ヲ割テ  
 善通寺警察署ノ直轄トス

同年六月善通寺警察署直轄ノ内象鄉村ヲ琴平分署ノ所轄ニ屬ス是ニ於テ琴平分署  
 ハ琴平高篠坂井四條神野十郷七個吉野ノ一町八村ヲ管轄ス

觀音寺警察署

當署ハ愛媛縣合併ノ際ハ九龜警察署ノ分署タリシモ其創設年月ハ詳ナラス  
 明治十九年十二月觀音寺分署ヲ廢シ觀音寺警察署トシ河内丸井福田原栗井原新田  
 辻中田井池尻植田古川吉岡流岡村黒高屋室本浦觀音寺出作青岡木ノ郷柞田伊吹島  
 財田西財田上財田中大野本大上高野下高野寺家竹田笠岡比地大岡本仁尾家ノ浦大  
 濱浦箱浦積浦生里浦ノ四十村ヲ管轄ス  
 同二十三年六月町村合併後河内栗井辻觀音寺柞田高室常磐一ノ谷豊田紀伊上高野  
 比地大仁尾莊内本山笠田桑山財田大野財田ノ一町十九村トナル



同二十六年十二月高瀬警察署設立ニヨリ管轄區域ハ河内粟井辻觀音寺町柞田高室常磐仁尾一ノ谷豊田紀伊ノ一町十村トナル  
同三十二年三月高瀬警察署ノ廢止ニ依リ桑山本山笠田上高野財田大野財田ノ六村ヲ加ヘ一町十六村ノ管轄ト爲ル

同三十五年四月高瀬分署ヲ廢止シ其所轄大見麻神田二ノ宮勝間上高瀬比地大比地二吉津詫間莊内粟島ノ十三村ヲ加ヘ一町二十九村ヲ管轄ス

### 高瀬巡查部長派出所

明治二十一年十二月本縣三置ノ際ハ觀音寺警察署ノ分署ニシテ神田上麻下麻佐股上勝間羽方下勝間新名上高瀬下高瀬大見松崎比地竹田吉津香田浦詫間粟島志々島ノ十九村ヲ管轄ス

同二十六年十二月觀音寺警察署ノ附屬ヲ脱シ更ニ高瀬警察署ヲ置キ神田上高瀬下高瀬大見吉津詫間粟島勝間比地二二ノ宮麻比地大莊内桑山仁尾本山笠田上高野財田大野財田ノ二十村ヲ管轄ス

同三十二年四月高瀬警察署ヲ廢シ又觀音寺警察署ノ分署ト爲リ神田上高瀬下高瀬大見吉津詫間粟島勝間比地二二ノ宮麻比地大莊内ノ十三村ヲ管轄ス

同三十五年四月高瀬分署ヲ廢シ巡查部長派出所ヲ置ク  
同四十年十二月二十六日巡查部長派出所ヲ廢ス

### 豊濱警察分署

明治十六年以前ハ和田濱交番所ト稱セシカ後和田濱分署ト爲リシニ其年月及管轄區域詳ナラス

同年六月觀音寺警察署ニ屬シ和田濱分署ト稱シ和田濱姫濱和田箕浦井關内野々有木海老濟田野々萩原大野原中姫花稻丸井ノ十四村ヲ管轄ス

同十九年十一月和田濱分署ヲ廢シ又交番所トス

同二十二年二月和田濱交番所ヲ廢シ又觀音寺警察署和田濱分署ヲ置キ姫濱和田箕浦井關内野々有木海老濟田野々萩原大野原中姫花稻ノ十二村ヲ管轄ス

同年巡查駐在所制度ヲ設ケ姫濱和田井關萩原大野原ノ各村ニ巡查駐在所ヲ置ク

同二十三年四月姫濱分署ト改稱ス  
同三十一年二月豊濱分署ト改稱ス

### 土庄警察署

明治二十年以前ハ高松警察署所屬ノ分署ニシテ淵崎分署ト稱シ小豆郡一圓ヲ管轄



同年土庄警察署ヲ創立シ高松警察署ノ所屬ヲ脱シ獨立ス管轄區域舊ノ如シ  
 同三十五年四月草壁村ニ分署ヲ設置シ土庄警察署所轄ノ内東六村ヲ割キ草壁分署  
 ノ所轄ニ屬ス

草壁警察分署

明治三十四年九月草壁村大字下村ニ巡查部長派出所ヲ置キ土庄警察署ニ屬ス  
 同三十五年四月草壁巡查部長派出所ヲ廢シ草壁分署ヲ置キ西村安田苗羽坂手福田  
 ノ六村ヲ管轄シ土庄警察署ニ屬ス

水上取締

明治三十年某月小蒸汽船犀島丸ヲ造ル  
 同三十一年四月坂出町ニ水上派出所ヲ創設シ坂出警察署所轄沿海ヲ管轄シ坂出警  
 察署ニ屬ス巡查定員一名水夫二名トス

巡查募集及採用

明治七年八月七日巡查採用規則ヲ定ム

巡查教習及訓練

明治二十二年五月巡查教習所ヲ開設ス

各警察署分署及教習所等巡查定員

自明治二十二年  
 至同四十二年  
 (表中ハ未設置  
 又ハ廢止ヲ示ス以  
 下各表亦同)

署別	高松警察署		百相警察署		丸龜警察署		琴平警察署		多度津警察署	
	總員	本署員	總員	本署員	總員	本署員	總員	本署員	總員	本署員
明治二十二年四月廿二日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同二十三年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同二十四年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同二十六年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同二十八年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同三十年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同三十二年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同三十四年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同三十六年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同三十八年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同四十年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六
同四十二年三月三十一日	八	六	八	六	八	六	八	六	八	六







部 署 別	定員	巡査部長	助 手	事務員	環 備	水 上	教 習 生	派 出 所	署 在 地	駐 在 所	合 計	明治三十一年三月三十一日	
												定員	巡査部長
巡査教育所	1											1	1
三本松警察署	1											1	1
引田分署	1											1	1
長尾警察署	1											1	1
津田分署	1											1	1
志度分署	1											1	1
平井分署	1											1	1
土庄警察署	1											1	1
高松警察署	1											1	1
百相警察署	1											1	1
坂ノ上分署	1											1	1
瀬宮警察署	1											1	1
栗熊分署	1											1	1
坂出警察署	1											1	1
合 計	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	13

三〇六

部 署 別	定員	巡査部長	助 手	事務員	環 備	水 上	教 習 生	派 出 所	署 在 地	駐 在 所	合 計	明治三十一年四月十九日	
												定員	巡査部長
巡査教育所	1											1	1
高松警察署	1											1	1
丸龜警察署	1											1	1
瀬宮警察署	1											1	1
坂出警察署	1											1	1
栗熊分署	1											1	1
丸龜警察署	1											1	1
平井警察署	1											1	1
多度津警察署	1											1	1
高松警察署	1											1	1
高松警察署	1											1	1
坂ノ江分署	1											1	1
合 計	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	13

三〇六



部 署 別	明治三十一年三月		同		同		同		同	
	巡査定員	巡査部長	内助	外助	事務員	豫備	水上	教習生	派出所	署在地
引田分署	1									
長尾分署	1									
津田分署	1									
志度分署	1									
平井分署	1									
土庄分署	1									
高松分署	1									
百相分署	1									
坂上分署	1									
瀬宮分署	1									
栗熊分署	1									
坂出分署	1									
丸龜分署	1									
宇平分署	1									
多度津分署	1									
普通守分署	1									
高瀬分署	1									
観音寺分署	1									
姫ノ江分署	1									
合 計	18									

三〇二

部 署 別	明治三十一年三月		同		同		同		同	
	巡査定員	巡査部長	内助	外助	事務員	豫備	水上	教習生	派出所	署在地
三木松警察署	2									
警察部	2									
巡査教育所	2									
普通守警察署	10									
多度津警察署	1									
丸龜警察署	1									
宇平警察署	1									
多度津警察署	1									
高瀬警察署	1									
観音寺警察署	1									
姫ノ江分署	1									
合 計	28									

三〇六



部 署 別	明治三十一年三月		明治三十一年四月		明治三十一年五月		明治三十一年六月		明治三十一年七月		計
	巡査定員	巡査部長	内 勤	外 勤	内 勤	外 勤	内 勤	外 勤	内 勤	外 勤	
警 察 部	三										三
巡査教習所	六										六
長尾警察署	八										八
津田分署	一										一
志度分署	一										一
三本松分署	一										一
引田分署	一										一
合 計	二二										二二
關宮警察署	三										三
岡田分署	一										一
坂山警察署	一										一
丸龜警察署	一										一
宇平警察署	一										一
多度津警察署	一										一
津邊寺分署	一										一
高瀬警察署	一										一
觀音寺警察署	一										一
盤濱分署	一										一
合 計	二二										二二

部 署 別	明治三十一年三月		明治三十一年四月		明治三十一年五月		明治三十一年六月		明治三十一年七月		計
	巡査定員	巡査部長	内 勤	外 勤	内 勤	外 勤	内 勤	外 勤	内 勤	外 勤	
警 察 部	三										三
巡査教習所	六										六
三本松警察署	一										一
引田分署	一										一
長尾警察署	一										一
津田分署	一										一
志度分署	一										一
平井分署	一										一
土庄警察署	一										一
高松警察署	一										一
佛生山警察署	一										一
坂ノ上分署	一										一
合 計	二二										二二



警署別	警務課		保安課		衛生課		警務所	
	警務	課	保安	課	衛生	課	警務	所
長尾警署	1	1	1	1	1	1	1	1
引田分署	1	1	1	1	1	1	1	1
三本松分署	1	1	1	1	1	1	1	1
津田分署	1	1	1	1	1	1	1	1
志度分署	1	1	1	1	1	1	1	1
平井分署	1	1	1	1	1	1	1	1
坂ノ上分署	1	1	1	1	1	1	1	1
土庄分署	1	1	1	1	1	1	1	1
草壁分署	1	1	1	1	1	1	1	1
高松警署	1	1	1	1	1	1	1	1
佛生山警署	1	1	1	1	1	1	1	1
坂出警署	1	1	1	1	1	1	1	1
瀧宮分署	1	1	1	1	1	1	1	1
岡田分署	1	1	1	1	1	1	1	1
丸龜警署	1	1	1	1	1	1	1	1
善通寺警署	1	1	1	1	1	1	1	1
多度津分署	1	1	1	1	1	1	1	1

三二

警署別	警務課		保安課		衛生課		警務所	
	警務	課	保安	課	衛生	課	警務	所
平井警署	1	1	1	1	1	1	1	1
坂ノ上分署	1	1	1	1	1	1	1	1
土庄警署	1	1	1	1	1	1	1	1
高松警署	1	1	1	1	1	1	1	1
佛生山警署	1	1	1	1	1	1	1	1
坂出警署	1	1	1	1	1	1	1	1
瀧宮分署	1	1	1	1	1	1	1	1
岡田分署	1	1	1	1	1	1	1	1
丸龜警署	1	1	1	1	1	1	1	1
善通寺警署	1	1	1	1	1	1	1	1
多度津分署	1	1	1	1	1	1	1	1
李平分署	1	1	1	1	1	1	1	1
高瀬分署	1	1	1	1	1	1	1	1
高瀬分署	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	1	1	1	1	1	1	1	1

明治三十五年三月期第四六號

明治三十五年四月期第六四號

明治三十二年四月號

三二



部 署 名	明治三十五年三月訓第四六號				明治三十五年四月訓第六四號			
	部長	内勤	外勤	計	部長	内勤	外勤	計
平井警察署	1			1	1			1
土庄警察署	1			1	1			1
草壁警察署	1			1	1			1
高松警察署	1			1	1			1
佛生山警察署	1			1	1			1
坂山警察署	1			1	1			1
滝宮警察署	1			1	1			1
丸龜警察署	1			1	1			1
善通寺警察署	1			1	1			1
多度津警察署	1			1	1			1
宇平警察署	1			1	1			1
観音寺警察署	1			1	1			1
豊波警察署	1			1	1			1
合 計	13			13	13			13

  

部 署 名	明治三十八年二月訓第五十二號				明治四十一年三月訓第一百十八號			
	部長	内勤	外勤	計	部長	内勤	外勤	計
長尾警察署	1			1	1			1
三本松警察署	1			1	1			1
津田警察署	1			1	1			1
志度警察署	1			1	1			1
合 計	4			4	4			4

部 署 名	明治四十一年三月ヨリ三本松分署ヲ引田分署トシ津田分署ヲ志度分署ニ合併ス			
	部長	内勤	外勤	計
平井警察署	1			1
土庄警察署	1			1
草壁警察署	1			1
高松警察署	1			1
佛生山警察署	1			1
坂山警察署	1			1
滝宮警察署	1			1
丸龜警察署	1			1
善通寺警察署	1			1
多度津警察署	1			1
宇平警察署	1			1
観音寺警察署	1			1
豊波警察署	1			1
合 計	13			13

備考 明治四十一年三月ヨリ三本松分署ヲ引田分署トシ津田分署ヲ志度分署ニ合併ス

請願巡査

明治十四年四月内務省達乙第二十二號ヲ以テ請願ニ依リ巡査配置ニ關スル件ヲ達セラレタルヲ以テ同十六年愛媛縣甲第七十一號巡査配置請願規則ヲ制定ス



同二十四年三月本縣令第二十九號ヲ以テ同規則ヲ改正ス

三一六

### 安寧警察

#### 集會

明治十三四年ノ交立志社員各所ニ演說會ヲ開設シ自由民權ノ說ヲ主張セシコトアリ當時未タ集會條例ノ發布以前ニアリシモ其演說會ノ取締方ハ現行治安警察法ニ於ケル政談集會ト異ナルコトナシ是即本地方ニ於ケル政治的集會ノ濫觴トス後集會條例發布セラレ繼テ政談集會政社法ヲ以テシ又之ニ繼テ集會政社法トナリ遂ニ現行治安警察法ヲ發布セラル、ニ至ル

同二十三年帝國議會創設ニ當リ自カラ國民ノ政治思想勃興シ或ハ政黨ニ加盟シ若クハ政黨ニ結托シ互ニ其勢力ヲ争ヘリ其年衆議院議員總選舉ニ當リ各政黨ハ各自黨ヨリ議員ヲ撰出セントシ其候補者ノ推擧ニ努メ之カ勢力ヲ擴張スルノ手段トシテ大ニ政談集會ヲ開設スルニ至レリ即同年中ニ於ケル開會度數ハ百十二演者二百人演題二百四十四ノ多キニ及フ其狀況推知スルニ足レリ而テ司法處分ニ附セラルル者ノ如キハ僅ニ三人アルノミ其後二十五年ノ總選舉ニアツテハ開會十一同二十七年ニ在テハ開會五十同三十年ハ開會二同三十一年ハ開會三同三十五年ハ開會九

十四同三十六年ハ開會百〇八同三十七年ハ開會三十九同三十八年ハ開會二十四同三十九年ハ開會六同四十年ハ開會十二以上ヲ比較スルニ三十年ヲ除クノ外ハ平年ニ於ケル開會ヨリモ其度數多シト雖モ其數二十三年ニ若クモノナシ又非政談集會ニ於テモ其盛シナリシハ二十三年ニシテ開會度數百十二演者二百人演題二百四十四ナリ而テ其最モ少ナキハ三十年ニシテ開會度數十一ニ過キヌ又政談集會ハ固ヨリ警察ノ取締ニ任シ非政談集會ハ警察ノ取締外ニ屬スルモ治安ヲ妨害シ若クハ風俗上ニ關シ必要ト認ムルトキハ警察官ハ法令ニヨリテ其取締ヲ爲スト雖モ然ラサルモノハ自由ヲ尊重シテ其伸張ニ任スレハ演者亦之ヲ慎ミ敢テ違犯セサレハ非政談集會ニシテ著シキ處分ヲ要セシモノナシ

#### 新聞紙及雜誌

明治十四五年以來本縣ノ新聞紙トシテ發兌セシモノ若干アリ其主ナルモノハ新聞ニハ南海日報、腰拔新聞アリ雜誌ニハ屋山旭影、純民雜誌等アリシモ皆中途ニシテ廢絶セリ

同二十二年二月讚岐日報ヲ發兌シ尋テ香川新報出テ讚岐新聞出テ其他日刊、週刊、若クハ月刊ノ新聞雜誌陸續トシテ發行スル僅少ナラス蓋本縣三置後ニ於テスルモノ

三一七



新聞紙ノ種類總數十有五ニシテ雜誌ノ總數三十有二トス而テ其現今刊行中ニ係ルモノハ香川新報三十二年三月始刊讀岐日日新聞三十三年一月始刊讀岐實業新聞三十五年十一月始刊ヲ主眼トス而テ此三新聞ハ皆本縣公布式ノ新聞トス其他香川縣公文月報大阪朝日新聞高松號外大阪每日新聞讀岐號外香川縣教育會雜誌俳海廻潮讀岐新報商友時報等ニシテ其他ハ既ニ廢刊ヲ届出テ若クハ自然廢刊スルモノトス以上ノ新聞雜誌ニ於ケル其記事ノ如キ各嚴正謹肅ニシテ發行ノ禁停ニ遇フモノナク世ノ木鐸ニ任シ社會ノ進歩ヲ補助スルハ當ニ其新聞雜誌社ノ幸福ノミニアラサルナリ

### 銃砲、火藥、烟火

銃砲ハ其使用上頗ル危險ナルモ殊ニ火藥類ハ爆發性ノモノナレハ危險最甚シ故ニ二者ハ一種ノ財産ナルモ中央政府ハ夙ニ其取締法ヲ設ケ其商人ヲ制限シ所有者ヲ取締レリ地方廳ハ之ニ由ツテ其施行ヲ慎重セシメ以テ其危害ヲ豫防セシムルニ勉ム明治二十二年末ノ調査ニ依レハ銃砲商二人火藥商四人ナリシカ漸次之ヲ増加シ四十年末ニ於テハ銃砲商十人火藥商十三人ナリ而テ此等ノ商人間ニ於テ未タ甚シキ危害ノ生セザリシハ畢竟其注意ヲ怠ラサルニ依レルナラン  
烟火ノ裝填ニ至テハ一層爆發ノ危險ヲ豫防セサルヘカラサレハ明治二十年三月愛

媛縣甲第三十六號ヲ以テ烟火製造販賣并ニ打揚取締規則ヲ設ケ其取締ヲ爲セシカ後同三十一年十月本縣令第百十三號烟火取締規則ヲ發シ之ヲ改正ス其大要ハ製造受負人及打揚ニ關スルモノニシテ其旨趣ヲ能ク遵守セシモ往々製造者ハ其取扱ニ慣レ注意ヲ怠リ自カラ不測ノ害ニ遭遇セシコトアリ四十年末ノ調査ニ依レハ現在烟火製造ノ免許ヲ受ケシモノ四十三人ニシテ其請賣者六百〇一人ナリ

### 威銃

明治三十一年九月縣令第百七號ヲ以テ威銃發射取締規則ヲ發布ス其要旨タル元來銃砲ハ其使用ヲ誤ルトキハ危險最モ甚シキカ故ニ漫リニ其發射ヲ許サ、ルモ林野田畑等植物ノ妨害ヲ爲ス鳥獸驅逐ノ爲ニスルハ公益上止ムヲ得サルモノナルヲ以テ審査ニ依リテ之ヲ許否ス

### 射的場

本則ニ對シ明治三十一年十月縣令第百十二號ヲ以テ射的場取締規則ヲ發布ス其要旨タル射的ト雖トモ狩獵等ノ實用ニ供スル設備ナレハ他日ノ危險ヲ防クカ爲メ取締ノ必用アルヲ以テナリ

### 電氣



電燈線ヲ施設シ他人ノ需ニ應シ電氣ヲ供給スル營業ヲ爲スモノ、爲メ通信省ノ認可ヲ經テ明治二十七年十一月縣令第五十號ヲ以テ電氣營業取締規則ヲ發布セシカ  
翌二十八年十二月始テ高松電燈株式會社設立ノ出願ニ對シ該營業ノ免許ヲ與ヘシ  
カ同三十年六月通信省令第十四號電氣事業取締規則ノ發布アリシカ爲メ本縣ノ制  
定セシ規則ハ自然消滅ニ歸シ該省令ヲ以テ之ヲ取締リシカ又三十五年八月省令第  
三十六號ヲ以テ同規則ヲ改正セラレタリ四十年末ノ調査ニ依レハ高松電燈株式會  
社、讚岐電氣株式會社ノ二社ナリシカ其電氣供給ノ區域ハ前社ハ高松市及接續香川  
郡東濱村後社ハ丸龜市及多度津善通寺琴平ノ三町トス此兩社ヲ通シテ電燈個數六  
千〇七十個、電柱六百八十一本ニシテ電線路延長五十四万五千三百四十五尺ナリ而  
テ營業開始以降施設上ヨリ起ル危害ハ曾テ暴風ノ爲メ電線ヲ地上ニ吹キ落シタル  
ニ行人墜テ之ニ觸レ將ニ大事ニ及ハントセシコト及丸龜市通町書肆ニ取付アル可  
挽紐線ノ毀損ニ由リ漏電セシ爲メ同家夫妻負傷セシコトアルノミニシテ其他未タ  
曾テ被害ノ事アラス。

### 陸上蒸氣機關

蒸氣ノ原動力ニ因リ厚生ノ途ヲ開クモノ運輸ノ便ニ供スルノ外諸種ノ機械ニ使用

セシモノ其利甚タ大ナルモ亦之ニ伴フ危害固ヨリ少カラサレハ明治二十七年十月  
縣令第四十七號ヲ以テ陸上蒸氣機關取締規則ヲ設ケ其設置及使用ニ關スル取締ヲ  
爲セリ其後各種ノ事業勃興スルニ從ヒ使用ノ種類増加シ益其危險ヲ豫防セサルヲ  
得サルニ至レリ是ヲ以三十年十二月縣令第百號ヲ以テ此規則ヲ改正シ其取締ヲ嚴  
重ニス而テ機關据付検査証書ヲ附與スルコトヲ始メシハ二十八年三月ニシテ同年  
末現在數八ナリシモノ年々増加シ四十年末ニハ八十八ノ多キニ至ル而シテ曾テ一回  
汽鐘ノ破裂シタル外大ナル危害ヲ起セシコトナシ茲ニ四十年末現在ノ機關使用ノ  
種類ヲ舉レハ左ノ如シ

- 精穀 精米 製粉 製絲 製紙 棉花 紡績 煙草 醬油 藥品 消毒
- 製水 浴湯 電燈 其他諸種ノ製作用 試驗用 實習用等ナリ

### 石油發動機

石油ノ原動力ニ因リ諸種ノ機械ヲ使用スルモノアリ其危險蒸氣電氣ノ如ク甚シカ  
ラサルモ或ハ火災ノ原因ト爲リ其他常置ニ依リ妨害ナキヲ免レス是以テ明治三十  
二年六月縣令第六十五號ヲ以テ石油發動機取締規則ヲ發布セシカ取締施行以後未  
タ之レカ危險ニ遭遇セシコトナシ四十年末現在ノ据付總數ハ九十二ニシテ其使用



種類ハ精米、精穀、製紙、印刷物用ナリ

三三三

### 家屋建築

仲多度郡元善通寺村ヲ以テ第十一師團新設地トシテ該新築工事ノ起ルト共ニ同村及其附近地ニ市街地ト豫定スル區域内ニ對シ相當ノ設備ヲ要スルヲ以テ明治三十年七月縣令第七十一號ヲ以テ家屋建築規則ヲ制定シ建築上諸般ノ取締ヲ爲セリ

### 消防

凡火災ノ消防ハ隣佑救護ノ義務トシテ從來各市町村部落ニ於テ往々消防器具ヲ準備シ壯者ヲシテ事ニ當ラシムルノ慣習アリシモ其組織完カラス紀律齊シカラサレハ應急警防ノ方法遺憾ナキ能ハサリキ明治二十七年勅令第十五號消防組規則ニ於テ其設置區域組織及指揮監督方法ノ事ヲ規定セラル之ニ據リ同年五月縣令第三十七號ヲ以テ之カ施行細則ヲ定メ各町村ノ中最モ必要トスヘキモノヲ甲乙ニ分テ其甲ニ屬スルモノヲ四十七、乙ニ屬スルモノヲ百三十八ヶ町村トシテ設置ケ所ヲ指定セラル而シテ乙ニ屬スル町村ハ當分設置ノ延期ヲ許セリ於是始テ公設消防組ノ設置ヲ見ルニ至ル尋テ三十四年三月縣令第二十四號ヲ以テ之ヲ改正シ更ニ其設置ヲ二市十八町村トシ其他ノ町村ハ必要ニ臨ミ町村長ヨリ申請スヘキモノトシタリ是

ヨリ公設消防組ハ面目ヲ一新シ居常服務紀律ノ下ニ進退シテ其行動相齊ヒ器具被服亦整頓シ若緩急ニ際セハ直ニ平常ノ訓練ヲ實地ニ施シ遺憾ナキニ至レリ又公設消防組ハ火消ノ外時機ニ依リ水害警防ニ應セシムルコト、セリ

現行消防組ノ設置アルハ高松市九龜市大川郡引田松原三本松丹生長尾津田鶴羽志度木田郡平井坂ノ上小豆郡土庄洲崎草壁香川郡佛生山宮脇栗林東濱中笠居鷺田綾歌郡瀧宮坂出宇多津仲多度郡琴平板井四條善通寺多度津三豐郡仁尾觀音寺豐濱詫間河内ノ二市三十二ヶ町村トス

### 瘋癲人

明治十一年六月愛媛縣甲第八十二號ヲ以テ瘋癲人看護及不良子弟救戒ノ爲メ不得止私宅ニ於テ鎖鑰セントスルモノヘ願出方ニ付布達アリタルモ三十一年九月本縣令第九十八號ヲ以テ之ヲ廢止シ同三十三年三月法律第三十三號ヲ以テ精神病者監護法ノ發布アリ之ニ由テ同年八月縣令第七十八號ヲ以テ私宅監置ニ關スル願屆手續ヲ制定ス

### 寄附金募集

明治二十九年一月縣令第五號ヲ以テ寄附救恤其他名義ノ如何ニ拘ハラヌ義捐惠與

三三三



トシテ金錢物品ノ取出ヲ他人ニ勸誘シ之ヲ募集セントスル者ノ詐害ヲ防カントス  
又神社寺院及佛堂ニシテ明治三十一年内務省令第六號ニ依リ其殿堂庭園什寶等ヲ  
觀覽セシムル爲メ料金ヲ徵收スルモノ若クハ寄附金募集出願方ニ關シ同三十一年  
縣令第七十五號ヲ制定ス

### 通俗モグリ代言

法令ニ違據セスシテ他人ノ訴訟或ハ爭議ニ關シ自己ノ利ヲ謀ラントスルカ如キモ  
ノハ良民ヲ害スルノ虞アレハ之ヲ取締ル爲メ明治三十七年十一月縣令第六十六號  
ヲ以テ警察令ヲ發布ス

### 畜犬

凡犬ハ咆哮シテ行人ヲ驚カシ或ハ咬傷スル等アルヲ以テ明治十四年十月愛媛縣甲  
第九十五號ヲ發布シ野犬撲殺ノ道ヲ開キ又第九十六號ヲ以テ游犬獵犬ノ如キハ飼  
主ヲシテ其首ニ木標ヲ付セシメ置若シ人ヲ咬傷スル如キモノアレハ飼主ニ告知シ  
テ歐殺セシムルコト、爲セシ以來其害ヲ減少シタルモ尙往々咬傷ノ害アレハ三十  
七年七月縣令第四十五號ヲ以テ畜犬取締規則ヲ制定ス

### 風俗警察

#### 獅子遣、太鼓臺奉納

古來ノ習慣トシテ神社祭典、神輿渡御ノ際、敬神ノ正道ニ悖戻シ奉納ノモノニ關シ喧  
嘩鬭爭等ヲ爲セシ惡弊ヲ矯正セントシ明治十一年十月愛媛縣第百二十九號布達ヲ  
發シ獅子遣、太鼓臺ヲ奉納セントスルトキハ氏子一同協議ヲ遂ケ決シテ粗暴ニ涉リ  
間敷誓書ヲ提出セシメ以テ其取締ヲ爲シタリ後漸ク此等ノ惡弊ヲ減少セシニ依リ  
三十一年九月縣令第九十九號ヲ以テ愛媛縣甲第百二十九號ノ布達ヲ廢止ス

### 盆踊

古來本縣ノ習俗トシテ盂蘭盆會若クハ其前後ニ在テ男女相集リ或ハ男ニシテ女装  
シ女ニシテ男装シ其他隨意ノ異裝ヲ爲シ路上ニ環列シ音頭ナルモノ、唱詠ニ和シ  
手舞足踏一種ノ游戲ヲ爲セリ其曲ハ鄙ニシテ其狀ハ野ナリ如此クシテ日暮ヨリ深  
更ニ至リ甚シキハ徹夜スルモノアルニ至ル因襲ノ久シキ一朝之ヲ禁止スルハ甚ク  
難事ナルモ文化ノ進運ニ伴ヒ默止スルニ忍ヒス明治十年愛媛縣甲第九十九號ノ告  
諭ヲ發シ其眠ヲ醒サントスルモ所謂大聲里耳ニ入ラサルノ憾アリ是ヲ以テ又同十  
四年八月甲第百十七號ヲ發シ之ヲ禁止スルモ尙異名同實ノ所爲アラシコトヲ慮リ  
同九月甲第百六十五號ヲ發シ渾テ路上ニ於テ男女混同手踊又ハ俄カト唱フルモノ



ヲ爲スヘカラスト布達ス乃チ稍其勢ヲ減スルト雖ハ猶且窮カニ原野山林ノ間ニ隱見出沒舞踏ヲ爲シ禁止令ハ實際ニ行ハレサリキ是ヲ以テ本縣三置後二十二年八月縣令第五十二號ヲ以テ更ニ禁止令ヲ廢シ同時ニ習慣ニ依リ盆踊ヲ爲サントスルモノトス是ヨリ風俗上衛生上ニ於テ大ニ面目ヲ改ムルモ改正條約實施ノ際ニ當リ猶之ヲ存續スル時ハ時運ノ進歩ト相反シ國民ノ品位ヲ保全スル所以ニアラサレハ更ニ三十二年八月告諭第三號ヲ發シ其廢絶ヲ期セシメソトヲ警告レ一方ニハ警察ノ取締ヲ勵行シタリ是ヲ以テ爾來漸ク其習俗ヲ絶スルニ至レリ

### 遊技場

凡游戲ハ個人ノ娛樂ニ一任レ干涉スヘカラストモト雖トモ其場所ヲ設ケ公ニ衆人ノ娛樂ニ供スルモノマテモ之ヲ自由ニ放任スルトキハ其種類ニ依リ或ハ風俗ヲ紊亂スル虞ナシトセス依テ明治二十二年八月縣令第五十八號ヲ以テ遊技場取締規則ヲ設ケ公衆ノ娛樂ニ供スル營業ヲ爲スモノヲシテ之ニ據ラシム同年末ノ調査ニ依レハ常設遊技場ヲ許可セシモノ六ヶ所アリ其種類ハ大弓揚弓室內射的是ナリ以後漸ク其數ヲ増加シ四十年末ノ現在ハ五十一ヶ所トナル又神社ノ祭典寺院ノ緣日其他

衆人群集ノ場所ニ於テ臨時ニ遊技場ヲ開設スルヲ許可セシコトアルモ其取締ノ嚴重ナル爲メ危害ハ勿論風俗ヲ紊スカ如キハ未タ之アラス

### 料理屋及飲食店

此兩業ハ殆ント同一ノ狀ヲ呈スルモ料理屋ナルモノハ來客ノ注文ニ應シ割烹調理シ以テ飲食セシメ飲食店ナルモノハ豫メ粗糲ノ食物ヲ店頭ニ陳列シ顧客ノ求ニ應スルモノ是ナリ右等ノ營業ニ對シテハ自カラ風俗上及衛生上ノ取締ヲ要スルヲ以テ明治二十二年八月本縣令第六十號料理屋及飲食店營業取締規則ヲ制定シ三十七年十一月本縣令第六十四號ヲ以テ之ヲ改正セリ而テ二十二年末現在料理屋百八十四戶飲食店二千八百七十一戶ナリシカ四十年末ニ於テハ料理屋五百八十九戶飲食店二千九百六十六戶ノ増加ニ至レリ

### 演藝及遊觀物

今ヤ世間ニ行ハル、芝居角力歌舞音曲又ハ手品輕業ノ類アリ之ニ營業ト自娛トノ二種アリテ自娛ノ爲メニナス者之ヲ素人ト云ヒシカ一時素人俳優盛シナリシモ元來演藝ハ正業ニアラサル浮薄ノ所爲ニシテ淫逸ニ流レ易キヲ以テ明治十四年十月愛媛縣甲第七號ノ諭達ヲ發シ少壯ノ輩俳優ニ擬シ雜劇ヲ演スルコトヲ禁セシカ



文選進歩正業行ハル、ニ從ヒ素人演劇ヲ爲セシモノ次第ニ減少セリ然レトモ劇齣曲譜等各々時好ヲ越テ新作續出シ或ハ治安ヲ害シ風俗ヲ紊ルモノナシトセズ且劇場寄席又ハ興行場又ハ珍奇ノ物或ハ鳥獸ノ類ヲ置クモノヲ觀世物場ト云フ而シテ其常設ト假設トヲ問ハス建物又ハ其設備ノ衛生上其他危險ノ虞ナキヲ保セス於是二十二年八月縣令第六十一號興行場取締規則ヲ發シ之カ取締ヲ爲シ又同月縣令第五十七號觀世物取締規則ヲ發ス蓋時運ノ進歩ハ規則改正ノ必要ヲ催シ三十二年六月縣令第七十號興行場及興行取締規則ヲ發布シ凡テノ演藝及游觀場ハ此規則ヲ以テ保護且矯正セリ之ヲ統計ニ徵スルニ明治二十二年末現在數劇場十寄席九ナリシモ四十年末ニ於ケル現在ハ常設劇場十八同寄席五同觀覽場一臨時劇場一千八百七十七同寄席九十九同興行場一千五百三十六興行度數三千三百八十六(管制二千三百九十四 放樂九百九十二)

遊藝營業人

正業ヲ疎外シ以テ優游光陰ヲ徒過スルハ大ニ風俗ヲ紊亂スルノ恐レアルモ唯游藝ヲ以テ營業ト爲ス如キハ或ハ止ムヲ得サルノ事情ノ存スルモノニシテ寧ロ之ヲ公認セハ却テ一般ノ風俗ヲ矯正スルニ益ナシトセザレハ明治二十二年八月本縣令第五十九號游藝營業人取締規則ヲ發布ス其游藝ト稱スルハ相撲行司俳優游藝師匠游藝稼人及藝妓トス而テ藝妓ハ三十三年縣令第二十三號藝妓取締規則ヲ設ケ之ヲ別異シ其他ハ二十二年八月發布ノ取締規則ニ依リ取締リシモ游藝營業人ニ關シテハ興行場及興行取締規則ニ基キ取締ルノ途アルヲ以テ鑑札下付等ノ手續ハ郡市役所ノ所管ニ屬セシムルコト、シ同規則ハ明治三十九年七月之ヲ廢止ス

藝妓

婦女ニシテ歌舞音曲ヲ以テ客席ニ侍シ巧言令色游興ヲ助クルモノヲ藝妓トス世趨漸ク浮華奢靡ニ流ル、ニ依リ此種ノ營業ヲ爲スモノ甚々多ク爲メニ淳風良俗ヲ害スル虞アレハ明治二十二年本縣令第五十九號游藝營業人取締規則ヲ發シ際藝妓亦此範圍中ニ加ヘ其取締ヲ爲セシカ其弊害益多ケレハ同三十三年三月縣令第二十三號ヲ以テ特ニ藝妓取締規則ヲ發布シ藝妓ヲ二種ニ分チ其游藝ヲ以テスルモノヲ甲種トシ仲居酌婦ト稱スルモノヲ乙種トシ以テ之レヲ取締レリ而シテ二十二年末現在ノ員數ハ藝妓百二十人ナリシカ四十年末ノ取調ニ依レハ甲種四百六十二人乙種百四十九人トス

娼妓貸座敷

淫ヲ嚮クヲ以テ業トナスモノニシテ固ヨリ背徳ノ醜業ナレハ默視スヘカラスト雖



トモ因襲ノ久シキ遺ニ之ヲ禁止スヘカヲナルノ情アレハ寧ロ其程度ヲ定メ公認シ  
 テ以テ之ヲ取締ルニ如カサレハ明治十八年九月愛媛縣甲第百十四號貸座敷及娼妓  
 營業取締規則ヲ發シ娼妓ハ貸座敷外ニアツテ其營業ヲ許サスト爲シ貸座敷業ハ普  
 通ノ料理屋宿屋ノ類ト異ニシテ游客ニ娼妓ヲ紹介シ兩者相關シ營業ヲ爲スモノヲ  
 云フ如此キ淫逸醜陋ノ營業ハ精々其風習ヲ社會ニ波及セシメサルヲ期シ貸座敷業  
 ヲ許スヘキ地域ヲ限リ高松八重垣坂出明神町丸龜新堀琴平内町及金山寺町多度津西  
 濱ト爲セリ後同二十四年七月縣令第四十八號ヲ以テ其規則ヲ改正ス内務省ハ三十  
 三年十月省令第四十四號ヲ以テ一般ニ娼妓取締規則ヲ發布セラレ其結果本縣亦同  
 年同月第九十號娼妓取締規則施行令ヲ發シ又翌十一月縣令第九十三號ヲ以テ貸座  
 敷取締規則ヲ發シ從前ノ規定ヲ廢シ更ニ地域ハ高松市東濱町ノ内八重垣丸龜市西  
 平山町ノ内新堀同市福嶋町ノ内辨天筋坂出町ノ内沖港浦琴平町ノ内富士見町多度  
 津町ノ内西濱善通寺町ノ内砂古裏トシ一層取締ヲ勵行シ以テ今日ニ至ル明治二十  
 二年末現在數貸座敷七十八戶娼妓百九十七人ナリシカ四十年末ニ至リ貸座敷百二  
 十三娼妓四百六十五人ナリ

勞務者募集

明治三十三年十二月縣令第百五號ヲ以テ勞務者募集取締規則ヲ發布セシハ他府縣  
 ニ於テ職工徒弟其他勞務ニ服セシムル爲メ本縣内ニ於テ婦女及未成年者ヲ募集セ  
 ントスル者ニ對シ其詐害ヲ防カントスルニアリ既ニ三十年九月縣令第八十五號職  
 工募集届出ニ關スル手續ノ施行アルモ必要ノ爲メ更ニ之ヲ改正セリ

富籤類似ノ所業

富籤類似ノ所爲ハ明治二十六年縣違警罪目中ニ禁止ノ一項ヲ置キタルモ條文簡約  
 ナルカ爲メ類似ノ所業ヲ爲ス者ヲ禁スルニ於テ効力薄キヲ以テ明治三十三年五月  
 縣令第五十二號ヲ以テ圖引投票當物其他名義ノ何タルニ拘ハラヌ富籤ニ類似スル  
 僥倖ヲ冀フ方法ヲ以テ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與ヲ約スル所業ヲ爲シタル者ニ對  
 スル警察令ヲ發セリ然ルニ同月内務省令第二十六號ノ發令アリ賣買其他ノ取引ニ  
 附隨シテ富籤類似其他射倖ノ方法ヲ用カンコトヲ提供スル行爲ニシテ公安又ハ風  
 俗ヲ害スル虞アリト認ムルモノハ廳府縣長官ニ於テ之ヲ禁シ又ハ制限スルコトヲ  
 得トセラレタルニ依リ同年六月縣令第五十八號ヲ以テ最前ノ縣令第五十二號ヲ廢  
 止ス



本縣ハ眞言宗祖弘法大師誕生ノ地ニシテ所謂四國八十八箇所ニ屬スル古刹縣内ニ散在セシカ崇信ノ徒順拜スルモノ少カラス殊ニ不具者癘疾者若クハ難病ニ罹ル者其平愈ヲ祈ル爲メ陸續トシテ來ルモノ多キモ概ネ無旅費ニシテ人家ノ門戸ニ立テ或ハ米錢或ハ殘食ヲ乞ヒ以テ生活スルモノ滔々是ナリ然ルニ善根ト稱シ之ニ米錢ヲ給シ又ハ屋舎ヲ借シ宿泊セシムルモノ多キモ人以テ怪マス於是無賴ノ徒之ニ疑セルモノ亦多シ故ニ時々盜難ニ係ルモノ少ナカラス愛媛縣合治ノ際此弊習ヲ除カントセシモ其効ヲ見ルコトヲ得ス後明治二十四年七月之カ措置法ヲ講シ警察官ハ各所ニ徘徊スル乞丐ニ對シ其原籍ノ在ル所ヘ歸住ヲ説諭シ一方ニハ各市町村ニ濟貧ノ法ヲ設ケ舊住乞食以外ノ徒ニハ一切金錢物品ヲ惠與セサルコト、ナシ此法ヲ一齊ニ施セシヲ以テ稍一時其効ヲ見ルコトアルモ未タ全ク其宿弊ヲ阻止スルコトヲ得ナリキ

營業警察

古物商及質屋

此種ノ商業ハ犯罪ニ依リ得タル物品ノ授受ニ密接ノ關係アルヲ以テ主トシテ其不正ノ行爲ヲ防クヲ目的トシ及其他傳染病ノ媒介ヲ豫防セン爲メ中央政府ハ明治十

六年第五十號布告古物商取締條例同十七年第九號布告質屋取締條例ヲ設ケラレタリ是ニ依テ愛媛縣ハ十七年一月甲第七號古物商取締條例細則同年五月甲第七十九號質屋取締條例細則ヲ布達シ之カ取締ヲナセシカ司法警察事務上ニ於テ其効果勦シトセス其後二十八年三月法律第十三號古物商取締法第十四號質屋取締法ヲ發布シテ舊條例ヲ廢セラルル同年八月本縣令第三十三號古物商取締法令施行規則第三十四號質屋取締法令施行規則ヲ設ケ以テ嚴重ニ之ヲ施行セリ而シテ二十二年末現在數古物商二千七百八十四人質屋商六百三十人ナリシモ四十年末ニ至リ古物商二千二百六十二人質屋商五百〇八人ニ減セリ蓋シ商業共其取締ノ嚴重ナル爲メ不正業者ノ自ラ廢業スル者多キニ由レルナラン

彫刻業

明治十七年十月愛媛縣甲第八十三號布達ヲ以テ取締規則ヲ發布ス營業者ノ數ハ二十二年末現在數八十七人ナリシカ四十年末ニ至リ六十三人ニ減シタリ然レトモ外ニ銅板師十七人活版師五十五人ヲ増セリ

屑屋

明治二十五年十月縣令第八十五號ヲ以テ取締規則ヲ發布ス營業者ノ數ハ四十年末



現在ノ敷居商百四十六人行商三千三百五十三人アリ

### 金刀比羅宮守札容器販賣

古來本宮礎下ニ此守札容器販賣ヲ業トスルモノ多カリシヨリ競争ノ弊遂ニ信者旅客ヲ欺騙スル者アルニ至ル依テ明治二十五年十月縣令第八十四號ヲ以テ規則ヲ設ケ之カ取締ヲ爲セリ

### 湯屋

衆人ノ來浴ニ供スル營業ナレハ固ヨリ清潔ヲ旨トセサルヲ得サルニ其構造設備不完全ニシテ且男女混浴スル陋習アレハ風俗及衛生ニ害アルヲ免レヌ是ヲ以テ明治二十二年八月本縣令第五十六號ヲ以テ湯屋營業取締規則ヲ設ケ其構造設備ヲ完全ナラシメ且火災盜難ノ豫防ニ注意セシム後三十三年七月縣令第六十六號ヲ以テ更ニ之ヲ改正シ今日ニ現行ス二十二年末現在ノ湯屋ノ總數四百六戸ナリシカ四十年末ニ至リ四百四十五戸トナレリ

### 宿屋

此商業ニアツテハ旅客ヲシテ枕ヲ高フシテ安眠シ得ルト否ラサルトハ旅亭ノ注意ニ依レルモノナレハ内務省ハ訓令ヲ發シ宿屋營業取締規則ノ標準ヲ示サレ愛媛縣

ハ明治二十一年一月縣令第十一號ヲ以テ宿屋營業取締規則ヲ設ケ旅客ノ安全ニシテ危害ナカラシムコトヲ務ム後二十六年七月本縣令第五十九號ヲ以テ之ヲ改正シ旅客ノ宿舍ヲ二種ニ分テ旅人宿木賃宿トナシ其宿舍ノ構造設備及旅客ニ對スル注意ヲ一層鄭重ナラシメタリ是ヲ以テ二十二年末宿屋ノ總數ハ千九十八戸ナリシモ四十年末ノ員數ハ旅人宿五百五十一戸木賃宿九百七十四戸ノ多キニ至レリ

### 雇人口入業

此營業ハ雇人ノ需用供給ヲ紹介シテ其報酬ヲ得ルヲ業トスルモノナルモ或ハ此間ニ處シテ詐欺誘拐ノ如キ往々不正ノ手段ヲ用ユル者アルニヨリ明治二十二年八月本縣令第五十五號雇人受宿營業取締規則ヲ設ケ以テ之カ取締ヲナセリ後同三十一年七月縣令第七十二號ヲ以テ之ヲ改正シ雇人口入營業取締規則トシテ嚴重ニ之ヲ執行セリ二十二年末現在雇人受宿ハ三十二人ナリシカ四十年ニ至リ雇人口入業者四百二十二トナレリ

### 案内業

明治三十六年四月縣令第二十號ヲ以テ規則ヲ發布スルモ未タ免許シタルモノナシ

### 代書人



明治三十七年十一月縣令第六十五號ヲ以テ始テ該規則ヲ施行ス

三三六

### 交通警察

#### 街路

明治二十一年一月愛媛縣令第十三號街路取締規則ヲ發布シ後同二十六年八月縣令第六十七號ヲ以テ現行ノ街路取締規則ヲ發布ス其要旨ハ交通ノ安寧ヲ保タン爲メ道路及道舖ニ沿ヒタル下水溝渠並橋梁ニ對スル妨害若クハ危害ヲ取締ルニアリ而シテ市街若クハ準市街ノ街路ヲ撰定シテ其施行地區トセリ

#### 乗合馬車

明治三十一年一月縣令第五號ヲ以テ規則ヲ發布ス營業者ノ數ハ四十年末現在ノ許可線路ハ二十五ニシテ開業セシモノ十四人ナリ

#### 人力車

人肩馬背ニ依リ人ト物トヲ運輸スルノ業其遲緩ナルヲ以テ時運ノ進歩ニ副スル能ハサシハ自然ニ廢棄シ代フルニ人力車ヲ以テシ往來ノ便乘ニ供スル盛ナルニ至リシモ其危險ヲ防キ乘客ノ安全ヲ保タシムル爲メ明治二十年十二月愛媛縣令第九號人力車營業取締規則ヲ制定セシカ又同二十六年八月本縣令第六十八號ヲ以テ

之ヲ改正シ又三十四年十二月縣令七十二號ヲ以テ又之ヲ改正シ遂ニ車体及車夫ノ体裁上ヲモ取締ルニ至レリ二十二年末現在ノ人力車總數ハ千二百六十輛ナリシカ四十年末ニ於テハ二千八百八十六輛ニ及ヘリ

#### 荷車

明治三十七年四月縣令第二十七號ヲ以テ荷車取締規則ヲ發布シ車輪ノ齒幅ハ一定ノ尺度ニ依ラシムヘキコト、シ牛馬車大中車小車ニ區別シ積荷ノ制限ヲ加フル等主トシテ交通上ノ保護取締ヲ爲セシカ其効果大ニ見ルヘキモノアリ

#### 自轉車

自乘運轉シ得ヘキ輕便ノ製出アリテ公道ヲ疾行スルコト漸ク流行シ一般交通ノ安全ヲ保護スル爲メ明治三十四年四月縣令第三十九號ヲ以テ自轉車取締規則ヲ制定セリ

#### 自動車

明治三十七年十一月縣令第六十八號ヲ以テ規則ヲ發布セシモ施行ノ初ニシテ未ダ許可セシモノナシ

#### 渡航業



明治三十年二月縣令第二十六號ヲ以テ規則ヲ發布ス營業者ノ數ハ四十年末現在渡船數四百八十二アリ

### 汽船仲次業

本營業ハ汽船昇降ノ旅客及其荷物ノ運搬ヲ取扱フ業ナレハ婦女子或ハ孤旅ノ客ニ對シテハ殊ニ注意ヲ要スヘキモノナルヲ以テ明治二十二年七月本縣令第六十號ヲ以テ之ヲ改正シ以テ今日ニ至ル而テ二十二年末ノ營業免許ノ總數ハ二十九戸ナリシモ四十年末ハ百五戸ノ多キニ及フ蓋高松港ヲ新築シ且旅客集散ノ年一年多數ナルニヨレルナラン

## 衛生

### 總說

凡人命ノ貴重ナルハ論ヲ待タスト雖凡舊藩ノ治下ニ在テハ未タ曾テ衛生ノ政ヲ施スコトアラズ患者ハ唯醫師ニ一任スルニ過キスレテ藩ニ於テ豫防消毒等ノ事ニ干渉セシコトヲ聞カス蓋流行病ノ傳染性タルヲ知ラサリシカ爲メナル可シ唯傳染病ニ關スル紀事トシテ舊藩ノ史乘ニ載スル所ノモノハ僅ニ享保十八年七月及同十九

年ノ夏季又安政二年春夏ノ交疫病（鼠疫）ノ流行ニ於ケル同五年九月虎狼病（鼠疫）ノ流行ニ於ケルカ如キニ過キス就中安政五年ノ虎列拉病ハ尤猖獗ヲ極メタルモノ、如シ今ヤ醫學大ニ進歩シ隨テ衛生ノ事行政事務ノ重キヲナシ豫防消毒其他人命ヲ保護スルノ設備亦備レリ是レ誠ニ聖代ノ餘澤ナリ今茲ニ本藩ヲ編纂シ之ヲ保健衛生醫務防疫ノ三綱領ニ別チ明治四年立縣以來衛生ニ關スル沿革ノ大要ヲ提記シ特ニ本縣三置以降ノ狀況ヲ撰述スト云フ

### 保健衛生

#### 汚物掃除

明治五年十月道路掃除規則ヲ設ケ爾來路傍ノ一定場所ニ便所ヲ設置セシメ居住者ノ戸前ニ設ケタル便所ハ之レヲ取拂ハシメ又道路ニ惡水ヲ撒布スルコトヲ禁シタリ同三十年八月第十一師團ノ位置決定シタルヲ以テ多度郡善通寺村豫定市街地區内ニ公共下水路ヲ設置スルノ計畫ヲナセリ同三十三年三月高松丸龜兩市ニ掃除監視吏員ヲ設置シ汚水溜ノ設置其他掃除ニ關スル特別規程ヲ定ム同三十七年四月便所取締規則ヲ設ケ其位置構造ヲ具シ警察官署ノ認可ヲ受ケシムルヲトナシタリ

#### 墓地及埋火葬



明治十四年四月傳染病死屍ノ埋葬場ハ通常墓地ノ外ニ開設セシメシヨ郡村地ニ限  
リ通常墓地中人家ヲ距ルニ丁以外ニシテ井泉河流等ニ接近セサル分ハ其區域ヲ二  
分シ其一ヲ傳染病死屍ノ埋葬場ニ充テシムルコトヲ定メ同十七年二月高松九龜多  
度津琴平觀音寺各市街内ノ埋葬地ニ土葬ヲ禁止シ且火葬場ノ新設ハ人家ヲ距ルニ  
丁以外ノ地ニアラサレハ許可セサルコト、シタリ

胎盤胞衣附死体  
洗滌水

明治二十一年三月胎盤胞衣汚血又ハ屍体ノ洗滌水ハ宅内又ハ床下ニ埋却或ハ放流  
スルヲ禁シ胎盤胞衣汚血ハ其葬墓地ノ一隅ニ埋メ屍体ノ洗滌水ハ無害地ニ排除セ  
シムルコト、ス同十七年九月獸畜ノ埋瘞及燒棄場ハ從來個人ノ所爲ニ放任セシモ  
之レニ制限ヲ加ヘ其處置方ヲ布達シ同十八年一月獸畜ノ皮ヲ剥キ又ハ骨肉ヲ肥料  
ニ供セントスルトキハ其町村衛生委員ノ承認ヲ受ケ獸畜埋瘞場ニ於テ之ヲ行ハシ  
ムルコトニ定ム

飲料水附清涼  
飲料

明治十四年五月飲料水取締規則ヲ設ケ同二十一年二月縣立病院ヲシテ水質検査ヲ  
行ハシム同二十三年四月坊間販賣スル肉桂水其他ノ飲料ニ往々不良ノ水ヲ以テ調

製シタルモノアリ衛生上危害アルヲ以テ飲料取締規則ヲ設ケ之ヲ調査セシメ有害  
品ト認ムルモノハ之ヲ棄却セシム同三十三年七月内務省令ヲ以テ清涼飲料水取締  
規則ノ發布ニ依リ同規則施行細則ヲ設ク同四十年五月清涼飲料水取締規則施行細  
則ヲ改定ス

牛乳

明治十四年三月牛乳搾取並ニ販賣取締規則ヲ定ム同二十五年四月牛乳營業取締規  
則ヲ改正シ牛舎ノ構造及搾乳場ノ位置標準ヲ定ム同二十七年六月牛乳ノ反應検査  
異物検査比重検査脂肪検査等ノ概要ヲ各警察本分署ニ示シ取締ヲ勵行セシム同三  
十三年七月内務省令牛乳營業取締規則ニ依リ同規則施行細則ヲ設ケ牛乳搾取乳製  
品製造及請賣營業ノ手續牛舎搾取場等ノ位置構造設備管理方法ヲ規定ス同三十四  
年牛乳結核ノ有無ヲ調査スル必要ヲ認メ獸醫ヲシテ検査ヲ行ハシメ確ニ結核病  
ルヲ認メクルモノハ其搾乳ヲ禁止シタリ

製氷積雪

明治十二年一月氷雪製造並販賣假規則ヲ設ク同二十年一月販賣取締規則ヲ設ケ同  
三十三年七月内務省令ヲ以テ氷雪營業取締規則ノ制定アリタルニ依リ同規則施行



細則ヲ設ク

### 屠畜及屠肉

明治十四年十月屠牛場及牛肉販賣取締規則ヲ制定ス同二十年一月屠畜營業取締規則及屠肉販賣取締規則ヲ定ム同三十二年四月縣費ヲ以テ警察獸醫ヲ置キ屠畜検査ニ從事セシム同三十九年四月法律ヲ以テ屠場法ヲ定メラレタルニ依リ警察獸醫ヲ改メ屠畜検査技手トス

### 檢 癩

明治六年一月娼妓癩毒検査規則ヲ定ム同三十一年三月癩毒検査規則ヲ改正シ娼妓身體検査規則ト名ツク同三十二年四月地方費ヲ以テ娼妓身體検査醫ヲ置キ一週一回検査ヲ行ハシム同三十三年十月內務省令ヲ以テ娼妓規則ヲ發布セラレシニ依リ娼妓取締規則施行令及娼妓健康診断ニ關スル規程ヲ設ケ娼妓身體検査醫ヲ娼妓健康診断醫ト改メ縣費ヲ以テ各遊廓地ニ於テ一週二回健康診断ヲ行ヒ有毒者ハ從前經營スル驅癩院ニ於テ治療セシム同三十四年四月密賣淫健康診断取扱規程ヲ定ム同三十八年四月ヨリ健康診断醫ノ内一人ヲ縣廳ニ置キ一週二回診断ノ内一回ハ巡回診断ヲ爲サシム同四十年五月娼妓疾患統計規程ヲ定ム同年同月娼妓病院規則ヲ

定メ高松九龜普通寺琴平ニ該病院ヲ設立セシム

### 醫 務

#### 病院開廢

明治五年舊高松藩立醫學所ノ遺緒ヲ繼キ高松開業醫長尾益吉柏原謙益高坂柳軒等  
高松天神宮ニ醫學校ヲ假設シ醫生ヲ教養セムトシ富豪ノ義捐金ヲ募リ療病院ヲ附  
屬セシメ公立病院ト稱ス同七年十月之ヲ共立病院ト改稱シ同九年四月再ヒ公立病  
院ノ稱號ニ復シ却テ醫學校ヲ其附屬トナシタリ是ヨリ先キ六年五月以降毎月地方稅  
ヨリ若干金ヲ補助セシカ同十三年四月醫學生徒増加シ經費支ヘ難キニ至リタルヲ  
以テ全部地方稅ノ負擔トス同十六年四月文部省達醫學通則ニ基キ附屬醫學校ヲ廢  
止シ同年六月公立高松病院ヲ縣立トス同二十六年三月高松病院ヲ廢シ其建物及諸  
器械器具ヲ高松市ニ貸與シ同市ニ於テ之ヲ經營ス同四十年四月高松市立高松病院  
ヲ廢シ日本赤十字社香川支部病院ヲ創立ス

#### 醫術開業ニ關スル沿革

明治五年十月一般ノ開業醫ニ告諭シ射利的弊風ヲ一洗シ可命ノ職ヲ全フスルニ努メシ  
ム同七年十月毎大區ニ醫業者集議所ヲ設置セシメ毎月一回會同シ醫業ニ關スル要



務ヲ研究セシム同年文部省布達ヲ以テ種痘條例ヲ設ケ種痘術ニ習熟セル者ニ種痘醫ノ免許ヲ授ク同九年一月内務省ヨリ醫術開業試驗法ヲ達セラレタルニ依リ志願者ニ對シ高松病院ニ於テ試驗セシメ其成績ヲ内務省ニ具狀シ合格者ニ全科又ハ專科ノ免狀ヲ下附ス同十年三月科學研究並ニ學術試驗ノ方法ヲ設ケ之ヲ布達ス同月内務省乙第十四號ヲ以テ醫家ノ子弟ニシテ三年以上醫務ニ從事スルモノハ師家ノ証明ニヨリ醫術開業免狀ヲ授與セラル同年八月内務省乙第七十六號ヲ以テ維新以來官廳及地方公立病院ニ奉職シ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタルモノハ志願ニ依リ試驗ヲ須ヒス免狀ヲ交付スヘキヲ以テ該當ノモノハ十一月十五日限り出願セシム同十五年三月内務省達乙第十四號ヲ以テ從來開業醫ノ子弟ニシテ滿二十五年以上ノ者ニ限り試驗ヲ要セス開業免狀ヲ下付スルコト、ナレリ同十六年十月太政官布告及内務省布達ニ依リ官立及府縣立醫學校又ハ外國大學醫學部同醫學校或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者ノ外ハ開業試驗ヲ受クルニアラサレハ免狀ヲ附與セサルコト、ナリシモ從前醫術開業ノ者ハ内務省免許ト地方廳免許トニ拘ハラス其効ヲ有セシムルモノトス同十七年一月内務省達ニ依リ從前府縣廳ニ於テ下付シタル開業許可ノ証ヲ有スル者ハ更ニ内務省免狀ヲ授與スルコト、トス同十八年太政

官布告アリ種痘規則ヲ定メラシメ以テ種痘規則ヲ廢止ス同十九年三月醫師專門免狀齒科醫科除クヲ有スル開業醫ハ醫科普通ノ治療ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ布達ス同二十年一月醫師取締規則ヲ設ク同三十九年五月法律第四十七號ヲ以テ醫師法ヲ發布セラレ亞テ同年十一月内務省令第三十三號ヲ以テ醫師會規則ヲ發布セラレタルニ依リ同四十年二月以降各郡市ニ醫師會ヲ設立シ終ニ之ヲ統一シテ縣醫師會ヲ設立ス

藥劑師開業ニ關スル沿革

明治九年七月藥舖心得ヲ布達シ該營業者ニ鑑札ヲ付與ス同十年三月藥舖開業試驗法ヲ設ク同十四年九月更ニ藥舖試驗及其營業取締規則ヲ設ク同二十二年三月法律及内務省令ヲ以テ藥劑師試驗規則ノ發布アリ依テ本縣ノ假免狀ヲ有スル者ハ自然其効ヲ失ヒシカ從前内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師トシテ其効ヲ認メラル同三十九年九月藥劑師勳能屆方ヲ定ム同四十年四月法律ヲ以テ藥品營業並ニ藥品取扱規則ヲ追加改正セラレ同四十一年十二月藥種商製藥者取締規則ヲ定

產婆開業ニ關スル沿革

附看



明治九年十二月産婆心得ヲ設ケ最寄醫務調査係ノ試験ヲ受ケ其保證書ヲ以テ鑑札  
 ヲ請ケシメ且産時ニ於ケル取扱方等ヲ定ム同十四年八月産婆取締規則ヲ定ム同二  
 十四年六月産婆取締規則ニ改正ヲ加ヘ同二十五年七月産婆取締規則ヲ訂正シ内務省  
 免許ハ試験科目ヲ定メ毎年一回縣廳ニ於テ試験シ内務大臣ノ免狀ヲ授與シ本縣免  
 許ハ縣立若クハ公立病院ノ試問ヲ經タル者ニ免狀ヲ授與ス同三十一年八月本縣ノ認  
 可ヲ得タル産婆養成所ヲ卒業シタル者ハ試験ヲ用ヒス本縣産婆免狀ヲ授與スルコ  
 トニ定ム同三十二年七月勅令ヲ以テ産婆規則ヲ公布セラレ且内務省令ヲ以テ産婆  
 名簿登録規則及産婆試験規則ヲ定メラレ免狀下付ノ制ヲ廢シ試験規則ニ依リ地方  
 廳ニ於テ舉行スル試験ニ合格シタル者ハ其合格証ヲ以テ地方廳ノ産婆名簿ニ登録  
 シ開業シ得ルコト、ナレリ同三十八年三月産婆看護婦養成規程ヲ定ム

産婆及看護婦ノ養成並ニ其成績

從來ノ習慣トシテ産家ニ於テ或ハ無免許ノ老嫗ヲ迎ヘ産婆ノ事ヲ行ハシムルヲ以  
 テ自カラ産兒ノ發育ヲ害シ産婦ノ健康ヲ傷ケ夭折又ハ非常ニ難ル、モノ少シトセ  
 サルニ依リ之レカ匡濟ノ法ヲ講スルハ刻下ノ急務ナルヲ認メ明治三十一年三月産  
 婆養成所設置準則ヲ設ケ醫師及有志ヲ勸誘シ縣下ニ七ヶ所ノ養成所ヲ設置セシメ

三十一年度養成所補助トシテ各一ヶ所ニ地方税ヨリ金貳百五拾圓ヲ交付シ修業期  
 間ヲ六ヶ月ト定メ各所ヲ通シ同年度内二回ニ二百二十二名ノ生徒ヲ養成セリ尋テ  
 三十二年度ニ於テ時勢ニ鑑ミ産婆ノ外看護婦養成ノ必要ヲ認メ各養成所ニ於テ前  
 半年ハ看護婦後半年ハ産婆ヲ養成スルノ計畫ヲ立テシカ勅令第三百十五號ヲ以テ  
 産婆規則ヲ發布セラレ一ヶ年以上ノ修業ヲ爲シタル者ニアラサレハ産婆試験ヲ受  
 クルヲ得サルコト、ナリ已ムナク看護婦ノミヲ養成シ産婆ノ養成ヲ停止セリ而テ  
 看護婦ノ修業期ハ三ヶ月ト定メ二回ニ百七十五名ヲ養成ス翌三十三年度ハ前年ノ  
 勅令ニ依リ産婆養成期間ヲ一ヶ年ニ延長シ且看護婦修業期間モ頗ル短期ナルヲ以  
 テ之レヲ六ヶ月ニ延長シ又養成所ノ數多キニ過キ或ハ統一ヲ缺クノ嫌アルヲ以テ  
 大日本私立衛生會高松支會、同上九龜支會ノ各附屬産婆看護婦養成所ノ二ヶ所ニ減  
 シ縣費ヨリ各金參百圓ヲ補助シテ縣下一般ノ志願者ヲ收容ス其年度内ニ於ケル養  
 成數ハ産婆科二十六名看護婦科四十名ニ及ヒ既往ノ養成者ヲ合シテ産婆二百四十  
 八名看護婦二百十五名ヲ得タルヲ以テ一旦其養成ヲ中止シタリキ然ルニ舊來開業  
 ノ産婆ハ多ク老年ニシテ漸次其數ヲ減シ看護婦亦三十五年ノ虎疫流行ニ際シ一般  
 不足ヲ感シケレハ同年九月郡市長ニ於テ郡市費ヲ以テ更ニ養成所ヲ設立ス可キ旨



ヲ訓令シ三十六年度ニ到リ小豆郡ヲ除ク外郡市費ヲ以テ養成ノ計畫ヲ立テ縣費ヨリ各金百圓ノ補助ヲ與ヘ産婆専修十名産婆看護婦兼修五十八名看護婦専修五十四名ヲ養成セシカ三十七年度ハ全ク之ヲ縣ノ事業ニ移シ金五百圓ヲ交付シテ高松市ニ其養成ヲ囑托シ産婆四名看護婦十七名ヲ養成シタルノ外香川郡ニ於テ郡費ヲ以テ單獨養成所ヲ設置シ産婆専修一名看護婦五名及産婆看護婦兼修七名ヲ養成ス同三十八年四月高松市立病院内ニ縣立産婆看護婦養成所ヲ設立セシカ同四十年四月南立病院廢止ト共ニ日本赤十字社香川支部病院内ニ移轉ス但綾歌郡ハ引續キ郡費ヲ以テ之ヲ養成セリ

### 入齒齒抜口中療治

從來ハ自由營業トシテ之ヲ放任シタルモ醫治ノ一部分ニ屬スヘキモノニシテ斯術ノ巧拙ハ齒牙ノ健否ニ關係ヲ及ホス事大ナルヲ以テ明治十一年四月之カ取締方法ヲ設ケ該營業者ハ醫務取締ノ試験ヲ受ケ其保證書又ハ免許ヲ受ケ且醫員ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ施術スヘカラサルコトニ定ム同十六年二月齒抜營業取締規則ヲ定ム同十七年三月齒抜營業取締規則ヲ改正ス同二十年一月更ニ入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則ヲ設ク同三十五年二月更ニ其取締規則ヲ改正ス

### 針灸術

明治十年三月針治一派ヲ以テ業ト爲スモノハ醫務調査係ノ届出ニ依リ追テ免許證札ヲ附與スヘキヲ布達ス同十一年二月針治心得ヲ布達ス同十四年八月針治灸治營業取締規則ヲ定ム同二十年一月針灸術取締規則ヲ改正ス同三十五年二月更ニ針灸取締規則ヲ改正ス

### 防疫

明治九年十一月傳染病豫防法心得ヲ布達ス同十一年三月豫防消毒ニ要スル藥劑ニシテ一般ノ豫防ニ關スルモノハ區費ヲ以テ之ヲ購求シ各區務所ニ常置シ貧困者ノ救濟船舶ノ検査避病院検査所等ニ於テ之ヲ使用スルコトニ定ム同十二年六月虎列拉病豫防費中官費ノ支辨ニ屬スル條項ヲ各郡ニ達ス同年七月虎列拉病者ノ吐瀉物其他病毒ノ汚染スルモノ、運搬手續ヲ定ム同年八月検査委員職務心得ヲ改正シ且検査係心得ヲ定ム同十三年四月頻年惡疫流行ノ慘狀 叙聞ニ達シ縣下衛生費トシテ内庫金一千圓下賜アルヲ以テ此恩賜金ヲ基本トシ各自應分ノ豫防費ヲ募集シ病源ヲ未萌ニ防禦スヘキ旨ヲ布達ス同十四年十月太政官布告傳染病豫防規則第十三條ニ依リ船舶検査ノ手續ヲ定ム同十六年三月傳染病ニ罹リタルモノ赤貧ニシテ療



養ノ資力ナキモノハ地方税ヲ以テ支辨スヘキヲ布達ス同十八年九月赤痢病隔離消毒施行順序ヲ定ム同十九年一月傳染病ニ罹ル赤貧者取扱手續ヲ定ム同二十年九月傳染病ニ罹ル赤貧者地方税救済及赤貧者取扱手續等ノ布達ヲ廢シ更ニ治療手當費額并ニ取扱手續ヲ定ム同二十四年四月内務大臣ヨリ傳染病豫防心得訓令ニ付従前右ニ抵觸スル訓令及達ヲ廢シ且衛生組合ヲ設ケ隣保相互ニ豫防ニ注意セシム同二十五年四月傳染病患者届出手續ヲ改正ス同二十六年九月赤痢病豫防消毒取扱手續ヲ定ム同年十二月臨時清潔法施行手續ヲ定ム同二十七年五月訓令ヲ以テ客年訓令天然痘豫防消毒取扱手續ヲ改正ス同年六月赤痢病豫防係ヲ置キ市町村ニ豫防設備ヲ警告ス同年八月縣廳内ニ赤痢病豫防部ヲ置キ各郡役所ニ其支部ヲ設置ス同二十八年一月清潔法施行規則及同施行手續ヲ定メ市町村傳染病豫防費ノ負擔ヲ明ニスル爲メ訓令ヲ發シ之カ負擔規程ヲ定ム同年五月本年勅令第四十四號及内務省告示第五十八號ニ依リ縣廳内ニ臨時檢疫部各郡ニ臨時傳染病豫防部ヲ開設シ且虎列拉病豫防消毒手續ヲ定ム同二十九年三月貧困者救済規則ヲ設ク同年七月避病院管理方法ヲ規程ス同三十一年一月地方税ヨリ傳染病豫防費ノ支出ニ對スル補助歩合ヲ規定ス同年同月市町村傳染病院隔離病舎建築ニ付キ縣費ヲ以テ補助スヘキニ依リ其

設計ハ知事ノ認可ヲ受ケシムルコト同三十二年十二月ベスト豫防上其發生ヲ速知スル手段トシテ鼯鼠ニ對シ縣廳ニ於テ細菌検査ヲ施行ス同三十三年六月縣令ヲ以テ沿海及樞要町村ニ於テ家鼠ノ一齊驅除ヲ命シ同時ニ驅除ノ方法ヲ郡市町村及警察本分署ニ訓令ス同三十五年七月傳染病豫防法施行細則ヲ改正ス同年八月檢疫委員職務章程ヲ制定シ處務順序ヲ定ム同三十九年三月ベスト豫防方法施行手續ヲ定ム同年九月學校トラホーム豫防規程ヲ定ム

### 虎列拉病

明治十二年七八月ノ交虎列拉病流行セシヲ以テ人衆ノ集會又ハ祈禱祈念ノ爲メ神輿ヲ昇キ大般若經ヲ持運ヒ道路ヲ横行スル等ノ事渾テ差止ムヘキ旨ヲ布達ス同十六年秋季該病流行ス同十九年五月以降亦該病流行ニ付衛生上有害ト認ムル飲食物ノ販賣ヲ差止メ仍現品ヲ棄却セシム同二十三年八九月ノ交該病猖獗ナルモ十月ニ至リ漸次衰退ス同二十八年五月以降該病頗ル流行ス同三十一年秋季該病始テ那珂那象鄉村ニ二名ノ患者ヲ出シ爾後各郡總數十一名ヲ發生セシモ蔓延セステ終熄ス同三十五年八月初旬始テ眞性ナル該病發生ヲ見ル明治十六年以降四回流行シ毎回二千人以上ノ患者ヲ出タセシカ殊ニ本年ノ如キハ實ニ全國ニ於ケル流行ノ中心



タリ今其狀ヲ左ニ概記ス可シ

清國廣東及香港地方ニ流行セシ虎列拉病カ臺灣ヲ經テ九州地方ニ侵入スルヤ本縣ハ九州各地ト海上交通ノ衝路ニ當ルヲ以テ該地方ヨリ來レル船舶ニ對シ最モ注意警戒シツ、アリシカ内務大臣ヨリ豫防警戒ニ關スル訓電アリ是ニ於テ先ツ縣令ヲ發シ虎列拉類似ノ症ニ對シ豫防法ノ全部ヲ適用シ検査委員ノ數ヲ増シ海上ハ高松多度津河港ニテ船舶ノ検査ヲ施行シ陸上ハ那市町村ニ訓令シ豫防委員ヲ置キ衛生講話會ヲ開キ清潔法ヲ勵行シ急性病者ノ死亡ヲ調査シ傳染病院隔離病舎ノ準備其他豫防消毒上各般ノ注意ヲ爲サシメ一面ニ警察官吏ヲシテ檢病的戶口調査ヲ爲シ且市町村豫防委員ノ任務ヲ監督セシメ略検査豫防ノ設備完成ス然ルニ八月二日以後吐瀉兼發ノ類似患者續發ス此時岡山縣ニ於テ多數ノ患者ヲ發生シタル旨ノ報告アリシカ岡山縣ト本縣トハ橋ニ一衣帶水ヲ隔ツルノミニシテ船舶ノ往來續ルカ如クナレハ病毒ノ本縣ニ傳播スル殆ント免ル可カラス其數日前岡山ヨリ歸縣シ吐瀉病ヲ發シタルモノヲ發見セシニ鏡檢ノ結果コレヲ病菌ヲ認メタリ是ヨリ高松丸船ノ患者モ亦病菌ヲ發見シ續テ那部ニ傳播スルニ至レリ是ヨリ先キ船舶ノ検査範圍ヲ擴張シ沿海樞要ノ地ニ見張番所ヲ設ケ出入ノ船舶ニ就キ充分ノ注意ヲ加フルモ其

主ナル目的ハ九州ニ在テ隣接スル岡山ヨリ病毒ノ侵入セシコトハ豫想外ナリシヲ以テ種々ノ設備モ其効ヲ奏スル能ハサリキ已ニ斯ク病毒ノ侵入ヲ覺知シタルヲ以テ速ニ検査委員ヲ増加シ検査醫師ヲ各地ニ配付シ丸龜高松ニハ直ニ検査事務所ヲ設置シ續テ各郡亦同事務所ヲ設置スルコト、シ且市町村ニ健康診斷ヲ勵行セシメ又海陸交通ニ注意シ有害飲食物ノ販賣並ニ多衆群集スヘキ人事ヲ停止シ一般人民ニ對シ衛生事項ヲ諭告シ猶私立衛生會ヲシテ此諭告ノ周到ヲ計ラシムルモ當時恰モ衆議院議員撰舉ノ競争盛シナレハ警察官ノ如キ右ニ虎列拉ノ豫防ニ勉メ左ニ撰舉ノ取締ヲ爲シ晝夜職責ヲ盡セシモ市町村吏員ノ如キハ往々撰舉ノ競争ニ熱中シ他ヲ顧ミサリキ殊ニ一般ノ人民ニ在テハ意ヲ撰舉競争ニ傾ケ恐ルヘキ病毒ノ豫防ヲ怠慢ニ付スルノ實況ナリシカハ追日病勢猖獗ヲ極ム且孟蘭盆會ニ際シ岡山地方へ出稼ノ職工等續々歸縣セシ爲メ益患者ノ數ヲ増シ寒心ニ堪ヘサリシカ總撰舉モ終了シケレハ一般人民モ更ニ狼狽シテ豫防ノ必要ヲ自覺セリ是ニ於テ各郡市長及警察本分署長ヲ急遽召集シテ親シク防疫ノ方針ヲ授ケ検査事務所ヲ擴張シ應急ノ設備ヲ爲シ検査委員職務章程ヲ制定シ處務順序ヲ定メ豫防ノ完成ヲ期セリハフキ



キ者ヲ撰テ之レニ注射セシカ更ニ五百燦到着シタルハ廣ク各郡市ニ類チ委員人夫等ヨリ患者ノ家族並ニ其近隣ニ向テ注射シ更ニ狀ヲ具シ下附ヲ申請シ之カ注射ヲ續行ス其數實ニ二十万七千餘人ニ達セリ當初ヨリ十一月十八日ニ至ルノ間ニ於テ眞性ノ患者二千七百四十五人ヲ出シタリ此内死亡スル者千七百八十四人ニシテ全ク終熄セリ同四十年九月大阪神戸及福岡縣ヨリ歸縣シ該病ニ感染セシモノ十二名アリシモ蔓延ノ厄ヲ免カレタリ

### 腸窒扶斯

腸窒扶斯ハ古來年々多少ノ流行アリシカ近年ニ至リ明治二十三年ヨリ二十六年ニ至ルノ期間ニ於テ毎年患者ヲ出タセルヲ以テ同二十七年三月前年訓令赤痢豫防消毒取扱手續ヲ適用セシム同二十九年三四月ノ交初輪足郡ニ發シ四方ニ蔓延シ終ニ縣下細民部落トシテ其侵襲ヲ蒙ラサルモノ殆ント之レナキニ至ル然ルニ從來ノ腸窒扶斯ト稍其症狀ヲ異ニスルノ點アリ爲メニ甲醫ハ流行性感冒ト爲シ乙醫ハ腸窒扶斯ト爲シ診斷一定セズ依テ屢檢診ヲ重ネタル結果全ク再歸熱ナルコトヲ發見シタリ蓋再歸熱ハ古來未ダ嘗テ本邦ニ發生流行セシコトナカリシカ征情ノ役ニ當リ時清國ヨリ輸入シタルモノナルヘク突然本縣ニ於テ之カ發生ヲ見ルニ至レリ抑該

病ノ特性タル傳染ノ力最モ猛烈ニシテ殊ニ貧民ノ集窟ヲ侵スヲ常トシ一度ヒ貧民ノ部落ニ入レハ其全部ヲ侵襲スルニ非ラサレハ止マス即國ノ元資タル勞働者ヲ襲フカ爲メ農工等ノ發達ヲ阻碍スル少ナカラス是ヲ以テ歐洲ニ在テハ特ニ意ヲ用ヒ之レカ防遏ニ努ムルモノ、如シ本縣ニ在テモ其容易ナラサルヲ認メシヨリ主務大臣ノ裁可ヲ得テ四月以來明治十三年布告傳染病豫防規則第一條但書ニ依リ再歸熱豫防規則ヲ布キ專心之レカ防遏ニ努メタルモ如何セン病毒既ニ全縣ニ蔓延シタル後ナリシヲ以テ該規則發令已後ノ患者總數終ニ四千〇百八十九名ニ至レリ而テ其始テ本縣ニ輸入シタルノ初期ヲ追求スルニ既ニ二十八年八月九月ノ交那珂郡ニ侵入シタリシモノ、如シ其腸窒扶斯トシテ届出タルハ最早流行ノ中期ニ屬シ再歸熱トシテ發見セシハ流行ノ終期ニ屬シタルモノトス其初那珂郡ニ入りタルハ蓋軍夫ノ金刀比羅宮ニ詣ツルモノヨリ之ヲ傳ヘ漸次蔓延ヲ見ルニ至リタルモノ、如シ今茲ニ謂テ該病患者ノ數ヲ推算スルニ凡一万人已上ヲ算ス却テ腸窒扶斯ニ至リテハ届出總數ハ二千三百八十八人ニ上ルニ止マリ實際再歸熱ヲ誤診シタルモノ多クシテ該病ハ實數僅カナルヤ疑ナク同二十九年ハ該病總數僅々一百二十名ニ止マリキ同三十四年三豊郡桑山村ニ於テ一時流行性ニ發生シタルモ他ノ市町村ニ在テハ散在



性ニ發生シ格別ノ流行ヲ見ナシ同三十五年中亦五十四名ニテ終熄セリ同三十  
 六年ニアツテハ僅ニ百五十三名ニテ終熄セリ同三十七年亦特ニ少ナクシテ八十三名ヲ  
 出タセシノミナリ同三十八年ハ患者數百九十四名ニシテ内死亡者四十六名ナ  
 リ同三十九年ニ持越ス者十三人トス抑同年最初ハ一部落ニ稍流行ノ狀ヲ呈シタル  
 モ多度郡普通寺町ニ一時ニ二十五名ヲ出シタルト高松市ニ二十一名ヲ出シタルニ  
 過キス其他ノ各郡市ハ一二名若クハ四五名ノ點發ニ過キス同四十年ハ一月ヨリ七  
 月マテニ少數ノ患者點發スルノミナリシカ八月ヨリ十一月ニ至ルノ間ニ於テ木田  
 香川仲多度高松ノ各郡市ニ稍多數ヲ發生セリ同四十一年ハ總數九十七名ニシテ死  
 亡二十二名トス

### 赤痢病

赤痢病ハ殆ント本縣ノ地方病タルヲ以テ從來年々發生スルモ今左ニ其著キモノヲ  
 舉レハ明治二十九年梅雨後降雨多ク爲メニ用水ヲ汚濁セシヲ以テ該病續發シ其數  
 三千百九十九名ノ多キニ上レリ同三十一年七月モ亦頗ル多ク其數千六百二十七名  
 ヲ出タセリ同三十二年ハ毎年多數ノ患者ヲ發生セシヲ以テノ故ニ三十二年始テ本  
 縣ニ一名ノ醫師ヲ置キ豫防救治ノ事務ニ當ラシメ或ハ市町村醫師ノ指導監督ヲ掌

ラシメシカ三十二年ニ在テモ初發以來七百十九名ヲ出タセリ同三十三年大ニ流行  
 シ其數一千〇五十名ノ患者ヲ出タセリ同三十四年六月三豊郡五郷村ニ發生シ七月  
 ニ至リ大川郡志度町ニ發生シ木田郡ニ傳播シ東西一時ニ流行ヲ逞フスルモ中間ノ  
 市町村ハ大ナル流行ナカリキ同三十六年六月三豊郡財田村ニ該病蔓延ノ狀アルニ  
 付局部ニ撲滅ヲ圖ルヘキヲ訓令ス同年七月仲多度郡ニ發生セシカ本年ハ陸軍機動  
 演習アルニ際シタルハ同郡ニ檢疫委員事務所ヲ設置シ尙高松丸龜坂出普通寺多度  
 津琴平詫間ノ各市町村ニ便所下水路ニ石灰消毒ヲ施シ貧民部落ニ大清潔法ヲ施行  
 セシム同三十七年五月木田郡古高松村ニ該病發生ニ付縣廳及各郡市ニ檢疫委員ヲ  
 配置シ疑似症ニ對シ豫防法適用ノ令ヲ發ス同年六月該病遂ニ應召軍人ノ多數宿舍  
 スル琴平町ニ發生シタルヲ以テ直チニ同町ニ豫防委員ヲ設置シ尙軍隊ノ宿舍輸送  
 等ニ關係アル丸龜市及綾歌郡ノ内川西村ニ臨時清潔法ノ施行ヲ命ス此年患者僅ニ  
 二百十一名ニシテ終熄セリ同三十八年四月仲多度郡多度津町ニ發生シ五月ニ至リ  
 同郡十郷村ニ傳播シ六月中旬ヨリ香川郡鷺田村ニ流行ノ狀ヲ呈シ總患者七十二名  
 内死亡九名アリ之ヲ縣下本年ノ第一位流行地トス次ニ七月仲多度郡白方村ニ流行  
 シ總患者三十八名内死亡六名ヲ出ス之ヲ第二ノ流行地トス其他各地ニ一二名若ク



ハ數名ヲ散發スルニ止マレリ是年縣下ノ總患者ハ四百十四人ニシテ死亡百五人ト  
 ス同三十九年三豊郡ノ一部ニ流行ヲ逞フシ患者二百四十一人死者七十人綾歌郡ノ  
 一小部ニ患者九十八人死者十七人其他各地ニ散發セリ縣下總患者四百十二人死者  
 百〇八人トス同四十年八月該病流行ノ兆アルヲ以テ同病疑似症ニ對シ傳染病豫防  
 法ノ全部ヲ適用ス本年ハ六月香川郡檀紙村ニ一名發生セシヲ始トシ八月ニ至リ各  
 郡市ニ散發シ九月ヨリ十二月ニ及ヒ漸次減退ス總患者一千二百二十六名ニシテ死  
 亡三百九十一名トス同四十一年總患者七千三百九十八名死亡二千百六十名アリテ  
 頗ル猖獗ヲ極メタリ

ヘ ス ト

明治二十九年十一月臺灣臺北ニ於テペスト發生シ傳播ノ兆アルヲ以テ内務大臣ノ  
 訓令ニ基キ高松多度津二港ニ於テ有病地ヨリ來ル船舶ニ注意セシメ海港檢疫所ニ  
 於テ檢疫ヲ施行シ傳染病豫防規則ニ準シ豫防法ヲ施行スヘキヲ訓令ス同三十二年  
 十一月廣島及神戸ニ該病發生ニ付同港ヲ經テ來レル船舶ニ對シ高松多度津及小豆  
 郡坂手港ニ於テ檢疫ヲ開始ス後大阪市ニ蔓延セシヲ以テ同地方ヨリ來ル船舶ニモ  
 檢疫ヲ施行シ以テ一般ニ豫防心得ヲ示シ更ニ該病疑似症ニ豫防法ヲ適用シ鼠族ノ

棲息ニ關係アル古着襪等ノ神戸其他該病流行地ヨリ輸入スルモノニ對シ之カ輸  
 入ヲ停止シ且家鼠ノ死体及捕獲鼠族ノ届出ヲ命シ一定ノ場所ニ於テ之ヲ燒棄セシ  
 ム同年十二月内務大臣ノ訓令ニ基キ船舶檢疫ヲ行ヒ清潔消毒ヲ施シ驅鼠ヲ命スル  
 等豫防上ノ手段ヲ盡シ且鼯鼠ニ對シ縣廳ニ於テ細菌検査ヲ施行ス同三十三年五月  
 大阪市ニ再ヒ蔓延ノ兆アルヲ以テ更ニ豫防法ヲ措置ス同年十二月又大阪市ニ該病  
 發生セシヲ以テ船舶検査ヲ開始シ家鼠ヲ驅除シ急性病死者ノ調査有病地ヨリ上陸  
 スル者ノ健康診斷等ニ關シ訓令ス同三十六年一月海外ヨリ輸入スル棉花ヲ使用ス  
 ル紡績會社其他ニ對シ豫防ヲ嚴行スヘキヲ訓令ス同年五月横濱ニ發生セシヲ以テ  
 豫防法ヲ施行スヘキ旨ヲ各警察本分署ヘ訓示ス同三十七年十二月神戸ニ發生ス依  
 テ驅鼠ノ勵行急病死者ノ検査船舶ノ注意ヲ獎勵ス同三十八年五月二十八日綾歌郡  
 王越村ニ該病發生シ六月十六日マタニ三十二人ノ患者ヲ出シ内二十一人死亡セリ  
 其病毒輸入ノ系統ニ付テハ茫遊トシテ探究スルヲ得ス越テ十二月九日多度津港ニ  
 於テ帆船ノ水夫一名發病死亡セリ同船ハ十二月六日大阪市ヲ發シ同月七日多度津  
 ニ入港セシモノナルヲ以テ病毒ノ系統ハ大阪市タルコト疑ヲ容レヌ又同月十六日  
 神戸市ヨリ三豊郡上勝間村ヘ歸來セシ男一名該病ニ罹リ死亡ス以上ノ如キヲ以テ



極力鼠族ヲ驅除シ死体檢案戸口調査ヲ嚴密ニシ一般ニ鼠ノ届出ヲ命シ悉ク本廳ニ於テ鏡檢シ沿岸市町村其他必要ノ地ニ檢疫官若クハ檢疫委員ノ醫師ヲ配置シ且船舶ノ檢疫等ヲ勵行ス爾後患者ハ勿論有菌鼠ヲモ發見セザリキ同三十九年十一月十三日中國航路ノ船員發病後多度津町ノ自宅ニ歸營中該病患者ナルコトヲ發見セシモ幸ニ病毒ヲ局部ニ撲滅セシヲ以テ爾後患者又ハ有菌鼠ヲモ發見セス

### 天然痘

明治二十六年一月大阪兵庫等ニ天然痘流行蔓延ノ兆アリシヲ以テ各市町村ニ鏡意豫防ヲ爲サシメ同時ニ種痘ヲ勵行セシム同二十七年三月隣縣ニ於テ該病流行ノ兆アルノミナラス那珂郡九龜町ニ數名ノ患者發生セシヲ以テ同町ニ限リ年齡十五年未滿ノ者ニ二週間以内ニ臨時種痘ヲ施行セシム同二十九年十二月該病蔓延ノ虞アルヲ以テ又種痘ヲ勵行セシム是年患者總數二百五十名ニ及フ未曾有ノ大流行トス同三十七年二月長崎熊本新潟ニ該病蔓延ノ兆候アルヲ以テ種痘ヲ勵行セシム同三十八年一月長崎其他ニ流行スルヲ以テ春季ノ種痘ヲ繰上ケ急施セシム同四十一年三月以來該病流行其勢猖獗ナルヲ以テ隱蔽患者ノ摘發檢疫的戸口調査等種々ノ方法ヲ講シ四十五歳以下ノ者ニ臨時種痘ヲ施行ス是年患者總數五百六十一名ニシテ

内四十六名死亡ス

### 實布的里亞

實布的里亞ハ年々多少ノ患者ヲ發生スルモ近年ニ至リ明治三十六年該病ニ罹ル者百十六名アリ同三十七年中ハ九十一名同三十八年ハ毎ニ冬期ニ發生セシモ本年ハ盛夏ニ於テ往々發生ス總患者九十五人内死亡三十五人トス同三十九年患者八十八人死亡三十九人アリ同四十年ハ患者百八名ニシテ死亡スル者三十九名同四十一年患者百六十九名ニシテ死亡七十八名アリ

### 猩紅熱

明治三十二年及三十三年各一名同三十九年三名ノ患者ヲ發ス同四十年ニ在テハ一名ノ患者アルモ傳染セザリキ

### 顆粒性結膜炎

本縣下ニ於ケルトラホームノ流行ハ明治三十二三年ノ交徵兵検査及小學校生徒体格検査等ヨリ發見セシカ其蔓延ノ状態頗ル甚シキモノアリ是ニ於テ同三十二年告諭ヲ發シ本病ノ原因症候ノ經過等ノ大要ト共ニ豫防法ノ概要ヲ公示シ之レカ注意ヲ促セルヲ初メトシ爾來年々市町村醫ヲシテ各戸検査ヲ行ハシメ或ハ便宜ノ場所



ニ公衆ヲ集メ豫防療養上ノ講話ヲ試ムル等諸種ノ手段ヲ以テ之カ豫防制遏ニ賜メ  
 タリト雖モ病根ハ深ク浸淫シテ蔓延亦迅速ナリ追々患者ノ數ヲ増加シテ殆ント底  
 止スル所ヲ知ラサルモノ、如シ殊ニ壯丁ニシテ單ニ本病ノ爲メ徵兵不合格トナルノ止  
 ムヲ得サルモノ多數ニ上リ終ニ定數ノ應召者ニ不足ヲ告ケントスル傾向ヲ示スニ  
 至レリ是ニ於テ特ニ壯丁ニ對シ同三十五年七月訓令ヲ發シ救治ノ策ヲ講シタリシ  
 カ豫期ノ效果ヲ收ムルニ至ラザリキ次テ同三十七年度ニ至リ豫防制遏ニ對スル特  
 別機關設備ノ必要ヲ認メ約金七千圓ノ調査費ヲ支出シ該病調査會ヲ組織シ專任調  
 査員ヲ招聘シテ縣下ヲ巡回セシメ各郡市ニ臨時調査所ヲ設ケ總テ無料治療ト爲シ  
 且該病ニ關スル諸般ノ調査ヲナサシメ以テ完全ナル撲滅法ヲ攻究セシムルノ計畫  
 ヲ立ツルト雖モ時偶露國ト露端ヲ啓キ軍國多事經費緊縮ノ爲メ調査費ヲ半減スル  
 ノ止ムナキニ至レリ同年三月臨時縣會ニ於テ金參千參百餘圓ノ調査費ヲ支出スル  
 ニ決議シ終ニ前計畫ヲ縮少シ兵役關係者ノミノ豫防救治ヲ辦ス即チ各郡市ヨリ開  
 業醫十八名ヲ撰定シ東京帝國大學醫科大學ニ於テ河本教授ニ就キ講習ヲ受ケシメ  
 歸縣ノ後ハ専ラ壯丁ノ檢疫治療ニ從事セシメタリ其疑似症ト診斷セシモノニ對シ  
 市町村長ヨリ治療証票ヲ交付シ醫師ノ治療ヲ請フ可キ旨ヲ諭示シ且時々吏員ヲシ

テ該証票ニ依リ其治療ヲ受ケ居ルヤ否ヲ調査セシムルコト、爲シ猶患者中貧困ナ  
 ルモノハ市町村長ヨリ証明書ヲ附與シ檢診醫ノ治療ヲ受ケシメ又隣保ノ扶助ヲ以  
 テ便宜治療ヲ受ケシムルコト、爲シ而テ患者ノ治療成績ヲ軍隊ニ通知シ又軍隊ニ  
 於テハ入營又ハ徵兵検査ノ際治療証票ヲ點檢スル筈ナルヲ以テ入營ノ際若クハ徵  
 兵検査ノ時該証票ヲ各自ニ携帯セシムル等ノ規程ヲ定メ傍ラ各郡市町村長並ニ警  
 察本分署長ニ對シ之カ實行ニ遺算無カラシム此方法ヲ實施シタル成績ハ頗ル良好  
 ナリ同三十八年度ニ於テモ開業醫ヲ撰拔シテ上京ヲ命シ講習ヲ受ケシメ檢疫醫ヲ  
 囑托セリ同年度以後四十一年度ニ至ル迄其檢診期日ニ多少ヲ變更シタルト檢診ヲ  
 行フヘキ兵役關係者中ヨリ在郷軍人ヲ削除セシ他ハ凡テ前規程ニ遵ヒ着々實行シ  
 極力之レカ豫防制遏ニ盡セリ

明治十六年已降各傳染病總計表

病名別	年次		大川郡	木田郡	小豆郡	香川郡	綾歌郡	仲多度郡	三豊郡	高松市	丸龜市	計
	十六年	十七年										
患死者	1	1										2
死亡者	1	1										2















瘡															
三十六年	三十五年	三十四年	三十三年	三十二年	三十一年	三十年	二十九年	二十八年	二十七年	二十六年	二十五年	二十四年	二十三年	二十二年	二十一年
死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患	死患
亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者

痘	新 扶 望 疹 費					病名別
	二十年	十九年	十八年	十七年	十六年	
死患	死患	死患	死患	死患	死患	大川郡
亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	亡者	木田郡
						小豆郡
						香川郡
						綾歌郡
						仲多度郡
						三豊郡
						高松市
						丸亀市
						計







9750

23

45382

トスハ	熱 紅 痘										里實扶的	病名別
	四十一年	四十年	三十九年	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年	三十三年	三十二年	四十一年	年次
死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	死患者	患死別
											三	大川郡
											八五	木田郡
											七四	小豆郡
											三三	香川郡
											五五	綾歌郡
											三三	仲多度郡
											四四	三豊郡
											三三	高松市
											一一	丸亀市
											一一	計

備考 本表丸亀市ハ明治三十二年ニ獨立シタルヲ以テ其ノ以前ノ患者數ハ仲多度郡ニ算入シテ

二七四

貝持入

衆議院  
15.6.20  
圖書館

明治四十三年三月二十三日印刷  
明治四十三年三月二十七日發行

（非賣品）

# 香川縣

印刷者 田村市太郎

香川縣高松市古馬場町四番地

印刷所 田村活版所

香川縣高松市古馬場町四番地







